

京都府埋蔵文化財情報

第 61 号

墓に土器を供えるという行為について(上)-----	深澤 芳樹-----	1
長岡京条坊計画試論—均等宅地型モデルの場合—-----	岩松 保-----	17
共同研究 古代における生産と流通—篠窯跡群を中心として—-----	石井 清司 水谷 壽克-----	38
—平成8年度発掘調査略報—-----		54
<ul style="list-style-type: none"> 1. 黒部遺跡(長芝原地区) 2. 奈具岡遺跡・奈具岡北古墳群・奈具岡南古墳群 3. 浦入西古墳群 4. 長岡京跡右京第526次(7ANKJC-2) 		
府内遺跡紹介 72. 久津川車塚古墳-----		59
73. 宇治二子塚古墳-----		62
長岡京跡調査だより・58-----		65
センターの動向-----		68
受贈図書一覧-----		70

1996年9月

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

墓に土器を供えるという行為について(上)

深澤芳樹

京都でJR山陰線に乗り換え、途中谷の深い保津峡を抜けると、突如青々とした水田が一面に広がり、その上をわたる風の心地よい亀岡盆地に入る。亀岡駅から2つ目、京都駅から25.2kmの地点、すなわち南北15km・東西4kmほどの亀岡盆地のなかほど北寄りに、千代川駅がある。駅のすぐ東には、大堰川がゆったり東南に流れ、この西側、すなわち千原山の南・行者山の北に東へ開いた小扇状地があって、ここに千代川遺跡がある。

千代川遺跡は、京都府亀岡市千代川町にある縄紋時代から室町時代にいたる複合遺跡である。^(注1)樋口隆久氏によれば、この遺跡は東西約1km・南北約2kmにおよぶ。^(注2)1980年以来、京都府教育委員会、京都府埋蔵文化財調査研究センター、また亀岡市教育委員会が、1995年夏までに都合16次におよぶ調査を行ってきた。その結果、土器に凹線紋を飾るようになった弥生時代中期後葉において、西や南のやや小高い場所に方形周溝墓を築き(6・11次)、中央の少し低い場所に竪穴住居跡などを大溝で区切る生活域があり(6次)、さらにこの東の低地部には畦畔の痕跡や足跡が残っていたことからここに水田が広がっていたと推定されている(7次)。このように千代川遺跡においては、生活域・墓域・生産域からなる集落の基本構造の解明が着実に進んでいるのである。

かような千代川遺跡において方形周溝墓が4基みつかつており、このうちの3基からは、葬送儀礼に用いたとおぼしい土器が出土した。墓からは見慣れぬ土器がよく出土する、これはかねてから気になってきたことだ。そこでこの場をかりて、千代川遺跡の方形周溝墓出土土器のなかにも、どの程度他地域の土器が混ざっているか確かめてみたいと思う。そのためには、まず供献土器を決めることからかからねばならない。そして次に、その製作地を推定する。製作地については人が動いて遠く離れた場所で作ることも考えられるので、ひとまずその人の出自、すなわち出身地についてその特定を急ごう。その際、現時点の知識であるのはいうまでもないことだが、形態、紋様、調整法の3つの属性が空間的に重なり合う地域をその出身地とみなし、ある程度地域が限定できた場合に千代川遺跡に最も近い場所をその出身地に割りあてるという立場にたつ。本稿では、紋様は頸・体部、調整法は体部下半部を重視する。そしてできれば中期後葉に千代川遺跡で暮らした弥生人の葬送行為とその交渉域について、一歩踏み込んで考えてみたいと思う。

方形周溝墓 さて千代川遺跡でみつかった方形周溝墓には調査主体や調査回数に違いがあるので、本稿では、各方形周溝墓に仮番号をふっておこう。

方形周溝墓①は、亀岡市教育委員会が第11次調査でみつけた方形周溝墓をさす。調査区の溝SD11は、周溝の南東隅部を含む南溝13.5m分と東溝1.5m分である。溝幅1.5m・深さ0.8mで、

断面形はU字状である。周溝内から完形土器などが納置された状態で出土したという。

方形周溝墓②は、京都市埋蔵文化財調査研究センターが第6次調査No. 5トレンチでみつけた方形周溝墓1をさす。周溝の南東隅部を含め調査区内に南溝が11m・東溝が2.5mかかった。溝は幅1.3m・深さ0.5mで、埋土は黒灰色土の単一層である。南東隅部は幅がやや広がって深くなっており、溝内に土壌のあった可能性も指摘されている。土器はどれも周溝の底から出土した。

方形周溝墓③は、京都市埋蔵文化財調査研究センターが第6次調査No. 7トレンチでみつけた方形周溝墓2をさす。周溝の南東隅部を含め調査区内に南溝が9.5m・東溝が2mかかった。溝幅は1.4m・深さ0.3mで、埋土は黒灰色土の単一層である。南東隅部には、溝内土壌とみられる土壌が2基ある。なお溝底からは土器が6群に分かれて出土した。

方形周溝墓④は、京都市埋蔵文化財調査研究センターが第6次調査No. 4トレンチでみつけた方形周溝墓3をさす。調査区内では、南溝と東溝の一部を検出したにとどまる。南東隅部は調査区外にある。溝幅1m・深さ0.3mで、埋土は黒灰色土の単一層である。なお遺存状態は非常に悪い。溝からは土器が1点出土した。

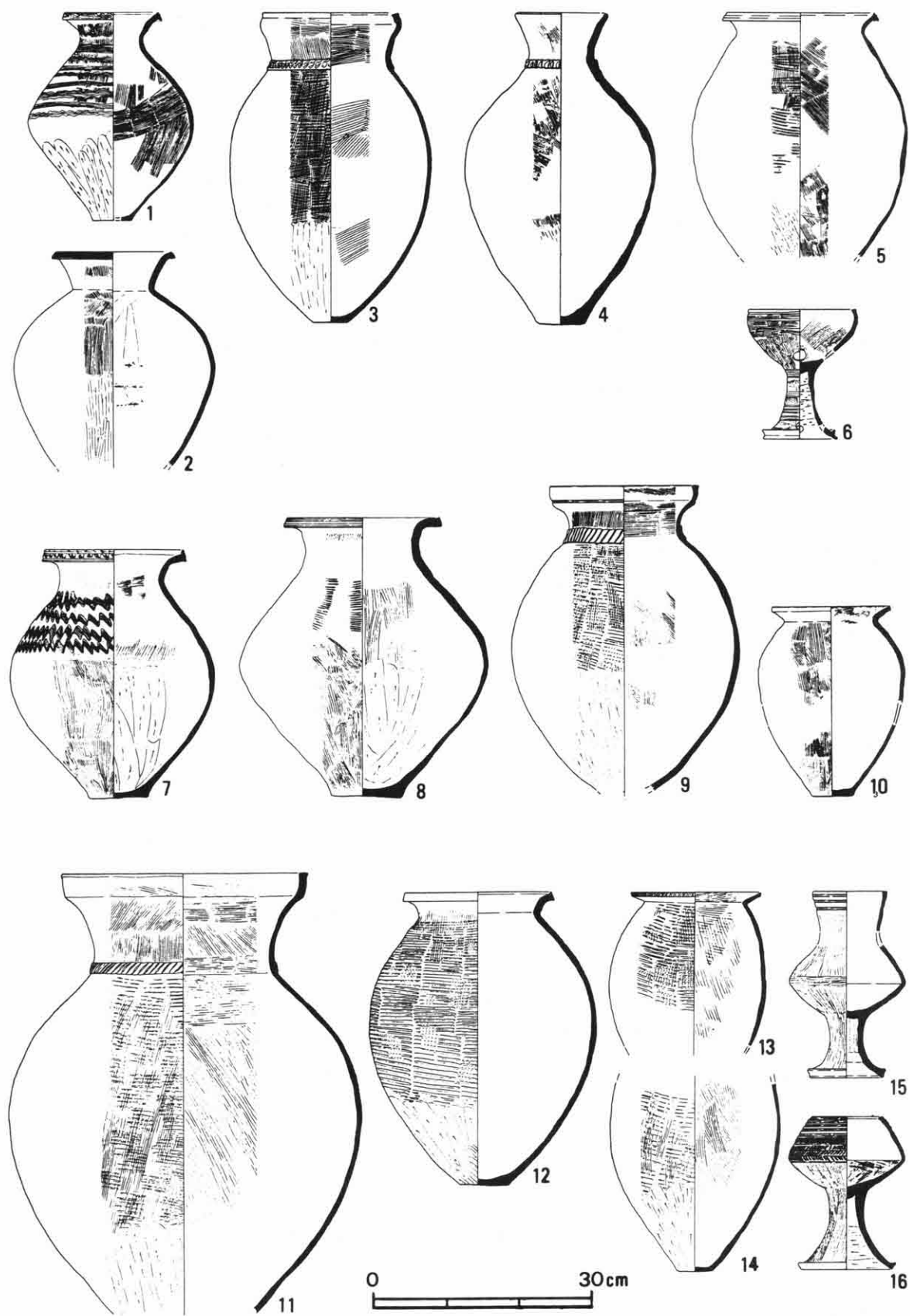
供献土器の特定 ところでたとえ墓から出土した土器でも、実際に墓にかかわるか否か決めるのは簡単ではない。というのは人間の営為ばかりか、自然の営力もが、時には遺物を移動させてしまう^(注3)、つまり墓に無関係な遺物が混入することはいくらでもありうるからだ。

かつて岡村道雄氏は、廃棄を「不用なものとしてまとめてある場所に捨て去る」こと、遺棄を「製作・使用の場に置き去る」ことと定義した^(注4)。この観点にたつて、桐生直彦氏は縄紋時代に火災にあった竪穴住居跡から出土した遺物を具体的に検討し、火災住居跡に遺棄したと認めることのできる遺物に共通する特徴を項目ごとに列挙した^(注5)。この項目に桐生氏は、出土状況、土器の完存率、器形、個体数を挙げた。

私たちが桐生氏のこの見方、すなわち具体的な判断基準をもうけて、項目ごとに検討を加えるという見方にならつて、墓にお供えた土器を、方形周溝墓の周溝内でみつけた土器のなかからピック・アップしてみよう。

まず出土状況だが、そもそも周溝は、墓を空間的に外部と画するためにあるのであって、土器を据え置くための専用の遺構ではなかった点に注意しなければならない。長期間口があいたままの可能性が高いので、墓に関係ない土器が埋まる機会もあったはずだ。そこが不幸にもゴミ捨て場に転じて、不要になった土器が放り込まれるといった事態も想定しておかねばなるまい。さらに周溝には、墓を高く盛り上げるための土の採土場というもう一つ大切な役目もあった。だから方形周溝墓を築いた場所に、もともと包含層や遺構が広がっていたとしたら、そこに含まれていた土器が、周溝の壁から転落したり、一旦は墓上に盛り上げられた土器が周溝に転がり落ちたりすることも充分にあるだろう。だから周溝の性質上、土器の所属時期を検討して時期に明らかな違いのあるものはまず第一に除外しておかねばならない。また掘り直しがあったとしたらどうか。

もし土器が据えつけ穴でみつかるとか据え置かれたことが明白な状態で出土したのなら、築造当初か周溝の埋没途上かはともかく周溝にわざわざ置いた土器であるのは疑いない。



第1図 千代川遺跡出土の供献土器
 方形周溝墓①：1～6、方形周溝墓②：7～10、方形周溝墓③：11～16

土器が据え置かれたままで出土したのであれば問題ないが、そうとはいえない場合はどうだろう。周溝内や墓上に置いた土器は、本来は完形かこれに近い状態であったはずだ。だからもともと周溝内にあったり墓上など至近な地点から転落してきた土器なら、たとえ破れていても完形か完形近くまで接合できていても不思議はない。だが、もし墓から離れた場所に廃棄された土器が、2次3次と移動を繰り返して最終的に周溝にはまったのであれば、その距離に応じて周溝以外にも破片がかなり散らばってしまうはずだ。つまり完存率は、土器が墓にかかわっていたか否かを判断する上で大変重要な基準になろう。本稿では、土器が墓にかかわるとする目安を、半分を越える、完存率6割以上に求めておこう。

また墓に据え置いた土器には、体部や底部などに焼成後打ち欠いてあけた直径1～2cmくらいの円形の小穴がままあいている。近畿地方の中期弥生土器の場合、穿孔土器自体少ない上に、その手法は大抵回転穿孔によっている。つまり生活域での土器の総出土量のなかで打ち欠き穿孔土器の占める割合はごくごく低いのである。しかも出土状態も井戸の底などから完形で出土するなごきわめて特異である。したがって中期の墓域でみつかった土器に打ち欠き穿孔がなされておれば、その土器が墓に伴う可能性を非常に高めることになる。

方形周溝墓の周溝から出土した土器に対して、出土状況・完存率・土器自体の痕跡の各要素から、墓にかかわる蓋然性の高い土器を選び出したとしたら、次に問題になるのが供献土器の選別だ。本稿では墓にかかわる土器のうち土器棺を除いたものを、供献土器とする。合口など蓋のある状態で出土した土器の内部からは、ヒトの骨のみつかった例があるので、蓋のある場合は土器棺と認めよう。そしてこれ以外の、墓にかかわる土器を、本稿ではひとまず供献土器とする。

だが周溝がゴミ捨て場になれば、完形土器だって放り込まれることもあろう。またもとは完形土器であっても、後世に大きく削平されてしまえば、完存率はさがるだろう。だから本稿で墓に伴うとする土器のなかにそれでもなお墓に関係のない土器が混ざっていたり、墓にかかわりのないとする土器のなかに実は弥生人が墓に置いていった正真正銘の供献土器が含まれていたり、さらに供献土器とする土器のなかに土器棺を含んでいたりする不安のあることを、正直にことわっておかねばならない。

これを承知した上で、千代川遺跡の方形周溝墓①・②・③の周溝から出土した土器にさきの基準をあてよう。据え置いた状態でみつかった土器は、方形周溝墓①にあるだけだ。完存率が6割を越えたのは、方形周溝墓①(第1図1～6・無図)、方形周溝墓②(第1図7～10、および上半部を欠いた1点の土器)、方形周溝墓③(第1図11～16、および上半部を欠いた1点の土器)である。このうち1の底面と6の杯部には打ち欠き穿孔があった。かつこの2点を含めて土器はどれも、合口の状態では出土していない。またこれらの土器に大きな時期差は認められない。よって本稿ではここで選び出した土器を、それぞれの方形周溝墓に供献された土器と認めることにしよう。そしてこれ以外の土器は、すべてたまたま周溝内にはまり込んだ土器とみなす。

分析の方針 では供献土器の出身地を問うていきたい。その際形態と紋様については、生活域の遺構から出土した土器に基づき、必要な場合は包含層資料で補って、そのある・なしをみる、

調整法については、墓域の土器も含めてその主体的な手法^(注9)を掘りどころにしよう。

形態と紋様について直接根拠にした遺跡とその遺構を明らかにしておこう。なお近隣遺跡の類例は省略した。また番号は図中の遺跡の番号に一致する。

^(注10)**伯耆**(1.丸山遺跡袋状土壇12・15)

^(注11)**因幡**(2.岩吉遺跡S K-81・83・84・89、3.安田遺跡D-1)

^(注12)**美作**(4.ピシャコ谷遺跡5号長方形住居状遺構、5.崩し塚遺跡建物址1、6.押入西遺跡建物Ⅱ、7.高本遺跡Ⅰ区1号住居址)

^(注13)**備前**(8.用木山遺跡第5・第6支群土器溜り、第8支群第1土器溜り、9.門前池遺跡12住居址上部土器溜り、10.鹿田遺跡土壇254、11.今谷遺跡土壇3・24・27・46、12.兼基遺跡竪穴式住居-15、井戸-8)

^(注14)**播磨**(13.新宮・宮内遺跡H-28坪、Ⅰ-10坪、Ⅱ-3坪、14.養久山・前池遺跡祭祀遺構494-土器群、5-竪穴住居、15.尾崎遺跡7-溝、16.寄井遺跡6号住居址、大溝1、17.川島遺跡土壇10・12、22溝、18.播磨八幡遺跡土壇4、19.六角遺跡S H 5・8、S K 10・107・114・134、P 89・186、S D 4・12、20.溝之口遺跡昭和63年度調査、21.大垣内遺跡溝1・3)

^(注15)**讃岐**(22.久米池南遺跡第2・第3号テラス状遺構、23.浴・長池遺跡1・3区5b砂層)

^(注16)**阿波**(24.桜ノ岡遺跡S K 1016、25.光勝院寺内遺跡1号住居址、26.南庄遺跡19号土壇)

^(注17)**淡路**(27.森遺跡竪穴住居址11・12)

^(注18)**但馬**(28.米里遺跡土壇S K 04、29.仲田遺跡溝状遺構黒色粘質土)

^(注19)**丹後**(30.橋爪遺跡S D 21、31.奈具谷遺跡S D 01、32.途中ヶ丘遺跡溝Ⅳ、33.須代遺跡溝4、34.志高遺跡円形竪穴住居址23、溝27、自然流路に伴う落ち込み部、S H 86201・86203、S K 85201・85206・85212、35.桑飼上遺跡竪穴住居跡24・28・30)

^(注20)**丹波**(36.興・観音寺遺跡S K 07、S D 01、S K 93 D 037・058・070・074・075・180・183、S K 94 B 040・043、S K 94 C 005、S X 93 D 006、37.七日市遺跡：S B 33、S D 32、旧河道1・2、38.谷山遺跡1974年採集資料、39.美月遺跡S R 1、40.千代川遺跡S D 06)

^(注21)**摂津**(41.奈カリ与遺跡東谷区1・11号段状遺構、北斜面区3号溝、42.天神遺跡小溝、43.滝ノ奥遺跡S B 01、44.仁川五ヶ山遺跡包含層、45.口酒井遺跡溝5・7、落込1、46.栄根遺跡土壇5、47.田能遺跡土壇9、第5・第6溝、48.東奈良遺跡第Ⅰ大形土壇、自然水路)

^(注22)**山城**(49.上里遺跡S D 4804、50.中久世遺跡S D 1-B、51.鳥羽遺跡溝、52.鳥丸綾小路遺跡流路跡、53.興戸遺跡包含層)

^(注23)**河内**(54.田口山遺跡第Ⅰ号竪穴住居址、55.瓜生堂遺跡土壇43・197・250・270、土壇1・9、土器溜り、溝29、S D 04、56.亀井遺跡S K-26、S D-27、S K 3040・3041、S X 1805、57.国府遺跡土壇3)

^(注24)**和泉**(58.四ツ池遺跡S K 504下層土器溜り、B土壇、59.池上曾根遺跡S F 074、S D 01・05・10、60.池田下遺跡竪穴住居5、谷4)

^(注25)**紀伊**(61.太田・黒田遺跡井戸11、62.宇田森遺跡A溝、63.吉田遺跡4号住居址、弥生式時代溝、

64. 岡村遺跡 S D-1、65. 田殿尾中遺跡溝 4)

^(注26) 大和(66. 長寺遺跡 S E-21、67. 唐古・鍵遺跡第22号地点竪穴、北方砂層、S K-101・102・105・120・124、S D-204・2103、68. 坪井・大福遺跡 S K-05、溝 4)

^(注27) 伊賀(69. 下川原遺跡 S K 7)

^(注28) 若狭(70. 大鳥羽遺跡包含層)

^(注29) 近江(71. 弘川遺跡竪穴住居12、72. 馬場遺跡 S R 1-C、73. 出町遺跡 S K 2、74. 服部遺跡 S H 040・045・070・078、S K 025・027・040・100、S D 028・031・033、S D 152A・B、S X 001・018、溝状遺構、75. 吉身西遺跡 S H-3・4、76. 播磨田東遺跡 S K-23、77. 二ノ畦・横枕遺跡 S D-1、78. 野州川左岸遺跡土塚 b、79. 大伴遺跡 S B 8)

^(注30) 尾張(80. 阿弥陀寺遺跡 S B 07・11、81. 大淵遺跡 S E 02、82. 瑞穂遺跡 S D 05・11)

^(注31) 伊勢(83. 上野遺跡 S B 06、84. 山籠遺跡竪穴住居10、85. 鳥居本遺跡 S K 34、86. 湧早崎遺跡 S K 24)

^(注32) 志摩(87. 白浜遺跡包含層)

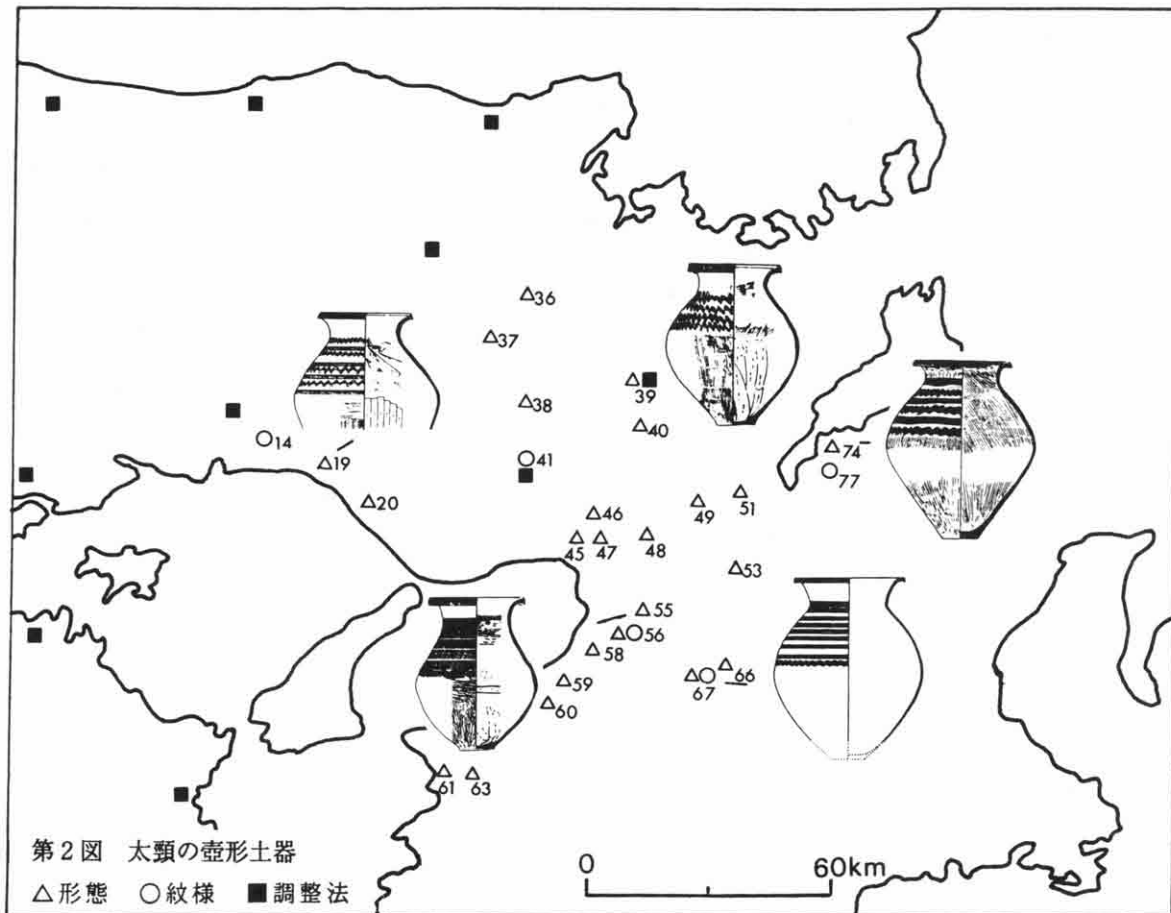
^(注33) 越前(88. 糞置遺跡)

壺形土器の分析 まず壺形土器から検討しよう。

1 の基本形態は、頸部径が体部最大径の 3 分の 1 前後で、近畿地方や周辺地域でごく一般的な広口壺形土器である。紋様は、体部に櫛描直線紋と櫛描波状紋を交互に繰り返し、口縁部に櫛描波状紋を飾る。櫛描直線紋と櫛描波状紋を交互に繰り返すという体部の紋様は、摂津・山城以北の近畿地方北半部に一般的な紋様構成である。このうち体部紋様の最上段が、1 のように櫛描直線紋から始まるのは播磨の姫路あたりから東の地域に限られている。体部下半部の調整法は、外面が上方向のケズリ、内面が縦ハケメ→ナデであった。壺形土器において体部外面に上方向ケズリを施すのは、第 5 図■にみるように、摂津・山城以南に分布する手法である。紋様構成と調整法の分布が重なる摂津・山城のうち、破片だが 1 の口縁部形態に近い土器が、京都市長刀鉾町遺跡^(注34)や同鳥羽遺跡^(注35)で出土している。これらの事実を根拠に、1 を京都盆地あたりの土器と推定する。

2 は、体部から口縁部が屈曲気味に立ち上がる広口壺形土器で、口縁部端面をやや拡張している。紋様は体部にはなく口縁部に施した 2 条の凹線紋だけである。体部下半部の調整法は、外面が縦ハケメ→縦ミガキ、内面がナデであって、ケズリを行なった形跡はない。このような形態・紋様・調整法をもった土器、あるいはこれと同類の土器は、兵庫県春日町七日市遺跡、京都府舞鶴市志高遺跡、同桑飼上遺跡、京都府福知山市興・観音寺遺跡で見つかっている。このうち桑飼上遺跡ではこれらの特徴を有した土器がかなりまとまって出土した。かつて田代弘氏からこれらの土器の胎土と色調がきわめて特徴的で、肉眼観察で容易に判別できるのを学んだ。2 は、器形・紋様・調整法ばかりでなく、胎土・色調の特徴も上記の土器群に一致する。以上の点から 2 は、由良川あたりの土器とみてまず間違いはない。

7 の壺形土器は、球形に近い体部に、頸部径が体部最大径部の 2 分の 1 前後もある広口の壺形土器である。このような頸部の太い壺形土器は畿内とその周辺部に限って分布する(第 2 図△)。



紋様は、体部に櫛描波状紋が4条あり、口縁部端面に凹線紋が2条と櫛描波状紋が1条ある。このうち体部の紋様は特異だ。千代川遺跡例と同じ中期後葉の時期にあつて波状紋だけで頸・体部紋様を構成した壺形土器は、私の知るところ兵庫県龍野市養久山・前地遺跡^(注36)、兵庫県三田市平方遺跡^(注37)、大阪府八尾市亀井遺跡^(注38)、奈良県田原本町唐古・鍵遺跡^(注39)、滋賀県守山市二ノ畔・横枕遺跡^(注40)しかない(第2図○)。これらの土器は広域に散っており、一地域に集中する傾向はない。だがこれに先行する時期に、櫛描波状紋だけで飾った壺形土器をさがしてみると、兵庫県春日町七日市遺跡^(注41)、同加西市野間遺跡^(注42)、同三田市田中・五ノ坪遺跡^(注43)、京都府長岡京市神足遺跡^(注44)にあつて、このうち野間遺跡と田中・五ノ坪遺跡からは比較的まとまって出土しているのである。そこでもとは加西市から三田市あたりに、壺形土器の頸・体部を櫛描波状紋だけで描き、このうちに中期後葉までこのやり方を頑なに守っていた集団があつた可能性もあるだろう。つまり特異な紋様構成の由来をここに求めるのだが、これは実はあながちありえぬ話ではない。というのは中期後葉の櫛描波状紋だけで飾る壺形土器の場合、広域に散らばっているわりに調整法にかなりの共通性がみられるからである。

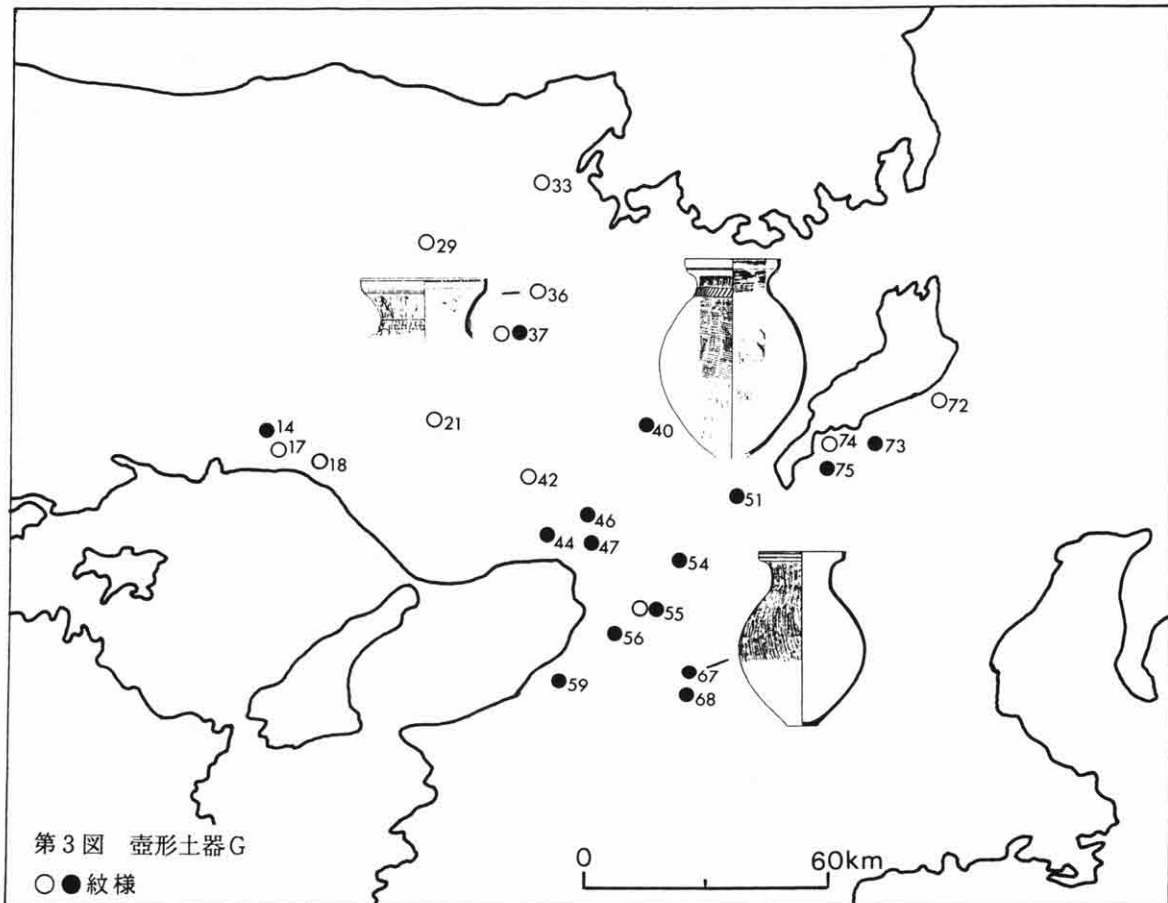
まず7の調整法からみよう。体部の調整法は、外面が縦ハケメ→縦ミガキ、内面がハケメ→ケズリであつた。このような手法は、近畿地方北西部から中国・四国地方にかけて分布する(第2図■)。

次に中期後葉に頸・体部紋様を櫛描波状紋だけで描いた壺形土器についてその調整法をみる

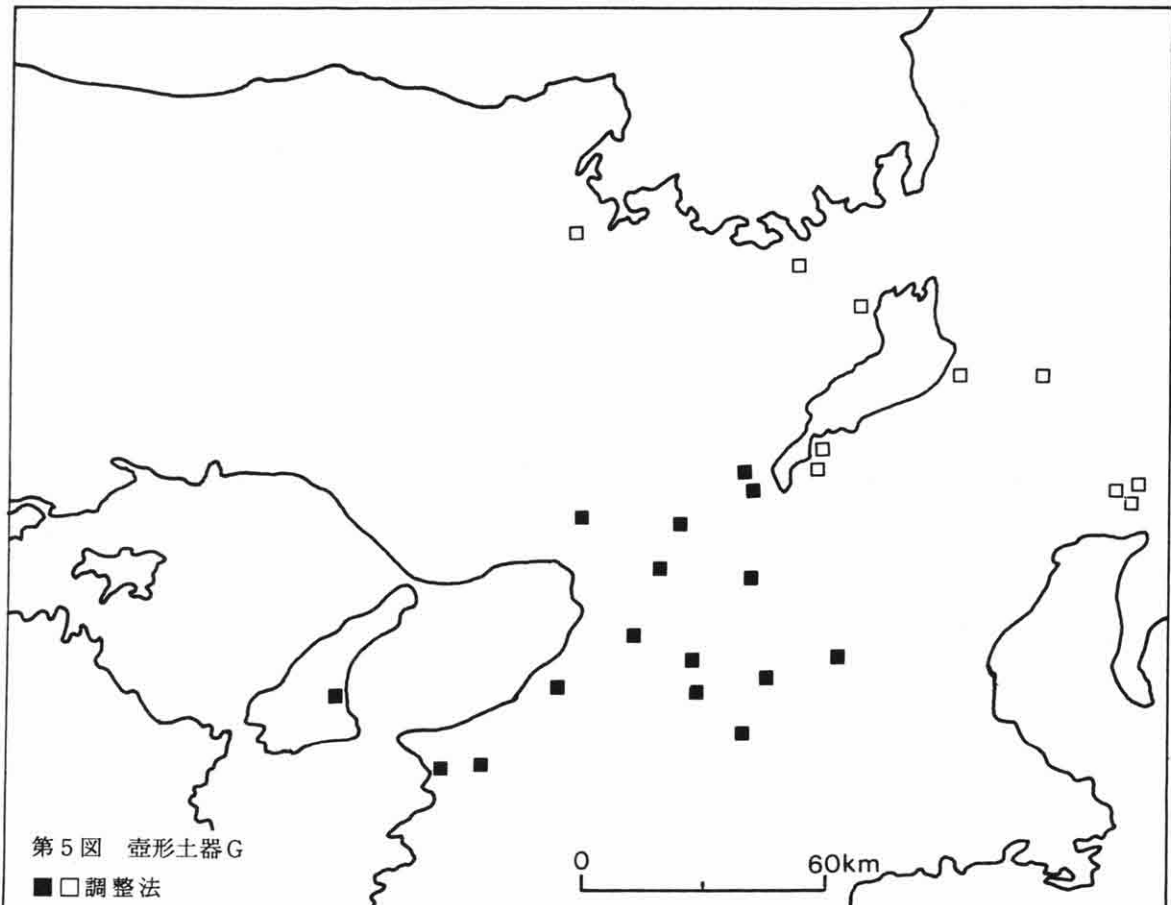
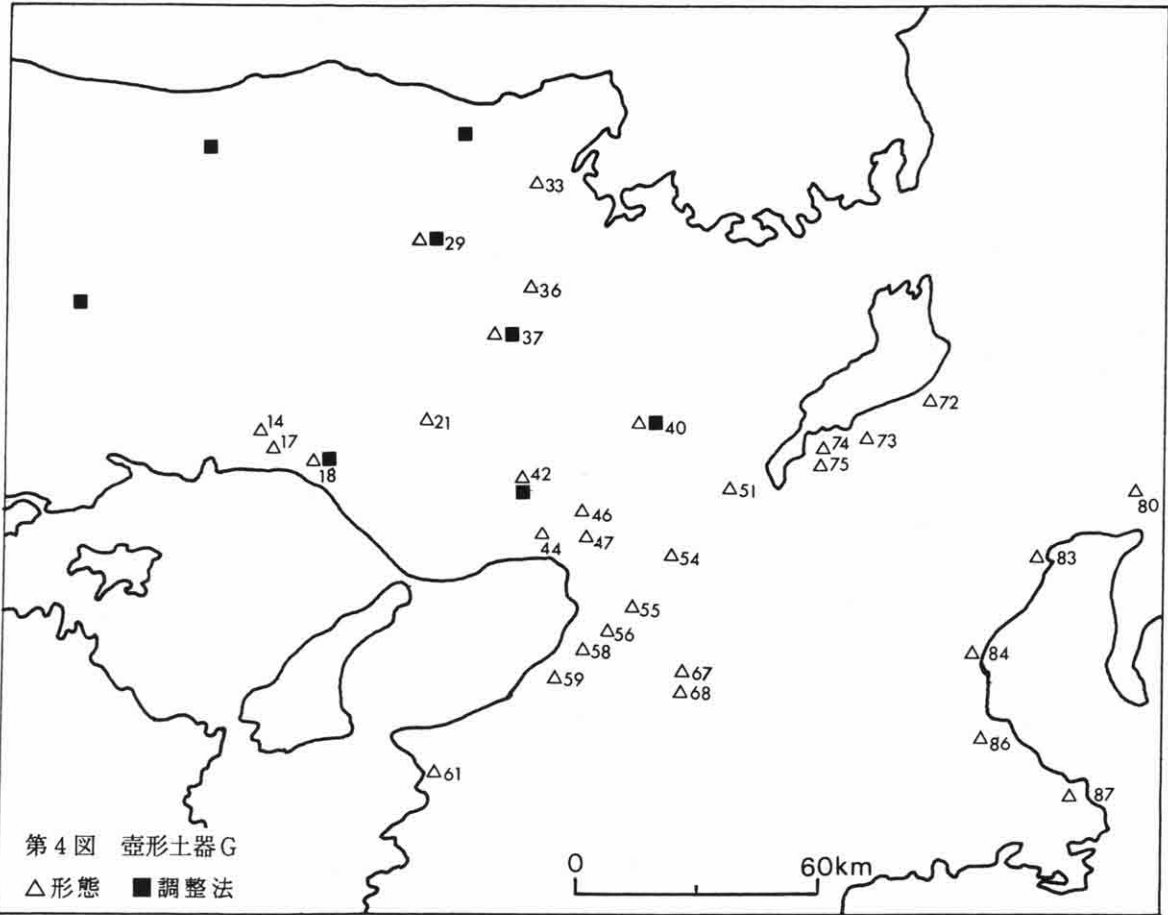
と、唐古・鍵遺跡例以外は、千代川遺跡例を含めて養久山・前地遺跡例、平方遺跡例、亀井遺跡例、二ノ畦・横枕遺跡例のすべてが内面をケズリ手法で調整していたのである。このうち千代川遺跡、亀井遺跡と二ノ畦・横枕遺跡のある地域は、元来壺形土器に内面ケズリ手法を行なう地域ではなかったのである。だからそれぞれの遺跡の所在地がそれらの土器の出身地であったとは到底考えられない。内面ケズリ手法を採用した一画に、中期後葉に非常にまれになった紋様構成法をもった集団がいて、その集団の土器が各地にもたらされたと推定する根拠をここに求めることができるのである。とするなら、先行する時期にこの紋様構成をもち、のちに内面ケズリ手法を採用した地域のうち、紋様構成法を変えた地域を除外して、これに器形の分布域を重ねると、7の壺形土器の出身地は、篠山盆地、あるいはその周辺部に求めることができる。

8は、7と比べて体部がやや算盤玉状に張ってはいるが、基本的な形態は7と同じである。櫛描紋が一切ないのと外面にミガキがないことぐらいしか、7と違わない。ここでは、体部最下段の最終調整として幅1cmほどに横になでるといふ微細な点も7に共通することから、8は7の省略型とみなし、7の地域の土器と推定する。

3・9・11は、佐原真氏が『弥生式土器集成』本編2の畿内地方第IV様式土器の節で壺形土器Gと名づけ、「丈高の器体の上に、外びらきの頸部をつけ、さらに曲折して直立する口縁部をもつ。高さ30-40cmの壺である。口縁部の外面に凹線文をめぐらすことをつねとする。頸部に直接に、あるいは、幅の広い扁平な凸帯をめぐらした上に、篋を用いた斜線文か刺突文をほどこして



第3図 壺形土器G
○●紋様



いる。近畿地方各地に広く分布し滋賀県にもおよんで^(注45)いる。」と解説した土器である。

これら3・9・11の3つの土器は、基本的に同一の形態である。口縁部に凹線紋のめぐるものに限っても、この器形は近畿地方の北から南まで広く分布する(第4図△)。

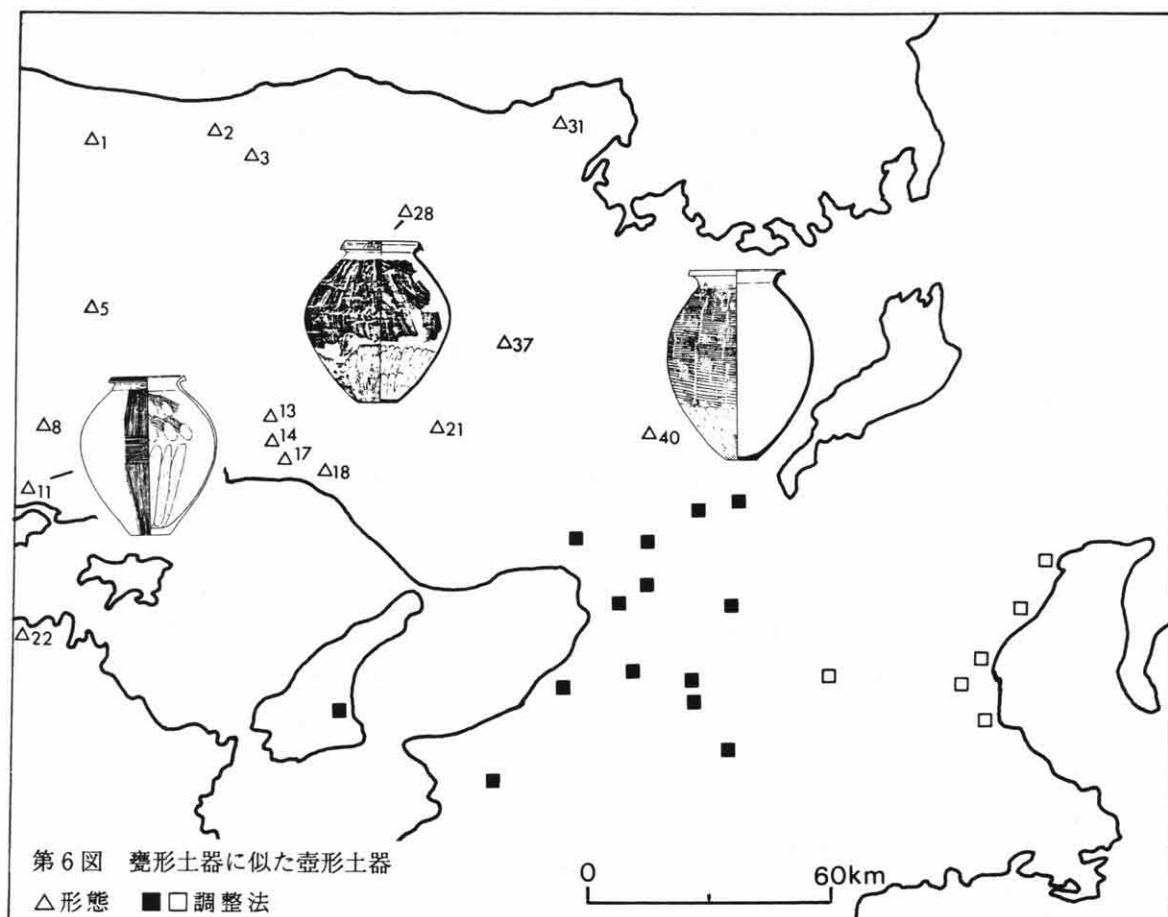
紋様をみると、9の口縁部に凹線紋があるほかは、頸部に扁平な突帯があるきりだ。突帯上の痕跡を紋様とみるか、突帯を器体に押しつける手法とみるかはともかく、これには2種ある。すなわち3は指頭でおさえ、9と11はハケメ状工具を使って刺突する。そもそも壺形土器Gの器形は凹線紋が現われるまえからあって、その時期の頸部紋様は常に指頭圧痕紋突帯に限られていた。また凹線紋が出現したあと、口縁部に常に凹線紋を飾るとは限らない。そこで無用な混乱を防ぐため、口縁部に凹線紋のある壺形土器Gについてその頸部紋様をみると、指頭圧痕紋突帯は主として近畿地方北・西部に(第3図○)、ハケメ状工具による刺突紋には突帯のない場合もあるが、近畿地方のうち畿内に集中する(第3図●)。もっともおたがいの分布域の深くに別の手法が割り込んでいるが、それは量的に客体なので、基本的に両者は分布域を異にするとみなしてよさそうである。そこで千代川遺跡のある亀岡盆地の地に注目すると、ここはどうも両者の境界域に位置しているようである。

調整法は、内面は3つともハケメだが、体部外面が異なっている。3と9は叩き→縦ハケメ→下方向のケズリなのに対して、11は叩き→ハケメ→上方向のケズリ→放射状縦ハケメであった。このうち3と9は千代川遺跡を含む地域に主体的な壺形土器の手法(第4図■)である。これに対して11と同じ手法は今までに、滋賀県守山市服部遺跡の方形周溝墓に供献された小型の短頸壺形土器^(注46)でみただけだ。この服部遺跡例のような短頸壺形土器は山城から近江あたりにかけて分布し、その分布範囲は狭い。かつ壺形土器の場合、外面上方向のケズリは畿内や紀伊に広まった手法(第5図■)で、放射状縦ハケメは若狭・近江・美濃・尾張に広まった手法(第5図□)である。だからさきの短形壺形土器の分布域のなかで、外面上方向のケズリ手法と放射状縦ハケメ手法を組み合わせた手法が成立する可能性のもっとも高いのは、近江南端部あたりであろう。

3の口縁部が深く内側に傾く点が気になるが、以上の検討からそれぞれの出身地について、3と9を亀岡盆地あたりに、11を近江南端部あたりに推定することができる。

4は、短頸壺形土器である。頸部に指頭圧痕紋突帯を1条めぐらす。体部下半部の調整法は、表面の風化が甚だしくて観察できない。紋様から亀岡盆地より西か北の地域の土器の可能性が高いが、調整法が明らかでないので、4の出身地はこれ以上絞り込めない。

5と12、それに方形周溝墓①から出土した図にない1点^(注47)一本稿では仮に無図と呼ぶ。一の土器は、膨らんだ体部と外反する短い口縁部とからなる壺形土器である。3点ともほぼ同大だ。この器形は亀岡盆地以西に広く分布する(第6図△)。紋様は5の口縁部端面に凹線紋があるきりで、他は体部も含めすべて無紋である。調整法は、内面がどれもハケメ→ナデだが、外面には、5と12が叩き→縦ハケメ→下方向ケズリ、無図が叩き→縦ハケメ→上方向ケズリ→縦ミガキと違いがあった。5・12と同じ手法は、近畿地方の北西部や西側の隣接地域に分布する(第4図■)。これに対して無図の手法は、畿内・紀伊にごく一般的な手法である(第5図■)。なお第6図には参考



に甕形土器の調整法の分布を入れた。■は、外面：上方向ケズリ→縦ミガキ、内面：ハケメ・ナデ、□は、外面：上方向ケズリ→放射状縦ハケメ、内面：ハケメ・ナデを表わす。

各要素の分布のあり方から、5と12は亀岡盆地あたり、無図は器形と調整法の分布が完全には重ならないが、両者がもっとも接近した地域のうち、その調整法がおよぶ京都盆地あたりを出身地と推定しておこう。

以上のほかに、第1図に載せなかった壺形土器が2点ある。^(注48) 方形周溝墓②・③の周溝から出土した。外面はともに下方向ケズリ→縦ミガキである(第4図■)。これは亀岡盆地を含めた近畿地方北西部からさらに西に分布する手法だ。だがどちらも口・頸部を欠いているので、器形を特定できない。だからこの2点の土器については、これ以上出身地を絞り込めない。

甕形土器の分析 次に甕形土器を検討しよう。

10は、短い口縁部をもった甕形土器で、口縁端部に刻み目はない。体部下半部の調整法は、外面が縦ハケメ、内面がナデで、内外面ともにケズリの形跡はなかった。近畿地方一円で、ケズリ手法を用いない甕形土器は、丹後・丹波・近江・伊勢の一部地域しかない。このうち、近江では口縁部が受け口状であり、伊勢では外反した口縁部の端部に刻み目がつくので、10とは異なる。他方、京都府志高遺跡、同桑飼上遺跡、同興・観音寺遺跡、同美月遺跡などで出土している甕形土器には、形態・紋様・調整法が10と共通するものが多い。その分布が特に集中するのは、由良川あたりなので、10の出身地をここに推定しておこう。

13と14は、平底砲弾形の体部に短い口縁部をつけた甕形土器で、13によって口縁端部にハケメ状工具による刻み目のある場合のあることがわかる。体部下半部の調整法は、外面が叩き→縦ハケメ→下方向ケズリ、内面が縦ハケメ→ナデである。この形態の甕形土器にこの調整法が施され、かつ主体を占めているのは、知る限りもっぱら千代川遺跡だけなので、13と14は亀岡盆地あたりを出身地とする土器と推定する。

(以下、次号)

(ふかさわ・よしき=奈良国立文化財研究所)

- 注1 出土土器は、水谷壽克氏、松井忠春氏、田代 弘氏、樋口隆久氏、中澤 勝氏にみせてもらった。京都府教育委員会「国道9号バイパス関係遺跡昭和55年度発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報(1981-2)』 1981。
京都府埋蔵文化財調査研究センター「国道9号バイパス関係遺跡昭和56年度発掘調査概要千代川遺跡」『京都府遺跡調査概報』第1冊 1982。
京都府埋蔵文化財調査研究センター「千代川遺跡第3次」『京都府遺跡調査概報』第12冊 1984。
京都府埋蔵文化財調査研究センター「千代川遺跡第4次」『京都府遺跡調査概報』第10冊 1984。
京都府埋蔵文化財調査研究センター「千代川遺跡第6・7次」『京都府遺跡調査概報』第14冊 1985。
京都府埋蔵文化財調査研究センター「千代川遺跡第8次」『京都府遺跡調査概報』第14冊 1985。
京都府埋蔵文化財調査研究センター「千代川遺跡第10次」『京都府遺跡調査概報』第21冊 1986。
亀岡市教育委員会『千代川遺跡第11次発掘調査概報』(亀岡市文化財調査報告書 第15集) 1987。
京都府埋蔵文化財調査研究センター「千代川遺跡第16次」『京都府遺跡調査概報』第44冊 1991。
京都府埋蔵文化財調査研究センター『千代川遺跡』(京都府遺跡調査報告書 第16冊) 1992。
- 注2 亀岡市教育委員会『千代川遺跡第11次発掘調査概報』(亀岡市文化財調査報告書 第15集) 1987。
- 注3 塚田良道「石器群の原位置・一括性に関するノート」『旧石器考古学』30 1985 69頁。
松田順一郎「Archaeosedimentology考古堆積学について-Karl W. Butzer"Archaeology as human ecology"からのノート」『WETLAND ARCHAEOLOGY』第1号 1995 26~32頁。
- 注4 岡村道雄「旧石器時代遺跡の基礎的な理解について-廃棄と遺棄-」『考古学ジャーナル』169号 1979 11頁。
- 注5 桐生直彦「火災住居址から見た家財道具の在り方-東京都における縄文時代の事例分析-」『東国史論』第5号 1990 38~44頁。
- 注6 たとえば、兵庫県尼崎市田能遺跡第4調査区第20号墓(尼崎市教育委員会『田能遺跡発掘調査報告書』 1982)や大阪府東大阪市西ノ辻遺跡第23次調査C地区壺棺墓(東大阪市教育委員会・東大阪市文化財協会『西ノ辻遺跡第23次発掘調査概要』 1991)。
- 注7 京都府埋蔵文化財調査研究センター「千代川遺跡第6・7次」『京都府遺跡調査概報』第14冊 1985 第24図8。
- 注8 京都府埋蔵文化財調査研究センター「千代川遺跡第6・7次」『京都府遺跡調査概報』第14冊 1985 第27図27。
- 注9 かつて行なった成果による。なお調整法に関して図中には、遺跡番号をつけていない。
深澤芳樹「尾張における凹線紋出現の経緯-朝日遺跡出土土器の検討から-」『朝日遺跡V』 1994。
- 注10 花園大学考古学研究室・三朝町教育委員会『丸山遺跡発掘調査報告書』 1984。
- 注11 鳥取市教育委員会・鳥取市遺跡調査団『岩吉遺跡 中小河川改修事業大井手川改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査』(鳥取市文化財報告書30) 1991。
鳥取県教育委員会『因幡国府遺跡発掘調査報告書VI』 1978。

- 注12 津山市・津山市教育委員会『ビシャコ谷遺跡』(津山市埋蔵文化財発掘調査報告第16集) 1984。
岡山県文化財保護協会『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査1』(岡山県埋蔵文化財発掘調査報告(3)) 1974。
津山市教育委員会『崩し塚遺跡—津山中核工業団地埋蔵文化財発掘調査報告5—』(津山市埋蔵文化財発掘調査報告第28集) 1989。
岡山県教育委員会『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査5』(岡山県埋蔵文化財発掘調査報告(8)) 1975。
- 注13 山陽町教育委員会『用木山遺跡他』(岡山県営山陽新住宅市街地開発事業用地内埋蔵文化財発掘調査概報) 1977。
岡山県教育委員会『門前池遺跡(山陽住宅団地造成に伴う発掘調査)』(岡山県埋蔵文化財発掘調査報告(9)) 1975。
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター『鹿田遺跡I』(岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第3冊) 1988。
建設省岡山河川工事事務所・岡山県教育委員会『百間川今谷遺跡I』(岡山県埋蔵文化財発掘調査報告(51)) 1982。
建設省岡山河川工事事務所・岡山県教育委員会『百間川兼基遺跡I』(岡山県埋蔵文化財発掘調査報告(51)) 1982。
- 注14 新宮・宮内遺跡発掘調査団・新宮町教育委員会『新宮・宮内遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 1982。
龍野市教育委員会『養久山・前池遺跡—揖龍広域ごみ処理施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』(龍野市文化財調査報告15) 1995。
龍野市教育委員会『尾崎遺跡 II—市道北山長尾線新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』(龍野市文化財調査報告14) 1995。
寄井遺跡調査団『龍野市寄井遺跡 II』(龍野市文化財調査報告13) 1994。
川島・立岡遺跡調査報告書刊行会・太子町教育委員会『川島・立岡遺跡』 1971。
八幡遺跡調査会『播磨八幡遺跡』 1971。
兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所『姫路市六角遺跡—山陽自動車道関係埋蔵文化財調査報告X—』(兵庫県文化財報告 第134冊) 1994。
加古川市教育委員会『溝之口遺跡発掘調査報告書 I』(加古川市文化財調査報告 10) 1992。
兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所『西脇市大垣内遺跡—加古川河川改修に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』(兵庫県文化財調査報告 第98集) 1991。
- 注15 高松市教育委員会『久米池南遺跡発掘調査報告書』 1989。
高松市教育委員会『浴・長池遺跡』(一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告) 1993。
- 注16 徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会・日本道路公団『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 3』(徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第3集) 1993。
徳島県教育委員会『光勝院寺内遺跡』 1984。
徳島市教育委員会『南庄遺跡発掘調査現地説明会資料』 1985。
- 注17 兵庫県教育委員会・兵庫県埋蔵文化財調査事務所『森遺跡』(兵庫県文化財調査報告書 第55冊) 1988。
- 注18 八鹿町教育委員会『米里遺跡』(八鹿町文化財調査報告 Ⅲ) 1979。
瀬戸谷皓・山本田鶴子・山東町教育委員会・武庫川女子大学考古学研究室『西谷古墳群・迫間古墳群』 1979。
山東町教育委員会『仲田遺跡発掘調査現地説明会パンフレット(Ⅱ次調査の概要)』 1987。
- 注19 京都府教育庁指導部文化財保護課『橋爪遺跡発掘調査概要』『埋蔵文化財発掘調査概報(1981-2)』 1981。

- 京都府埋蔵文化財調査研究センター「奈具谷遺跡」『京都府遺跡調査概報』第60冊 1994。
加悦町教育委員会『須代遺跡Ⅲ』（加悦町文化財調査報告第17集）1992。
峰山町教育委員会『途中ヶ丘遺跡発掘調査概報』1981。
舞鶴市教育委員会『志高遺跡Ⅱ－弥生土器の概要－』1986。
京都府埋蔵文化財調査研究センター『志高遺跡』（京都府遺跡調査報告書 第12冊）1989。
京都府埋蔵文化財調査研究センター『桑飼上遺跡』（京都府遺跡調査報告書 第19冊）1993。
- 注20 京都府埋蔵文化財調査研究センター「興遺跡」『京都府遺跡調査報告書 第17冊』1992。
福知山市教育委員会『興・観音寺遺跡』（福知山市文化財調査報告書 第29集）1995。
兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所『春日・七日市遺跡（Ⅰ）－第2分冊－（弥生・古墳時代の調査）－近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書（XⅡ－2）－』（兵庫県文化財調査報告書 第72－2冊）1990。
京都大学埋蔵文化財研究センター「京都府美月遺跡の調査」『京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和56年度』1983。
京都府埋蔵文化財調査研究センター「千代川遺跡第6・7次発掘調査概報」『京都府遺跡調査概報』第14冊 1985。
- 注21 兵庫県教育委員会『北摂ニュータウン内遺跡調査報告書Ⅱ』1983。
三田市教育委員会『天神遺跡－公共下水道管理設にかかると発掘調査報告書（Ⅰ）－』（兵庫県三田市文化財調査報告書 第3冊）1987。
神戸市教育委員会『滝ノ奥遺跡』『平成3年度 神戸市埋蔵文化財年報』1994。
西宮市教育委員会『仁川五ヶ山弥生遺跡－No.5地点の調査記録』1976。
南博史・伊丹市教育委員会・古代学協会『伊丹市口酒井遺跡－第11次発掘調査報告書』1988。
兵庫県教育委員会『栄根遺跡』（兵庫県文化財調査報告 第14集）1982。
尼崎市教育委員会『田能遺跡発掘調査報告書』（尼崎市文化財調査報告第15集）1982。
東奈良遺跡調査会『東奈良遺跡発掘調査概報Ⅰ』1979。
茨木市教育委員会『昭和62年度 発掘調査概報Ⅰ』1988。
- 注22 長岡京市教育委員会「長岡京右京第48次調査概要」『長岡京市文化財調査報告書 第19冊』1987。
京都市埋蔵文化財研究所『中久世遺跡発掘調査概報 昭和61年度』1987。
木下保明他・京都市埋蔵文化財研究所「鳥羽離宮跡第71次調査」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概報（発掘調査編）』1983。
京都市埋蔵文化財研究所「平安京左京五条三坊（61年度H L 283）『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和62年度』1988。
京都府教育庁指導部文化財保護課「興戸遺跡発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報（1980-1）』1980。
- 注23 枚方市教育委員会・田口山遺跡発掘調査団『田口山弥生時代遺跡調査概要報告』（枚方市文化財調査報告第2集）1970。
大阪府教育委員会・大阪文化財センター『瓜生堂 近畿自動車道天理～吹田建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書』1980。
瓜生堂遺跡調査会『瓜生堂遺跡Ⅲ』1981。
大阪府教育委員会・大阪文化財センター『巨摩・瓜生堂 近畿自動車道天理～吹田建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書』1981。
東大阪市文化財協会「瓜生堂遺跡発掘調査概報」『（財）東大阪市文化財協会概報集 1988年度』1989。
大阪府教育委員会・大阪文化財センター『亀井 近畿自動車道天理～吹田建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書』1983。
大阪文化財センター『亀井遺跡Ⅱ 寝屋川南部流域下水道事業長吉ポンプ場築造工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』1984。
山本雅靖「河内国府遺跡出土の弥生式土器－土塚出土の土器群の紹介とその製作技術について－」

- 『大阪文化誌』第1巻第3号 1974。
- 注24 第2阪和国道内遺跡調査会『昭和45年度 第2阪和国道内遺跡発掘調査報告書 3』 1971。
四ツ池遺跡調査会『四ツ池遺跡 その6 昭和51年度発掘調査報告書』 1977。
大阪府教育委員会『史跡池上曾根遺跡発掘調査概要 松ノ浜曾根線建設に伴う発掘調査』 1990。
大阪文化財センター『池上遺跡・四ツ池遺跡発掘調査報告書 第2分冊』 1979。
和泉丘陵内遺跡調査会『池田下遺跡』(和泉丘陵内遺跡発掘調査報告書I) 1991。
- 注25 土井孝之「紀伊の土器」『弥生土器の様式と編年—近畿編I—』 1989。
和歌山県教育委員会『和歌山市宇田森遺跡発掘調査概報』 1968。
和歌山県教育委員会『吉田・北田井遺跡 第1次調査概報』 1970。
海南市教育委員会『岡村遺跡確認調査概報』 1980。
吉備町教育委員会『和歌山県有田郡吉備町 田殿・尾中遺跡 庄地区道12号長田連絡改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 注26 天理市教育委員会『天理市埋蔵文化財調査概報 長寺遺跡(第7・8次) 平等坊・岩室遺跡(第10次)』 1993。
小林行雄他『大和唐古弥生式遺跡の研究』(京都帝国大学文学部考古学研究報告 第16冊) 1943。
田原本町教育委員会『昭和58年度唐古・鍵遺跡第16・18・19次発掘調査概報』(田原本町埋蔵文化財調査概要2) 1984。
田原本町教育委員会『昭和60年度唐古・鍵遺跡第22・24・25次発掘調査概報』(田原本町埋蔵文化財調査概要4) 1986。
田原本町教育委員会『昭和61年度唐古・鍵遺跡第26次発掘調査概報』(田原本町埋蔵文化財調査概要7) 1987。
田原本町教育委員会『昭和62・63年度唐古・鍵遺跡第32・33次発掘調査概報』(田原本町埋蔵文化財調査概要11) 1989。
奈良県橿原考古学研究所「坪井遺跡 第2次調査概報」『奈良県遺跡調査概報 1982年度(第1分冊)』 1983。
橿原市教育委員会『曾我遺跡・坪井遺跡(クレ橋地区)』(橿原市埋蔵文化財調査概要4) 1987。
- 注27 名張市遺跡調査会『名張市夏見 下川原遺跡』 1986。
- 注28 上中町教育委員会『大鳥羽遺跡 II』(上中町文化財調査報告書 第4集) 1985。
- 注29 滋賀県教育委員会「高島郡今津町弘川遺跡」(ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅷ-3) 1981。
滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会『馬場遺跡発掘調査報告書—彦根市川瀬馬場町—』 1984。
近江八幡市教育委員会『出町遺跡』(近江八幡市埋蔵文化財調査報告書(Ⅶ)) 1985。
滋賀県教育委員会・守山市教育委員会・滋賀県文化財保護協会『服部遺跡発掘調査報告書Ⅲ—滋賀県服部町所在—』 1987。
守山市教育委員会『服部遺跡の調査』(守山市文化財報告書 第26冊) 1987。
守山市教育委員会『吉身西遺跡の調査』(守山市文化財報告書 第26冊) 1987。
守山市教育委員会『播磨田東遺跡発掘調査報告書』(守山市文化財報告書 第13冊) 1984。
守山市教育委員会『横枕遺跡発掘調査報告書』(守山市文化財報告書 第34冊) 1989。
野洲町教育委員会「野洲川左岸遺跡」『1986年度 野洲町埋蔵文化財調査年報』 1988。
滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会『大伴遺跡発掘調査報告』 1983。
- 注30 愛知県埋蔵文化財センター『阿弥陀寺遺跡』(愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第11集) 1990。
愛知県埋蔵文化財センター『大淵遺跡』(愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第18集) 1991。
名古屋市教育委員会『瑞穂遺跡 第4次調査の概要』 1987。
- 注31 四日市遺跡調査会『上野遺跡』(四日市市遺跡調査会文化財調査報告書Ⅵ) 1991。
三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター「津市河辺町山籠遺跡」『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ』 1990。

- 三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター『近畿自動車道(久居～勢和)埋蔵文化財発掘調査報告-第3分冊 10-』(三重県埋蔵文化財センター調査報告87-16) 1991。
- 松坂市教育委員会『松坂市大津町浦早崎遺跡発掘調査報告書』 1992。
- 注32 本浦遺跡群調査委員会『三重県鳥羽市白浜遺跡発掘調査報告』 1990。
- 注33 赤澤徳明氏の御教示による。
- 注34 古代学協会『平安京左京四条三坊十三町一長刀鉾町遺跡一』(平安京研究調査報告第11輯) 1981 第65図230。
- 注35 網伸也氏にみせてもらった。
- 注36 岸本道昭氏にみせてもらった。
龍野市教育委員会『養久山・前池遺跡一揖龍広域ごみ処理施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』(龍野市文化財調査報告15) 1995 第47図134。このほか同報告書の第46図129も可能性がある。
- 注37 篠宮正氏の御教示による。
- 注38 若林邦彦氏にみせてもらった。
大阪文化財センター『亀井遺跡Ⅱ 寝屋川南部流域下水道事業長吉ポンプ場築造工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』 1984 第55図1。
- 注39 森下章司氏にみせてもらった。
小林行雄他『大和唐古弥生式遺跡の研究』(京都帝国大学文学部考古学研究報告 第16冊) 1943 第35図438。このほかに同報告書第34図431もあるが、これはみていない。
- 注40 伴野幸一氏にみせてもらった。
守山市教育委員会『横枕遺跡発掘調査報告書』(守山市文化財報告書 第34冊) 1989 第7図3。
- 注41 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所『春日・七日市遺跡(Ⅰ)-第2分冊-(弥生・古墳時代の調査)-近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書(XⅡ-2)-』(兵庫県文化財調査報告書 第72-2冊) 1990。
- 注42 加西市教育委員会『野間遺跡-加西インターチェンジ建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』(加西市埋蔵文化財発掘調査報告11) 1993。
- 注43 三田市教育委員会「田中・五ノ坪遺跡(東本庄字五ノ坪他)」『兵庫県三田市文化財調査報告第8冊』 1992。
- 注44 長岡京市教育委員会「長岡第九小学校建設にともなう発掘調査概要 長岡京跡右京第10・28次調査(7 ANMMB地区)」『長岡京市文化財調査報告書』第5冊 1980。
- 注45 佐原眞「畿内地方」『弥生式土器集成』本編2 1968 67頁。
- 注46 伴野幸一氏にみせてもらった。
滋賀県教育委員会・守山市教育委員会・滋賀県文化財保護協会『服部遺跡発掘調査報告書Ⅲ-滋賀県服部町所在一』 1987 図版249-E287。
- 注47 樋口隆久氏と中澤勝氏にみせてもらった。亀岡市教育委員会『千代川遺跡第11次発掘調査概報』(亀岡市文化財調査報告書 第15集) 1987 表5-7。
- 注48 京都府埋蔵文化財調査研究センター「千代川遺跡第6・7次」『京都府遺跡調査概報』第14冊 1985 第24図8・第27図27。

長岡京条坊計画試論

—均等宅地型モデルの場合—

岩松 保

1. はじめに

長岡京はわずか10年間の短命の都であったにも関わらず、かなり整備された都城であったことが明らかにされつつある。これは、長岡京内で1200回以上の発掘調査が行われてきた成果によるものである。しかし、発掘調査の知見によって長岡京の研究が飛躍的に進展したとはいえ、平城京や平安京と比べるとその実態には不明な部分が多い。特に都城の造営計画については、平城京は450尺方眼に割り付けた基準線から大路と小路を割き取り、平安京では400尺四方を一町としそこに大路と小路の幅分をつけ加えたと考えられていて、これらがいわゆる定説となっている。が、長岡京の条坊計画についてはいまだ衆目が一致する定説といったものはない。

最近公表された長岡京の条坊計画案には、山中章(1992)、鍋田勇(1993)、辻純一(1994b)各氏のものがある。^(注2) 山中氏は、宮城の南面と東・西面の一町の大きさを築地心々で35×40丈、それ以外の街区の一町を40×40丈とし、大路と小路がそれにつけ加えられたと考え、二様の大きさの宅地で長岡京が構成されたとしている。鍋田氏は、長岡京は平城京型地割りを踏襲しながらもそれが計画通りに造られていない(=遺構が推定位置に検出されない)のは、造営当時の測量技術と方法による誤差と主張した。辻氏の論文はこれらと違って、条坊側溝の国土座標データを統計処理し、一定の“確からしさ”を数値で表した点が画期的である。しかしその結論は、長岡京の造営には明確な計画性が認められないというものであるが、その一方で、標準偏差が0.8093mという精度で造られているという。もしそうならば、長岡京は平城京や平安京とは違って、計画性のない“設計図面”に従って、究めて高い精度で施工されたのであろうか。^(注3) 清水みき氏(1995)は、長岡京は遷都公表の25ヶ月も前(平安京は8ヶ月前)から遷都の計画が開始されており、長岡京の造営が開始されるとわずか半年余りで内裏や大極殿が完成したと指摘した。清水氏はその理由として、「長岡京は反対派の抵抗も大きく、造営開始までに周到かつ慎重な準備を進める時間を要し、開始してからは一刻も早い遷都の実現が必要であった」ためとしているが、もしそうならば、その準備期間の長さに応じて長岡京の条坊設計が入念に作成されていたことが推測される。

筆者もまたこの小論の中で、長岡京の条坊計画を考察するものであるが、方法は辻氏に倣って、条坊関連遺構の国土座標データを統計処理し、その結果を参考にして長岡京の条坊モデルを構築するものである。作業には膨大な回数の計算を行う必要があるため、パーソナル・コンピューターを用いて簡単なプログラムを作成して行った。^(注4) 特に、長岡京では1200回以上の発掘調査が実施

されており、多数の条坊関連遺構が検出されているので、条坊関連遺構の国土座標値を統計処理して条坊計画モデルを作成するという作業にはもってこいであろう。

2. 長岡京条坊計画の作成と方法

a) 長岡京条坊モデル作成にあたっての仮定

発掘調査で確認した条坊関連遺構の座標データを統計処理し、都城の計画と施工を考察した論考には、内田賢二氏(1984)や辻純一氏(1988・1994a・b)、長宗繁一氏(1991)のものがある。辻氏の研究では、『延喜式』京程に記された計画どおりに平安京が造られたと仮定し、その計画で発掘調査で得られたデータを計算すると、造営尺が29.846668cm、造営の方位 $0^{\circ}14'27''$ 北で西(国土座標第VI座標系による；以下同)、造営原点が朱雀大路と四条大路南築地心の交点となり、この時の造営精度が1.19mであると計算した。^(注5) 辻氏の主張どおりだとすると、平安京はかなりの施工精度で造営されたといえる。

一方、長岡京では平安京の『延喜式』京程に相当する計画が知られていないので、その計画を推定し“復元”することが考察の中心となってきた。発掘調査で得たデータや遺存地割りなどを利用してその計画を推定するのだが、最終的には、“復元した計画が納得できるものであるかどうか”、がその計画モデルの良否の判断基準となるだろう。データを適切に選択し利用しているか、多くのデータをうまく説明づけられるか、簡単な設計原理が見て取れるか、その原理で斉一的に説明できるか、その原理からはずれるものが多くないか、特例を多く設定していないか、他の都城の計画とうまく整合するか、そして、そのモデルに接した人が有している“都城観”に合致しているか、などなど。

この論考は、条坊関連遺構の座標データを統計処理した上で、そのデータに適合する都城計画を推定し、長岡京の条坊モデルを作成・検討するものである。そのためここで、考察を進める上で前提となる仮定を明示しておく必要がある。長岡京は、

- 1) 平安京『延喜式』京程に相当する「計画」があり、それに基づいて施工された
- 2) 造営に当たっては、「同一の物差し」を使用した
- 3) 各条坊の東西・南北線は、それぞれが「同一の方位」をもって造営された

の三点をまず仮定したい。これらは辻氏の論考で設定されている仮定と同じ内容である。言い換えると、長岡京は一つの計画に基づき、ある基準となる尺を用いて直角座標系に造られたというもので、これは経験的に納得し易いであろう。

長岡京の都城研究では平安京と違って、条坊関連遺構データからその計画を推定しなければならない。その際の手がかりの一つとして、当時の土木技術の正確さがどの程度であったかが重要な目安となろう。都城が計画されて以後、遺構データを我々が手に入れるまでには、①造営原理→②計画→③測量→④施工→(埋没)→⑤発掘→⑥測量という過程を経ているが、③・④と⑤・⑥の段階で計画とデータとの間に誤差が生じる。^(注6) ⑤・⑥は現在の我々の責任でありできるだけ小さくしていく努力が必要であるが、現時点でも高い精度で遺構測量がなされていると思われるので、

ほとんど無視できよう。^(注7) 考察を進める中で実際の手がかりとなるのは、③・④の都城造営時の測量精度である。都城の計画と実際の施工との間にどの程度の誤差があったのかが分かれば、遺構データを基にして、その誤差を含み持たせた都城の計画を作成することが可能となる。誤差は計画線を中心に両側(+と-; 計画位置より“長い”と“短い”)に均しく分布するだろうから、

$$(\text{計画}) - (\text{施工}) = \pm(\text{誤差})$$

であるので、

$$(\text{計画}) = (\text{施工}) \pm (\text{誤差})$$

という等式が成立するわけである。(施工)は発掘調査により検出した条坊関連遺構のデータであり、我々の手元にある。あとは、(誤差)をどの程度の値として見積もるか(計画)が“復元”できるであろう。これについては、先に触れた辻氏の論考にある、平安京の施工精度=1.19mが一つの基準となる。この精度とは標準偏差のことで、平安京の計画(=『延喜式』京程)から発掘調査で得た条坊関連遺構がどれだけズレて検出されているかの値であり、(計画)と(施工)の誤差である。平安京は長岡京の10年後に造営された都であるので、同程度の施工精度を長岡京の造営の際にも有していたと考えてよからう。そこで四点目に、

4) 平安京と同程度の正確さをもって施工された

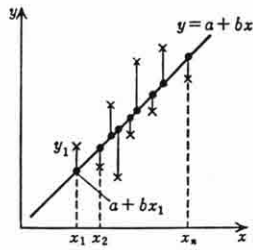
と仮定したい。この仮定から、発掘調査で得た長岡京の条坊関連遺構データを統計的に処理し、少なくとも平安京と同程度の精度を有するような計画を作成することが必要条件となる。この条件に合う全ての条坊モデルがいわばそれなりに“正しい”のである。

さて以上の仮定以外に、条坊モデル作成に際しては、造営に関わる“ある原理”が存在したという立場を採りたい。その造営原理は簡潔なものとし、造営原理を展開した“条坊計画”は可能な限り左右対称で、しかも発掘データをできるだけ説明できるモデルとしたい。長岡京が歴史的に平城京と平安京の両都城の間に位置しているのだから、設計計画や造営原理はその流れの中に十分に位置づけられるかどうかにも留意したい。これら筆者の設定した“恣意的な”前提条件や仮定を満足し、しかも施工精度が平安京の1.19mとそんなに遜色のないモデルを作成する必要がある。しかし、こういった“恣意的な”前提条件と仮定をある程度満たすという制約を課すと、施工精度を1.19mにできるだけ近づけた条坊モデルを作成することが当面の課題となる。

さらに、実際の計算に当たっては、造営の原点は“政治の中心”として向日丘陵にまず最初にその位置を決定したであろう大極殿中心(X=-117,528.96、Y=-26,840.39)と仮定し、造営尺は今までに経験的に求められている29.6cm前後としたい。

b) モデル作成の方法と手順

①データの収集 『延喜式』京程の記載によると、平安京は築地や側溝、犬走りなどが条坊計画に基づいて造営されたと推定できるが、長岡京についてはよく分かっていない。今回の資料は発掘調査で確認しやすい条坊側溝のデータに限った。長岡京に関する報告書や長岡京連絡協議会での報告資料より、条坊側溝と“判断されている”405個のデータを集めた。側溝データは一調査地で1データを基本として収集したが、広い範囲を調査し、条坊側溝を長距離にわたって検



第1図 最小二乗法の考え方
(鷲尾 1983より)

出したものについては、一調査地であっても50m程度を目安にして複数個のデータを取り上げた。これらは最終の計算結果と共に文末に掲げてある(付表1)。

②仮造営角と原点からの距離の計算 各々の条坊側溝で複数個のデータがある場合、最小二乗法によって最適の角度と原点からの最適の距離を求めることができる。点IはX座標値とY座標値で (X_i, Y_i) と表されるが、XとYの一次関数 $Y = a + bX$ で、点Iにおける理論値 $(a + bX_i)$ とそのときの観測値 (Y_i) との差の二乗の和

が最小となるような a 、 b を求めるのが最小二乗法の考え方である(第1図)。たとえば、ある条坊側溝(東一坊坊間東小路西側溝や東三坊大路西側溝などの個々の条坊側溝^(注8))の計画線を直線と仮定すると、国土座標上でその計画線は $Y = a + bX$ で表されるが、それぞれの条坊側溝の n 個のデータの中の点Iの国土座標値は (X_i, Y_i) であるから、観測値 (Y_i) と理論値 $(a + bX_i)$ との差を“施工誤差”とみなして、その施工誤差の二乗の総和 $\sum_{i=1}^n (Y_i - (a + bX_i))^2 (i=1, 2, \dots, n)$ を最小とするような a 、 b を定めればよいこととなる(以上は南北条坊路であり、東西条坊路はX座標値のズレを施工誤差とする)。 b は傾きであり、個々の条坊側溝毎にその最適の角度 b は異なるが、都城の造営角度を一つと仮定しているため、全体の条坊側溝で最も当てはまりが良いものを b の値として求めることとなる。

実際の計算は、一尺=29.6cmに固定し、まず、任意の造営角の下で想定原点の大極殿中心からそれぞれの側溝までの最適の尺数(南北条坊側溝はY座標値、東西条坊側溝はX座標値；この時点で尺数には小数点以下の端数があってもよいこととする)をそのデータ群を基にして最小二乗法で求める。次にここで計算した各側溝までの最適の距離を固定した場合、全体の誤差を最小にするような最適の造営角を計算する。この新たな造営角を固定して、それぞれの側溝までの最適の尺数を再計算する。この一連の計算をそれぞれの値が落ちつくまで繰り返して行う。この造営角や側溝までの最適の尺数の値には、それらを計算したデータの中に条坊側溝でない溝をそうと誤認したものや発掘調査で“測量ミス”をした遺構データが含まれている可能性があるため、“仮”のものである。今回の405データを基にした計算では、仮造営角は222.7°北で東となった。

⑤で誤ったデータを除去したのちに、最終の造営角を再計算する。

③造営原理・計画モデルの作成 仮の造営角の下での各側溝毎の最適の尺数や標準偏差、各データ毎の最適の尺数などを計算し、それらの数値を参考にして造営原理や造営計画モデルを作成する。この作業は全て紙と鉛筆によるものであり、ここにおける作業が全てである。データの棄却やデータの解釈、その都度の誤差の計算などを行いながら、何らかの原理を念頭に置きつつ発掘データにできるだけ合致するようなモデルを試行錯誤を繰り返して構築するのである。ここに、個々人が暗黙的に有している都城に対する“思い”が大いに反映する。先にこの論考中での仮定や前提を設定したように、辻氏の方法に倣いながらも都城モデルに違いが生じるのもそのためなのである。明らかに“間違っている”と判断される(=そのモデルに組み込めない)データは

この時点で除去・修正する。

今回の計算では、モデル上の計画尺数と20尺(約6m)以上の差がある15データについては、“明らかに間違ったデータ” = “モデルに組み込まない”と判断して除去した(付表2)。

④データの棄却 データを評価する作業で、作成したモデルとそれぞれのデータがどれだけズレているかを計算し、偏差が大きいものはその側溝のデータではないと判断して排除する。今回は、③の作業を経た後での施工誤差の標準偏差は、仮造営角のもとで、1.788mであったので、偏差5.4m以上(標準偏差×3；おおむね危険率0.3%で有意)の7データを除去した(付表3)。

⑤造営角・造営尺・標準偏差の計算 ④のデータと③の条坊モデルから、最適の長岡京の造営角を計算し直す。そして、その造営角のもとで各データの座標値から原点の間のその実際の距離を計算し、それらをそれぞれが計画された尺数で割り戻して造営尺の平均を求め、その標準偏差を計算する。^(注9)

以上の過程を経て作成した今回の条坊モデルの最終結果は、405データ中22データを棄却し、造営角224.1秒(0°3'44.1"；座標北から東)、造営精度1.6340m、造営尺29.59799±0.10308cm^(注10)であった。

3. 長岡京均等宅地型モデル

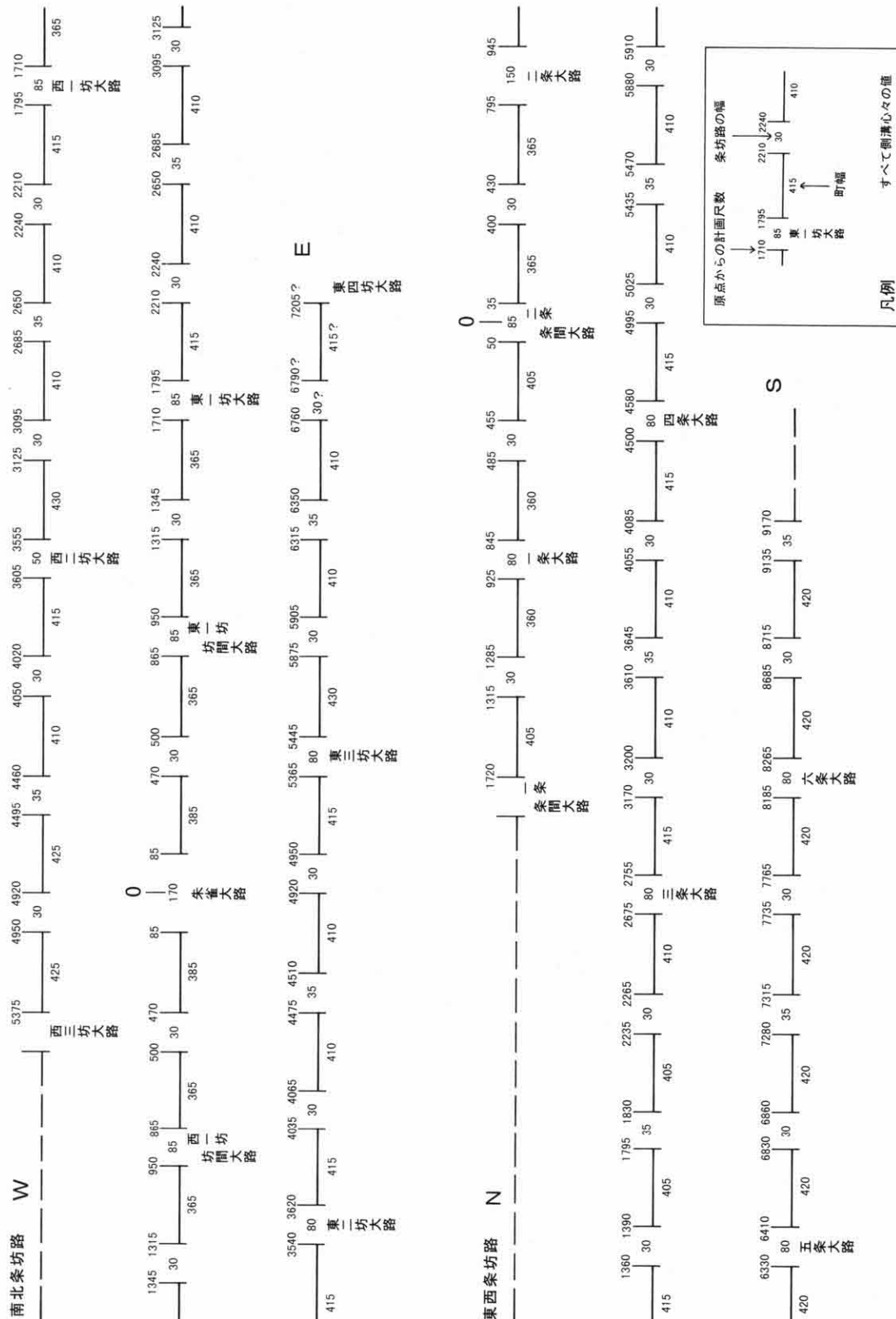
ここでは、今回作成した条坊モデルの内容と、その問題点について見ておきたい。今回作成した計画の造営原理は、均等宅地型原理と呼ぶべきもので、“できるだけ”均等な宅地を設定しようと意図したものである。なお、以下の記述の中で特に表記がない場合は、すべて側溝心々間で測った長さである。

a) 均等宅地型モデル(第2図)

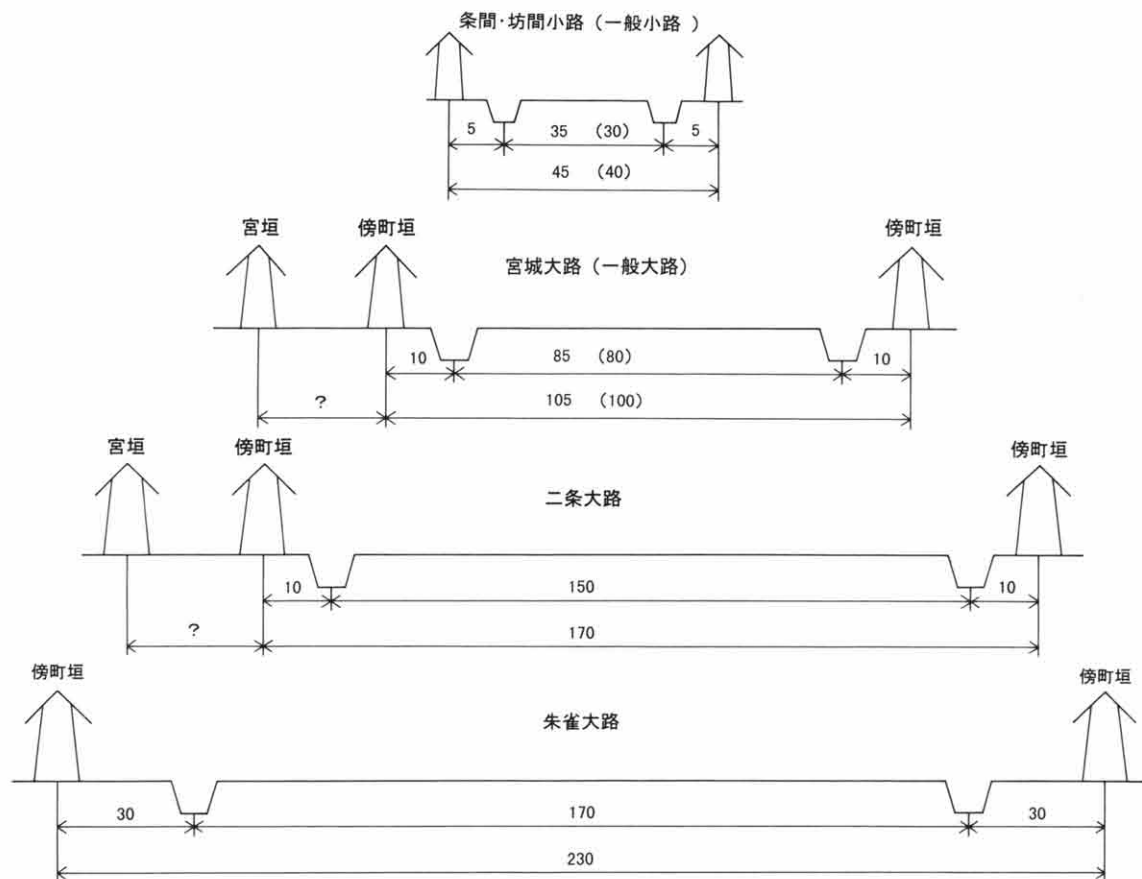
このモデルは築地心々で一町の幅を35丈または40丈のどちらかに揃えようとしたもので、宅地を均一にするという点で平安京に近いものである。宅地には築地心々で35×40丈と40×40丈の二様があり、これらの宅地に大路・小路の幅を加えたものである。

条坊路は側溝心々で、朱雀大路が170尺、二条大路が150尺、宮城に取り付く大路が85尺、通常の大路が80尺、条間・坊間小路が35尺、通常的小路が30尺で、大路・小路ともにそれぞれ二様があるのは平城京と同じである。それぞれの条坊路と宅地は、宮城南面部が、朱雀大路東側溝より東に、385-30-365-85-365-30-365尺に条坊側溝が配置されて東一坊大路に至り、これはそのまま右京に対称する。二条大路以北は均等宅地型の原理に反するところで、これについては後述するが、二条大路北側溝から北に、365-30-365-85-405-30-360-80-360-30-405尺の位置に側溝が掘削されて一条条間大路に至る。これより北側の条坊路については、それぞれのデータを現時点では見分けられないため不明である。それ以外の条や坊では基本的に、415-30-410-35-410-30-415尺に割り付けられて条坊側溝が掘削されている。以上のように条坊側溝を配置し、側溝心々間で一町分の長さが異なるのを大路と小路に取り付く築地や犬走りの規模の違いと考えると、基本的に築地心々で二様の均一な宅地が設定できる。宅地の規模は築地心々で、宮城南面部が東西35丈、

二一四坊の東西が40丈、二条大路以南は基本的に南北40丈の幅を有している。ただし、宮城東・西面部の南北幅は不規則である。条坊路の規模を以下に記す(第3図)と、朱雀大路は、側溝心々^(注11)170尺で、側溝心から築地心までが30尺で、築地心々の道路幅が230尺(以下同順)、二条大路は150尺と10尺で170尺である。大路は宮城に取り付くものが85尺と10尺で105尺、通常の大路が80



第2図 長岡京の計画



第3図 条坊路築地(単位は尺)

尺と10尺で100尺、坊間小路・条間小路が35尺と5尺で45尺、通常の小路が30尺と5尺で40尺である。

この造営原理は山中氏の考えと同一で、「できうる限りにおいて(という限定をつけた上で;問題点については後述)、築地心々間で測った一町の大きさを35丈または40丈に揃えようとする」ものである。山中氏の主張をまとめると、宮城南面街区が35×40丈、宮城東・西面街区が35×40丈、左・右京街区が40×40丈というように、35×40丈と40×40丈の二様の宅地に道路幅がつけ加わったというものであるが、発掘調査データを尊重すると(=施工精度をより高くすると)、山中氏の主張ほどには規格化できない。

以上は原則であり、あまりにも単純化した言い方であって、これに当てはまらないものが随所で見られる。そういった問題点については項を改めて検討したい。

b)均等宅地型モデルの問題点

いくつかの点で、上記の原理とは異なった設計を入れなければ、条坊データとうまく合致しない。以下、それぞれの問題について私見を述べたい。

①宮城東・西面街区の計画 一条大路が85尺ではなくて、80尺にしか復元できない。一条大路の南・北側溝は併せて14データあり、データの偏差も比較的まとまっているので、全体の標準偏差を悪くしてでも、路面幅を85尺にするかどうかは、これ以北の条坊がどのように検出され、

そのデータをどう解釈するかに関わっている。さらに、二条大路以北の町の南北幅が不揃いで、築地心々で350尺という均一な宅地は設定し難く、ここをも全体としての“造営原理”で捉えようとすると、今回の造営原理とは全く違う原理を考案する必要があるだろう。もし今回提示した造営原理の枠内で解釈すると、一つは、メタ造営原理—宮城内は建物や官衙配置に規制された地割りをしており、二条大路以北はその計画に規制されているために均等宅地型という造営原理からはズレている、を設定することである。

②西二坊坊間西小路より西側の計画 西二坊大路幅(西三坊大路も?)が他の大路と較べて狭く、50尺幅にしか設定できない。そして、西二坊坊間西小路—西二坊大路間が430尺で、本来の415尺より15尺大きい(これについては⑤で触れる)。さらに、西三坊坊間小路より西側の街区の東西幅が425尺で、本来ならば、東から410-415尺となるべきところである。西二坊坊間西小路より西側では変則的な町しか設定しえず、これは西三坊大路東側溝が2点、西三坊坊間西小路東側溝が3点、西三坊坊間小路東・西側溝が各々1点とデータ数が少ないことも一因であろう。くわえて、西二坊坊間西小路を境にして東側と西側とでは違った造営原理で設計されている可能性もある。今後のデータ数の増加をまって検討したい。

③五条条間南小路以南の計画 均等宅地型モデルでは、五条条間南小路以南の町が420尺で計画されているが、これはすべての小路の築地が大路や条間小路と同じく、側溝心から10尺の位置に造られたと考えれば、一応、築地心々で40丈の宅地を設定できる。または、道幅は規格通りで、築地心々の一町の大きさが410尺と405尺になっているとも考えられる。右京96次調査では六条条間小路の両側溝と路面を検出している。報告によると、南側溝幅2.5mで「その南約2mの所で」SD9606(幅0.7m)を検出している。南側溝心からSD9606までが3.2m程度あり、この1/2のところのところに宅地を画する施設があったとすると、5～6尺程度が側溝心—築地心の間隔となる。しかしながらこの溝はその南で検出した掘立柱建物の雨落ち溝と報告されているため、この計算でよいのかどうかの確証はない。現時点では資料も少なく、築地や柵列を実際にどの様に復元するかにもよるため、決め手がない。

④20尺ズレる条坊側溝 一部の条坊側溝で、計画線から20尺または10尺のズレが認められるところがある。辻氏は、平城京・長岡京・平安京でそれぞれ10尺ズラして施工されている場合があると指摘している(辻1994a)が、今回のモデルでは20尺のズレを考慮しなければならない所がある。平城京でも20尺のズレを考慮しなければならない条坊が認められる^(注12)。なお以下の記述の中で、「ズレている」としたものは、今回のモデルにそのズレを組み込んで計算したが、「可能性がある」としたものについては、そのズレをモデルに組み込んで計算しておらず、本文中でその可能性を指摘したに止めている。

均等宅地型モデルでは、六条条間小路が、西一坊大路周辺(さらに東からか?)から西二坊坊間小路にかけて20尺南にズレている(北側溝データ数4：南側溝データ数2)。四条条間小路北側溝は、東四坊坊間小路から東一坊坊間東小路にかけて20尺北にズレている可能性がある(データ数4)。そのほかにも東二坊大路や六条大路で10尺(約3m)のズレを認めた方が良さそうな所もあ

るが、標準偏差が1.63m前後であるので、3mのズレは標準偏差×2の範囲内にあるため(95%有意であるので)、通常の誤差の範囲内とも考えられる。今後の検討課題である。

⑤東西に15尺広い町幅 南北方向の条坊側溝の配置は比較的整っていて造営原理どおりであるが、西二坊大路東側と東三坊大路東側の町の東西幅が共に15尺大きく設定せざるをえない。これについては、堀河が計画されたためと考えると一応は解釈できる。平安京では東・西堀河小路は東・西二坊坊間小路に相当する条坊に位置している。これらは、発掘調査によって通常の小路幅(築地心々間：以下同)の4丈ではなく、堀河を中央にして東・西に20尺程度の道を有した8丈の幅であったことが判明している。平安京では、この堀河の幅分を当初の計画段階で組み込んでおり、一町の幅40丈を崩していない。一方平城京では、西一坊大路西側の町と東三坊坊間小路の東側の町に東・西堀河が造られている。平城京の堀河でまず注目されるのは、東・西堀河が朱雀大路を中心に対称する位置にないことである。次いで、堀河を条坊の大路や小路と組み合わせて設定していない点である。すなわち、一町の端辺ではなく、中央を貫流しているのである。さらに、平城京の造営原理から考えても当然だが、堀河の幅分を町幅に加えていないこと、南北に直線的に掘削されるのではなく、東西方向にも掘削されて平面で見ると「階段状」になっていることが、平城京の堀河と異なる点である。

さて長岡京では、東四坊坊間小路と同西小路の間で行われた左京334次調査で、二条条間大路を横切った南北流路(幅約3.1m)を確認しており、この南側の左京333次調査でもこの続きと考えられる流路を検出している。もしこれを東堀河とすると、基本的には平城京的(左右京非対称、南北に貫流しない、町の中を通じる)であるが、15尺を一町に加えて、“極端に”宅地が狭くなるのを防いでいるという意味で、平安京的な性格を見て取れる。もしこの解釈どおりならば、不明確な東西市の場所の推定に、堀河の位置の推定は役立つであろう。

⑥5尺狭い町幅 三条条間北小路より南側で三条大路と間の街区では、その南北幅が設計どおりのものより5尺狭い。これは、築地間395尺で一町としたのか、または、築地一側溝間の幅を調整し、あくまで一町40丈としたのか、よくわからないところである。

三条条間小路の調査例を左京196次調査では、北側溝の座標が $X=-118,062.25$ で、その北側で検出した柵列の座標が $X=-118,059.75$ で、心々で2.5m(8.3尺)を測る。南側溝は $X=-118,071.5$ で、その南側の柵列の座標は $X=-118,072.75$ であるので、心々1.25m(4尺)となる。これだけでは側溝一築地間を狭めたのかどうか分からないが、三条条間小路の柵列と柵列の間は13.0mで44尺となり、計画の45尺に近似する。類例は少ないが、この例を尊重すると、おそらく一町395尺に設定したのであるから、40丈の宅地という原則は崩れていたであろう。^(注13)

4. まとめ—今後の課題と展望

今回作成した長岡京条坊モデルは405データを基にして作成した。最終結果を再度述べると、造営の原点を大極殿中心とすると、築地心々で一町の幅を40丈または35丈にできるだけ揃えるもので、405データ中22データを棄却した結果、標準偏差1.6340m、造営角224.1秒($0^{\circ}3'44.1''$):

座標北から東)、造営尺 29.59799 ± 0.10308 cmであった。その造営原理は、結果的に山中氏の条坊モデルと同じものであった。が、平安京の造営精度とはまだ40~50cm程度の差があり、長岡京が平安京と同程度の精度で造営されたと仮定すると、データにより適合したモデルを作成しうる余地があることは明白である。それでも、今回の条坊復元モデルでは、標準偏差1.6340mと比較的良好な値が出た。これは、計画線からわずか5.5尺以内の誤差で造られているものが全データの2/3あり、11尺以上ズレるものがわずか5%ということだ。この事実から、長岡京には条坊原理がない(辻1994b)とか測量誤差による造営計画のズレ(鍋田1993)といった考えには妥当性が欠けることを明らかにした、と評価してもよからう。

しかしながら問題点も残った(これについては3-bで概述した)。南北条坊路では西二坊坊間西小路より東側で計画はほぼ原理通りであり、南北条坊路だけの施工誤差は1.4705mと非常に良い値となっている。それに対して東西条坊路の計画はやや不揃いで、造営原理から逸脱する場合を多く設定する必要がある、精度も1.8135mとやや悪い。長岡京の条坊計画モデルを作成するにあたっての問題点は、東西条坊路をどう考えるかに関わっているといても過言ではない。五条条間南小路以南が420尺で揃っている点や、宮城東・西面街区の設計、二条大路―三条大路間の町の設定など、東西条坊路の計画のほとんどが今回提示した造営原理からはずれている。今回のモデルで提示した原理よりもより統一的に解釈できる他の造営原理があるのか、今回提示した造営原理の枠組みの中での細目の修正でよいのか、今後とも検討を加えていきたい^(注14)。

筆者もまた、長岡京の研究を進める上で、長岡京全体の計画がどのようになされたかを考える必要があると考えている。長岡京は正都か仮の都か、宅地の利用状況や都城の整備状況などを検討するにも、その骨組みがどのように計画・造営されていたかについて一定の考えを持つことが肝要だからだ。しかし、長岡京の発掘調査に携わって数年経つが、長岡京の条坊計画の不明瞭さに納得し難い思いを抱き続けてきた。大路の位置に小路幅の遺構しか見つからない、従来の条坊案を二町上げるか下げるか、^(注15)四條大路以南が南北に長くなる、西二坊大路が他の大路と路幅が違う、どれぐらいの施工精度があるのか、造営された角度は、10年間でどれだけ造営されていたのか、築地の構造は、条坊路と宅地内の計画との関係は、等々。その中でも、平城京と平安京に時間的に夾まれながらも、その計画原理がよく分からないという点が釈然としない思いであった。この論考を終えるに際しても、基本的にはそういった問題点のほとんどは解決できないままであった。しかし、この小論で提示した内容・方法はそういった思いを抱いてきた筆者に、長岡京の都城計画の研究が今後は平城京や平安京と同じテーブルに載るのでは、という期待を抱かせるものとなった。
(1996年5月22日脱稿)

この小論は、1994年9月と1995年5月の長岡京連絡協議会の資料報告で発表した内容を基にして、その後のデータを追加してまとめたものである。発表の席上では、協議会の参加者から有益な御批判・御教示を得た。協議会を離れても、多くの方々から御教示を得た。その中でも特に、山中章氏、辻純一氏からは有益なお話をうかがえた。ここに記して感謝の意に替えます。

(いわまつ・たもつ=当センター調査第2課調査第4係調査員)

- 注1 1996年5月17日現在で宮内が326次、左京で387次、右京で526次の調査が実施されており、総計1239回の発掘調査がなされている。
- 注2 これ以前の考え方は、平城京や平安京の都城計画をそのまま長岡京の遺存地割りに当てはめるもので、長岡京の発掘データを積極的に解釈し、造営計画の違いやデータのズレを考えていこうとするものではなかった。例；内田1984
- 注3 可能性として辻氏の主張もありうるが、先に紹介したような設計原理が平城京と平安京にあるとするならば、平城京→長岡京→平安京という都城の流れを考えると、やはり何らかの設計原理が長岡京の造営に際しても存在したとするのが妥当だと考える。
- 注4 実際の計算にはNEC製PC9801VX21を用いてN88日本語BASICでプログラムを組んで、倍精度で計算を行った。文末の一覧表は、最終結果を表計算ソフトで再計算したものである。
- 注5 標準偏差は、母集団は平均値を中心に誤差をもって正曲分布するという考え方に則って、(理論値－計測値＝偏差)として、すべてのデータについて偏差の二乗(偏差平方)の和を(データ数－1)で除した値の平方根である。平均値から±標準偏差の範囲に全データの2/3、±標準偏差×2の範囲に約95%、±標準偏差×3の範囲に約99.7%のデータが分布する。標準偏差の値が小さいほどデータのバラつきが小さいこととなり、これを造営の正確さ＝精度と考えると、標準偏差の値が小さいほど精度が高く造営されたと言える。
- 注6 埋没の段階にも地震や地盤沈下といった営力による地形の変形などが、計画図と発掘データとの間の誤差を生み出していることも考えられる。将来的には、そういった要因も析出される可能性がある。
- 注7 実際には、もし大きな誤差を有していたとしても、以下の本文中にあるように多量のデータを統計処理する中で排除されるであろう。
- 注8 条坊呼称は山中論文(1992)の新条坊名を用いており、旧来の条坊呼称で報告されたものについては新条坊の呼称に読み換えてある。また、今回の条坊モデルに組み込む際に、東側溝⇔西側溝、北側溝⇔南側溝に換えているものもある。
- 注9 造営尺の算出は以下のように行った。最終結果の造営角のもとで、それぞれの条坊側溝データと原点との間の距離をその計画の尺数で除した値を一尺の値とし、それらから平均値と標準偏差を計算した。しかし二条間大路や朱雀大路をはじめとして、原点に近いデータは除する尺数が小さいので、そのぶん偏差(平均値との差)が大きくなる。その偏差は、大きいものでは一尺あたり10cmを超えるものがあり、もはや同一の物差しで計測したとは言えないくらいである。そのため、原点から500尺以内の条坊側溝では偏差が大きすぎるため、尺度の平均計算から除外した。本来ならば、そういったデータは造営角の計算や造営精度の計算からも除外すべきなのかも知れないが、今回は尺度の計算から除外しただけである。
- 注10 データと理論値(＝造営計画)との差を偏差としているので、偏差を大きい方から順に除去できればできるほど、それだけ偏差の分散が狭まってくる＝造営精度を高めることが可能である。これは、“偏差が大きいゆえに設定した計画モデルとは合致しない”と判断して、計画モデルに都合の悪いデータを廃棄していくのだから当然である。たとえば、④の段階で標準偏差×2(3.6m)以上の偏差を有するデータを除去して⑤を計算すると(危険率5%)、本文中で述べた以外にさらに20データが除去でき、残った363データを基に計算すると、造営角が $236.5''(0^{\circ}3'56.5'')$ 北で東、造営精度が全体で 1.3682m 、造営尺が $29.59919 \pm 0.10036\text{cm}$ であった。現時点ではどの程度の範囲でデータを除去すればよいのか、すなわち、全データの中にどれだけ条坊側溝でないものが含まれているのかについて明確な考えを有していないので、慎重を期して本文中のように標準偏差×3の範囲外に分布するデータを除外することとした。
- 注11 以下の値は発掘調査によって確かめられた数値ではなく、均一な宅地を設定するための机上の“理論値”である。
- 注12 詳細は省くが、長岡京連絡協議会の報告の際に平城京についても同じ作業をした。平城京の計画は、

450尺に基準線を割り付けて大路・小路を割り取るものとしたが、基準ラインは大路が路面の中央に、小路は山中氏が言う片側の側溝に合致する場合も設定した。各条坊路の規模は井上氏(1985)の考えを用いた。218個のデータを用いて計算したが、20尺ズレていると思われる場合が多々認められた。特に、西二坊大路東側溝(一条大路—三条条間小路)が西に、西二坊坊間小路西側溝(六条大路—八条大路)が西に、東三坊大路東側溝(一条条間大路—一条大路)が西にずれていると推測される。こういった点を考慮して井上氏+山中氏の計画モデルを修正して計算した結果、最終的には造営角 $0^{\circ}13'13''$ 北で西、造営尺29.599cm、造営精度1.77m前後となった。

注13 左京120次調査の三条条間小路の南側溝心(X=-118,069.58)と柵列(X=-118,073.25)とは、3.67m(12尺)を隔てており、小路における側溝—柵列間5尺という計画から大きくズレている例もある。

注14 平城京型により近い基準線割付型モデルというべき条坊計画も作成したが、今後検討を加えた上でより納得しうるものになった時点で紹介したい。

注15 この点については、一定の解決がはかられている(山中1992)。

参考文献

- 井上和人 1985 「古代都城制地割再考—藤原京・平城京を中心として」『研究論集Ⅶ 奈良国立文化財研究所学報 第41冊』 奈良国立文化財研究所
- 内田賢二 1984 「長岡京条坊復元のための平均計算」『長岡京 長岡京跡発掘調査研究所ニュース』第31号 長岡京跡発掘調査研究所
- 清水みき 1995 「桓武朝における遷都の論理」『日本古代国家の展開』上 思文閣出版
- 菅 民郎 1990 『入門 パソコン統計処理』下 技術評論社
- 辻 純一 1988 「平安京の条坊復原」『京都府埋蔵文化財情報』第27号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 1994a 「条坊制とその復元」『平安京提要』 角川書店
- 1994b 「長岡京条坊復元における一考察」『京都市埋蔵文化財研究所研究紀要』第1号 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 長宗繁一 1991 「長岡京条坊制についての私案」長岡京連絡協議会資料報告発表資料
- 鍋田 勇 1993 「長岡京条坊制地割計画の再考 上・下」『京都府埋蔵文化財情報』第48・49号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 山中 章 1992 「古代条坊制論」『考古学研究』第38巻第4号
- 鷺尾泰俊 1983 『日常の中の統計学』 岩波書店

付表 1

		原 点	X座標	-117,528.96	計算尺	29.6 cm					
		Y座標	-26,840.39	造営尺	224.101 "						
条坊名	側溝	計画尺	調査次数	遺 構 名	X座標	Y座標	理論値	施工誤差	造営尺	報 告	
西三坊大路	東	-5375	R 83	SD8315	-118,092.0	-28,434.0	-28,432.003	-1.9973	0.2963716	府七 9	
		-5375	R 178	SD17801	-118,982.76	-28,431.99	-28,432.970	0.9805	0.2958176	長年S59	
西三坊坊間西小路	東	-4920	R 83	SD83215	-118,174.0	-28,297.1	-28,297.412	0.3117	0.2959367	府七 9	
		-4920	R 83	SD83224	-118,187.0	-28,297.2	-28,297.426	0.2258	0.2959541	府七 9	
西三坊坊間小路	西	-4495	R 105	SD10571	-118,865.0	-28,171.4	-28,172.362	0.9624	0.2957859	府七 9	
		-4460	R 411	SD41108	-119,510.00	-28,163.50	-28,162.703	-0.7969	0.2961787	府七53	
西二坊大路	西	-3605	R 141	SD14103	-118,308.0	-27,905.05	-27,908.317	3.2670	0.2950937	府七11	
		-3605	R 26	SD2601	-118,450.5	-27,912.2	-27,908.472	-3.7281	0.2970342	府教1980情報 2	
	-3605	立会91132	SD13	※ -119,575.0	※ -27,911.4	-27,909.694	-1.7064	0.2964733	長年H 3		
	-3605	R 90	SD9039	-119,586.5	-27,911.695	-27,909.706	-1.9889	0.2965517	長市 9		
	東	-3555	R 335	SD33501	-117,680.0	-27,893.95	-27,892.835	-1.1153	0.2963137	府七45	
		-3555	R 285	SD28501北端	-117,805.00	-27,894.45	-27,892.971	-1.4795	0.2964162	府七45	
		-3555	R 285	SD28501南端	-117,903.50	-27,894.40	-27,893.078	-1.3225	0.2963720	府七45	
		-3555	R 171	SD17104	-118,150.0	-27,894.85	-27,893.345	-1.5046	0.2964232	府七15	
		-3555	R 7	SD0731北端	-118,346.54	-27,895.29	-27,893.559	-1.7311	0.2964869	府1979	
		-3555	R 7	SD0731南端	-118,450.54	-27,895.52	-27,893.672	-1.8481	0.2965199	府1979	
		-3555	R 140	SD14001	※ -118,785.0	-27,892.37	-27,894.035	1.6653	0.2955316	長年 S 58	
		-3555	R 265	SD26503	-118,839.0	-27,892.0	-27,894.094	2.0939	0.2954110	長市20	
		-3555	立会91132	SD34	※ -119,575.0	※ -27,897.5	-27,894.894	-2.6064	0.2967332	長年H 3	
		-3555	R 90	SD9040	-119,586.5	-27,898.295	-27,894.906	-3.3889	0.2969533	長市 9	
西二坊坊間西小路		東	-3095	R 386	SD38619	-117,872.0	-27,758.7	-27,756.883	-1.8168	0.2965870	長年H 3
			-2685	立会82103	SD821031	-119,228.5	-27,636.3	-27,636.997	0.6970	0.2957404	長年 S 57
西二坊坊間小路	西	-2685	R 194	SD19402	-119,703.35	-27,636.06	-27,637.513	1.4529	0.2954589	府七19	
		-2685	R 385	SD38502	-120,000.0	-27,637.7	-27,637.835	0.1352	0.2959497	長市29	
		-2685	R 448	SD38502	※ -120,017.0	※ -27,637.1	-27,637.854	0.7537	0.2957193	長市32	
		-2685	R 208	SD20809	※ -120,063.0	-27,637.5	-27,637.904	0.4036	0.2958497	長年 S 60	
		-2650	R 194	SD19404	-119,703.38	-27,627.48	-27,627.153	-0.3271	0.2961234	府七19	
		西一坊大路	西	-1795	R 365	SD01	※ -119,680.0	※ -27,372.9	-27,374.047	1.1474	0.2953608
-1795	R 165			SD16503	-119,724.0	-27,373.5	-27,374.095	0.5952	0.2956684	府七15	
-1795	R 77			SD7709	-119,777.6	-27,373.4	-27,374.153	0.7534	0.2955803	長市 9	
-1795	R 77			SD7706	-119,812.4	-27,373.5	-27,374.191	0.6912	0.2956149	長市 9	
東	-1710		P 250	SD25002	※ -117,084.0	※ -27,346.5	-27,346.067	-0.4331	0.2962533	府七43	
	-1710		R 398	SD39820	-119,466.0	-27,348.5	-27,348.655	0.1548	0.2959095	長年H 4	
	-1710		R 275	SD27505	※ -119,689.0	※ -27,345.9	-27,348.897	2.9971	0.2942473	長年 S 62	
	-1710		R 165	SD16507	-119,726.2	-27,348.6	-27,348.938	0.3375	0.2958026	府七15	
	-1710		R 77	SD7701北端	-119,769.6	-27,348.8	-27,348.985	0.1847	0.2958920	長市 9	
	-1710		R 77	SD7701南端	-119,803.8	-27,349.0	-27,349.022	0.0219	0.2959872	長市 9	
西一坊坊間西小路	西	-1345	R 39	SD3904	※ -120,785.0	※ -27,238.2	-27,242.048	3.8478	0.2931392	長市11	
		-1345	R 126	SD12601	※ -120,867.0	※ -27,238.5	-27,242.137	3.6369	0.2932960	長年 S 58	
	東	-1315	R 278	SD27832	-119,386.0	-27,230.6	-27,231.648	1.0479	0.2952032	長年 S 62	
		-865	R 377	SD37716	※ -120,905.0	-27,102.4	-27,100.098	-2.3019	0.2986611	長年H 3	
西一坊坊間東小路	西	-500	R 401		※ -119,625.0	-26,990.4	-26,990.667	0.2674	0.2954652	長年H 4	
		-500	R 279	SD27947	※ -119,800.0	-26,991.0	-26,990.858	-0.1425	0.2962850	長七 4	

	東	-470	P 208	SD20803	-116,628.0	-26,978.34	-26,978.531	0.1912	0.2955932	向市25
		-470	R 401	SD27	※ -119,620.0	※ -26,982.4	-26,981.782	-0.6181	0.2973150	長年H 4
		-470	R 279	SD27950	※ -119,770.0	-26,983.0	-26,981.945	-1.0551	0.2982449	長七 4
朱雀大路	西	-85	R 161	SD16103	※ -118,175.0	-26,867.55	-26,866.252	-1.2981	0.3112715	向市17
		-85	R 65	SD1035	※ -119,902.0	※ -26,866.8	-26,868.128	1.3282	0.2803740	長市 8
		-85	R 10	SD1035	-120,051.955	-26,867.065	-26,868.291	1.2262	0.2815744	長市 5
東一坊坊間大路	西	865	L 232	SD23235	※ -118,219.0	-26,586.70	-26,585.100	-1.6004	0.2941498	向市28
	東	950	L 228	SD54	-119,270.0	-26,561.7	-26,561.081	-0.6086	0.2953594	長年H元
		950	L 275	SD27503	※ -119,875.0	-26,562.0	-26,561.739	-0.2613	0.2957250	長市29
		950	L 184	SD18404	-119,924.00	-26,562.50	-26,561.792	-0.7080	0.2952547	長市20
東一坊坊間東小路	西	1315	L 226	SD22619	※ -118,507.0	-26,452.3	-26,452.212	-0.0876	0.2959334	府七39
		1315	L 252	SD25251	-118,540.0	-26,452.26	-26,452.248	-0.0118	0.2959911	府七43
		1315	L 353	SD35313	※ -118,580.0	-26,453.0	-26,452.292	-0.7083	0.2954614	情報57
		1315	L 199	SD19	※ -119,250.0	※ -26,454.0	-26,453.020	-0.9804	0.2952545	長年S 63
		1315	L 176	SD17633	※ -119,294.0	※ -26,453.9	-26,453.067	-0.8326	0.2953669	長年S 62
		1315	L 204	SD14	※ -120,080.0	※ -26,455.5	-26,453.921	-1.5786	0.2947995	長年S 63
	東	1345	L 226	SD22609	※ -118,507.0	-26,443.7	-26,443.332	-0.3676	0.2957267	府七39
		1345	L 252	SD25250	-118,534.0	-26,443.76	-26,443.362	-0.3983	0.2957039	府七43
		1345	L 353	SD35314	※ -118,580.0	-26,444.0	-26,443.412	-0.5883	0.2955626	情報57
		1345	L 199	SD21	-119,250.0	-26,444.8	-26,444.140	-0.6604	0.2955090	長年S 63
		1345	L 176	SD17635	※ -119,300.0	※ -26,444.5	-26,444.194	-0.3060	0.2957725	長年S 62
		1345	L 204	SD07	※ -120,080.0	※ -26,446.5	-26,445.041	-1.4586	0.2949155	長年S 63
東一坊坊路	西	1710	P 198	SD19801西肩	-116,493.3	-26,332.5	-26,333.104	0.6045	0.2963535	向市24
		1710	P 210	SD21003北端	-117,280.0	-26,333.47	-26,333.959	0.4892	0.2962861	向市25
		1710	P 210	SD21003南端	-117,325.0	-26,333.42	-26,334.008	0.5881	0.2963439	向市25
		1710	L 292	SD05	-119,241.5	-26,337.02	-26,336.090	-0.9297	0.2954563	長年H 4
	東	1795	P 125	SD12503	※ -117,130.0	※ -26,307.9	-26,308.636	0.7362	0.2964102	府七 8
		1795	P 210	SD21013北端	-117,295.0	-26,308.75	-26,308.815	0.0655	0.2960365	向市25
		1795	P 210	SD21013南端	-117,325.0	-26,308.98	-26,308.848	-0.1319	0.2959265	向市25
		1795	L 258	SD25817	※ -118,858.0	-26,312.25	-26,310.514	-1.7363	0.2950327	向市31
		1795	L 125	SD12514	※ -119,150.0	-26,312.2	-26,310.831	-1.3691	0.2952373	長年S 60
		1795	L 311	SD31103	-119,668.1	-26,313.3	-26,311.394	-1.9062	0.2949381	長年H 5
		1795	L 316	SD31103	-119,748.2	-26,313.3	-26,311.481	-1.8192	0.2949865	長年H 5
東二坊坊間西小路	西	2210	L 222	SD22201	-116,644.00	-26,185.60	-26,185.268	-0.3319	0.2958498	府七38
		2210	L 120	SD12032北端	※ -118,076.0	-26,186.65	-26,186.824	0.1740	0.2960787	向市18
		2210	L 120	SD12032南端	※ -118,131.0	-26,186.75	-26,186.884	0.1337	0.2960605	向市18
		2210	L 43	SD4306	-118,980.60	-26,186.60	-26,187.807	1.2068	0.2965461	L 220向市34引用
		2210	L 69	SD4306	-118,991.50	-26,186.50	-26,187.819	1.3186	0.2965967	L 220向市34引用
		2210	L 278	SD12	-119,393.2	-26,188.3	-26,188.255	-0.0449	0.2959797	長年H 3
		2210	L 212	SD21222	※ -119,575.0	※ -26,188.8	-26,188.453	-0.3474	0.2958428	長年S 63
		2210	L 216	SD216015	-119,730.0	-26,190.5	-26,188.621	-1.8790	0.2951498	府七40
		2210	L 216	7BL10tr SD216015	-119,856.0	-26,189.6	-26,188.758	-0.8421	0.2956190	府七40
		2210	L 216	7BL22tr						
	東	2240	L 41	SD4101	-116,595.0	-26,176.5	-26,176.335	-0.1651	0.2959263	情報 2
		2240	L 220	SD22020	-116,639.0	-26,175.75	-26,176.383	0.6327	0.2962825	向市34
		2240	立会8018	SD5201	-117,920.70	-26,177.80	-26,177.775	-0.0248	0.2959889	L 220向市34引用
		2240	L 52	SD5201	-118,025.00	-26,178.50	-26,177.889	-0.6115	0.2957270	L 220向市34引用
		2240	L 120	SD5201北端	※ -118,038.0	※ -26,178.2	-26,177.903	-0.2973	0.2958673	向市18
		2240	L 120	SD12031南端	※ -118,131.0	-26,177.71	-26,178.004	0.2937	0.2961311	向市18
		2240	L 43	SD4305	-118,970.50	-26,178.50	-26,178.916	0.4158	0.2961856	L 220向市34引用
		2240	L 278	SD13	-119,393.2	-26,179.1	-26,179.375	0.2751	0.2961228	長年H 3
		2240	L 212	SD21223	※ -119,575.0	※ -26,179.5	-26,179.573	0.0726	0.2960324	長年S 63

		2240	L 216	SD216016 7BL10tr	-119,700.0	-26,180.8	-26,179.708	-1.0916	0.2955127	府七40
		2240	L 216	SD216016 7BL22tr	-119,830.0	-26,181.19	-26,179.850	-1.3404	0.2954016	府七40
		2240	L 302	SD30204	-119,949.4	-26,181.18	-26,179.979	-1.2006	0.2954640	長年H 5
		2240	L 302	SD30203	-119,983.0	-26,181.6	-26,180.016	-1.5841	0.2952928	長年H 5
東二坊坊	西	2650	L 140	SD1402	-117,321.9	-26,055.6	-26,055.765	0.1646	0.2960621	京市60・情報2
間小路		2650	L 323	SD32306	-117,341.0	-26,055.5	-26,055.785	0.2853	0.2961077	向市39
		2650	L 284	SD28402	-117,347.9	-26,054.33	-26,055.793	1.4628	0.2965520	向市37
		2650	L 276	SD27602	-117,708.5	-26,057.5	-26,056.185	-1.3154	0.2955036	向市36
		2650	L 22	SD2211	-117,866.8	-26,054.5	-26,056.357	1.8566	0.2967006	向市7
		2650	L 289	SD28901	-118,963.00	-26,055.50	-26,057.548	2.0476	0.2967727	向市38
		2650	L 307	SD30705	-119,518.0	-26,057.22	-26,058.151	0.9306	0.2963512	長年H 5
	東	2685	L 140	SD1406	-117,327.7	-26,046.3	-26,045.411	-0.8891	0.2956689	京市60・情報2
		2685	L 323	SD32305	-117,341.0	-26,046.48	-26,045.425	-1.0547	0.2956072	向市39
		2685	L 284	SD28401	-117,347.9	-26,046.28	-26,045.433	-0.8472	0.2956845	向市37
		2685	L 51	SD5102北端	-117,845.4	-26,047.2	-26,045.973	-1.2267	0.2955431	向市7
		2685	L 51	SD5104南端	-117,882.5	-26,047.0	-26,046.014	-0.9864	0.2956326	向市7
		2685	L 163	SD5101西肩	-117,928.80	-26,047.00	-26,046.064	-0.9361	0.2956514	向市27
		2685	L 120	SD12075 ※	-118,053.0	-26,046.69	-26,046.199	-0.4911	0.2958171	向市18
		2685	L 120	SD12076北端 ※	-118,071.0	-26,046.62	-26,046.218	-0.4016	0.2958504	向市18
		2685	L 120	SD12076南端 ※	-118,120.0	-26,046.64	-26,046.272	-0.3683	0.2958628	向市18
		2685	L 170	SD17020 ※	-118,910.0	-26,047.7	-26,047.130	-0.5700	0.2957877	向市24
		2685	L 307	SD30706	-119,518.0	-26,048.35	-26,047.791	-0.5594	0.2957916	長年H 5
東二坊坊	西	3095	L 211	SD21103	-117,511.00	-25,922.25	-25,924.250	1.9999	0.2966462	向市30
間東小路		3095	L 239	SD10 ※	-119,120.0	-25,926.73	-25,925.998	-0.7319	0.2957635	長年H元
		3095	L 230	SD23016 ※	-119,940.0	-25,927.9	-25,926.889	-1.0110	0.2956733	長年H元
	東	3125	L 166	SD16604 ※	-117,382.5	-25,914.60	-25,915.230	0.6303	0.2962017	向市30
		3125	L 211	SD21130	-117,449.0	-25,914.0	-25,915.303	1.3026	0.2964168	向市30
		3125	L 239	SD09	-119,120.0	-25,917.23	-25,917.118	-0.1119	0.2959642	長年H元
		3125	L 230	立会89195次	-119,905.0	-25,918.4	-25,917.971	-0.4290	0.2958627	長年H元
東二坊大	西	3540	L 169	SD16946西肩	-117,377.70	-25,792.50	-25,792.385	-0.1150	0.2959675	向市30
路		3540	L 218		-117,581.00	-25,791.00	-25,792.606	1.6059	0.2964536	都城2・NM
		3540	L 290	SD16201	-117,757.96	-25,790.86	-25,792.798	1.9382	0.2965475	向市38
		3540	L 162	SD16201後期	-117,777.0	-25,790.0	-25,792.819	2.8189	0.2967963	向市27
		3540	L 162	SD16201前期	-117,807.30	-25,790.25	-25,792.852	2.6018	0.2967350	向市27
		3540	L 196	SD19601北端	-118,056.0	-25,791.10	-25,793.122	2.0220	0.2965712	向市34
		3540	L 196	SD19601南端	-118,106.0	-25,791.35	-25,793.176	1.8263	0.2965159	向市34
		3540	L 144	SD14405	-118,341.00	-25,791.65	-25,793.432	1.7816	0.2965033	向市22
		3540	L 107	SD10711 ※	-118,597.0	※ -25,797.0	-25,793.710	-3.2902	0.2950706	長年S 58
		3540	L 164	SD192 ※	-118,908.0	※ -25,795.9	-25,794.048	-1.8523	0.2954767	向市27
		3540	L 4-2・3		※ -118,945.0	-25,797.4	-25,794.088	-3.3121	0.2950644	京市H 3
		3540	L 87	SD8709 ※	-119,591.0	-25,796.83	-25,794.790	-2.0403	0.2954237	長七 1
		3540	水垂G-1		-120,232.70	-25,795.80	-25,795.487	-0.3131	0.2959116	連協95-1(京市)
		3540	水垂G-1		-120,242.50	-25,795.80	-25,795.498	-0.3024	0.2959146	連協95-1(京市)
		3540	水垂G-1		-120,292.00	-25,796.09	-25,795.551	-0.5387	0.2958478	連協95-1(京市)
		3540	水垂G-2		-120,359.69	-25,795.60	-25,795.625	0.0249	0.2960070	連協95-1(京市)
	東	3620	L 160	SD01 ※	-117,040.0	-25,769.90	-25,768.338	-1.5619	0.2955685	府七23
		3620	L 285	SD28502	-117,247.50	-25,767.15	-25,768.564	1.4136	0.2963905	向市36
		3620	L 89	SD8901北端	-117,280.00	-25,766.80	-25,768.599	1.7989	0.2964969	向市13
		3620	L 89	SD8901南端	-117,380.00	-25,766.90	-25,768.708	1.8075	0.2964993	向市13
		3620	L 100	SD10002北端 ※	-117,536.0	-25,766.20	-25,768.877	2.6770	0.2967395	向市11
		3620	L 100	SD10002南端 ※	-117,586.0	-25,766.50	-25,768.931	2.4313	0.2966716	向市11

			3620	L 248	SD10002北端	-117,606.0	-25,766.5	-25,768.953	2.4531	0.2966776	向市37
			3620	L 248	SD10002南端	-117,695.0	-25,766.4	-25,769.050	2.6498	0.2967320	向市37
			3620	L 290	SD10002	-117,760.02	-25,766.88	-25,769.120	2.2404	0.2966189	向市38
			3620	L 196	SD19602北端	-118,056.4	-25,766.8	-25,769.442	2.6424	0.2967299	向市34
			3620	L 196	SD19602南端	-118,106.0	-25,767.5	-25,769.496	1.9963	0.2965515	向市34
			3620	L 241	SD24123	-118,395.00	-25,768.50	-25,769.810	1.3103	0.2963620	府七47
				6BL9tr							
			3620	L 241	SD24118	-118,532.00	-25,769.00	-25,769.959	0.9591	0.2962650	府七47
				5BL18tr							
			3620	L 164	SD193	※ -118,908.0	※ -25,771.4	-25,770.368	-1.0323	0.2957148	NM
			3620	L 4-2-3		※ -118,940.0	-25,771.8	-25,770.402	-1.3976	0.2956139	京市H 3
			3620	水垂E-1		-119,905.00	-25,771.78	-25,771.451	-0.3291	0.2959091	連協95-1(京市)
			3620	L 87	SD8710	※ -119,591.0	-25,772.33	-25,771.110	-1.2203	0.2956629	長七1
			3620	水垂E-1		-119,956.12	-25,771.60	-25,771.506	-0.0936	0.2959741	連協95-1(京市)
			3620	水垂E-1		-120,000.00	-25,771.51	-25,771.554	0.0441	0.2960122	連協95-1(京市)
			3620	水垂F-1		-120,148.00	-25,771.52	-25,771.715	0.1949	0.2960538	連協95-1(京市)
			3620	水垂G-1		-120,292.00	-25,771.38	-25,771.871	0.4913	0.2961357	連協95-1(京市)
			3620	水垂G-2		-120,388.66	-25,771.30	-25,771.976	0.6764	0.2961868	連協95-1(京市)
東三坊坊	西		4035	L 160	SD02	※ -117,037.0	-25,645.4	-25,645.495	0.0948	0.2960235	府七23
間西小路			4035	L 159	SD15915	-117,499.60	-25,646.60	-25,645.997	-0.6026	0.2958507	向市27
			4035	L 134	SD13406	※ -117,957.0	-25,646.10	-25,646.494	0.3943	0.2960977	向市22
			4035	L 151	SD15132	※ -118,167.0	-25,651.2	-25,646.723	-4.4775	0.2948903	府七22
			4035	L 122	SD40	-118,902.0	-25,647.1	-25,647.521	0.4211	0.2961044	京市59
			4035	L 93	SD40	-118,910.00	-25,646.60	-25,647.530	0.9298	0.2962304	京市57・NM
			4035	水垂D		-119,819.50	-25,647.70	-25,648.518	0.8179	0.2962027	連協95-1(京市)
			4035	水垂D		-119,828.90	-25,647.70	-25,648.528	0.8281	0.2962052	連協95-1(京市)
			4035	水垂E-1		-119,904.00	-25,647.26	-25,648.610	1.3497	0.2963345	連協95-1(京市)
			4035	水垂E-1		-119,955.90	-25,647.75	-25,648.666	0.9161	0.2962270	連協95-1(京市)
	東		4065	L 146	SD0203	-116,717.5	-25,632.5	-25,636.268	3.7677	0.2969269	向日市・YN
			4065	L 244	SD24401	-117,165.0	-25,636.52	-25,636.754	0.2339	0.2960575	向市32
			4065	L 134	SD13405	※ -117,957.0	-25,637.1	-25,637.614	0.5143	0.2961265	向市22
			4065	L 122	SD32	-118,902.0	-25,637.5	-25,638.641	1.1411	0.2962807	京市59
			4065	L 93	SX17	-118,910.00	-25,637.50	-25,638.650	1.1498	0.2962828	京市57・NM
			4065	水垂D		-119,819.50	-25,638.50	-25,639.638	1.1379	0.2962799	連協95-1(京市)
			4065	水垂D		-119,828.90	-25,638.30	-25,639.648	1.3481	0.2963316	連協95-1(京市)
東三坊坊	西		4920	L 267	SD26707	-117,662.00	-25,385.60	-25,384.214	-1.3863	0.2957182	府七51
間東小路				12BL13tr							
	東		4950	L 177	SD8	※ -117,615.0	※ -25,376.0	-25,375.283	-0.7174	0.2958551	京市62
			4950	L 267	SD26708	-117,652.00	-25,376.10	-25,375.323	-0.7772	0.2958430	府七51
				12BL13tr							
東三坊大	西		5365	L 361	SD溝5北	※ -117,387.0	※ -25,255.0	-25,252.195	-2.8052	0.2954771	情報58
路			5365	L 361	SD溝5南	※ -117,485.0	※ -25,255.0	-25,252.301	-2.6987	0.2954970	情報58
			5365	L 330	SD33001	※ -117,510.0	-25,254.90	-25,252.328	-2.5715	0.2955207	情報58
			5365	L 331		※ -117,597.0	※ -25,254.9	-25,252.423	-2.4770	0.2955383	情報58
			5365	L 133	SD88	-117,915.0	-25,253.5	-25,252.768	-0.7315	0.2958637	京市60
			5365	L 123		-118,135.00	-25,251.20	-25,253.008	1.8075	0.2963369	京市59・NM
			5365	L 104	SD10	-118,160.0	-25,253.24	-25,253.035	-0.2053	0.2959617	京市58
			5365	L 99	SD27	-118,823.00	-25,253.00	-25,253.755	0.7550	0.2961407	京市57・NM
	東		5445	L 361	SD溝6北	※ -117,420.6	※ -25,230.25	-25,228.551	-1.6987	0.2956880	情報58
			5445	L 361	SD溝6南	※ -117,481.8	※ -25,230.1	-25,228.618	-1.4822	0.2957278	情報58
			5445	L 329	SD32901	※ -117,486.0	※ -25,230.4	-25,228.622	-1.7776	0.2956735	情報58
			5445	L 315 B2a	SD315003	-117,570.0	-25,230.10	-25,228.714	-1.3864	0.2957454	府七61
			5445	L 333		※ -117,595.0	※ -25,229.8	-25,228.741	-1.0592	0.2958055	情報58
			5445	L 133	SD89	-117,915.0	-25,229.2	-25,229.088	-0.1115	0.2959795	京市60

		5445	L 104	SD 9	-118,160.0	-25,228.45	-25,229.355	0.9047	0.2961661	京市58
		5445	L 99	SD36	-118,828.00	-25,228.50	-25,230.080	1.5804	0.2962903	京市57・NM
		5445	L 59	SD 2	-118,906.3	-25,229.1	-25,230.165	1.0655	0.2961957	情報2
東四坊坊	西	5875	L 337		※ -117,460.0	※ -25,100.6	-25,101.314	0.7141	0.2961215	情報58
間西小路		5875	L 303 B1a	SD303002	-117,462.00	-25,101.20	-25,101.316	0.1162	0.2960198	府セ61
		5875	L 59	SD01	-118,895.5	-25,104.2	-25,102.874	-1.3263	0.2957742	情報2
	東	5905	L 303 B1a	SD303001	※ -117,460.0	※ -25,095.8	-25,092.434	-3.3660	0.2954300	府セ61
		5905	L 59	SD15	-118,900.00	-25,095.20	-25,093.999	-1.2014	0.2957965	京市55・NM
東四坊坊	西	6315	L 174	SD11	-118,889.00	-24,971.35	-24,972.627	1.2765	0.2962021	京市62・NM
間小路	東	6350	L 174	SD12	-118,889.00	-24,962.30	-24,962.267	-0.0335	0.2959947	京市62・NM
東四坊坊	西	6760	L 286 B1	SD28603	※ -117,210.0	※ -24,839.1	-24,839.082	-0.0177	0.2959974	府セ61
間東小路		6760	L 286 B2	SD286101	-117,250.0	-24,838.6	-24,839.126	0.5257	0.2960778	府セ61
一条条間	南	1720	L 227	SD22701	-117,020.55	-26,083.0	-117,020.663	0.1126	0.2951086	向セ30
大路		1720	L 150	SD15001	-117,020.75	※ -26,133.0	-117,020.608	-0.1417	0.2950239	向セ21
一条条間	北	1315	L 260	SD26001	-117,141.06	※ -26,146.5	-117,140.474	-0.5863	0.2944075	向セ33
南小路	南	1285	L 185	SD18504	-117,151.0	※ -26,030.0	-117,149.480	-1.5198	0.2934469	向セ30
		1285	L 260	SD26002	-117,151.14	※ -26,146.7	-117,149.353	-1.7865	0.2934367	向セ33
一条大路	北	925	L 286 B2	SD286102	-117,255.1	-24,853.0	-117,257.319	2.2191	0.2937304	府セ61
		925	L 285	SD28501	-117,256.40	-25,774.00	-117,256.318	-0.0816	0.2934067	向市36
		925	L 118	SD11805東端	-117,256.8	-25,928.0	-117,256.151	-0.6489	0.2931552	府セ15
		925	L 118	SD11805西端	-117,257.3	-26,034.0	-117,256.036	-1.2640	0.2927392	府セ15
		925	L 10	SD1007	-117,256.00	-26,060.00	-117,256.008	0.0077	0.2941751	府1977YN
		925	L 262	SD26201	-117,258.10	-26,146.60	-117,255.914	-2.1864	0.2920065	向市37
	南	845	L 286 B2	SD286103	-117,278.85	-24,880.0	-117,280.970	2.1198	0.2934674	府セ61
		845	L 89	SD8903南肩	-117,280.00	-25,765.00	-117,280.008	0.0082	0.2932443	向市13
		845	L 121	SD8903	-117,279.00	※ -25,780.0	-117,279.992	0.9919	0.2944471	向市27
		845	L 169	SD16910南肩	-117,280.40	-25,805.70	-117,279.964	-0.4360	0.2928233	向市30
		845	L 130	SD11806	-117,279.90	-25,988.00	-117,279.766	-0.1340	0.2936494	向市27
		845	L 118 南 3tr	SD11806	-117,279.8	-26,025.0	-117,279.726	-0.0742	0.2938153	府セ15
		845	L 14	SD1401東端	-117,282.4	-26,047.6	-117,279.701	-2.6988	0.2907675	長岡京9・10・情報2
		845	L 14	SD1401西端	-117,280.0	-26,138.0	-117,279.603	-0.3970	0.2937239	長岡京9・10・情報2
二条条間	北	485	L 363	溝 1 東端	※ -117,387.0	※ -25,255.5	-117,387.122	0.1219	0.2891505	情報58
北小路		485	L 363	溝 1 中央	※ -117,387.2	※ -25,287.0	-117,387.088	-0.1124	0.2888087	情報58
		485	L 139	SD13949	-117,387.0	-25,365.0	-117,387.003	0.0029	0.2893958	京市60・NM
		485	L 141	SD14102	-117,387.80	※ -25,624.0	-117,386.721	-1.0785	0.2883265	向市30
	南	455	L 363	溝 2 東端	※ -117,395.9	※ -25,256.0	-117,396.001	0.1013	0.2886561	情報58
		455	L 362	溝 2 西端	※ -117,396.3	※ -25,347.2	-117,395.902	-0.3978	0.2879948	情報58
		455	L 139	SD13949	※ -117,396.0	※ -25,365.0	-117,395.883	-0.1171	0.2886966	京市60・NM
二条条間	北	50	L 334		※ -117,512.6	※ -25,030.0	-117,516.127	3.5269	0.2878610	情報58
大路		50	L 315	SD315001	-117,513.8	-25,170.0	-117,515.975	2.1748	0.2669032	府セ61
		50	L 330	SD33003	※ -117,514.5	※ -25,270.0	-117,515.866	1.3662	0.2550761	情報58
		50	L 139	SD104	-117,515.00	-25,365.00	-117,515.763	0.7630	0.2471404	向市27L159引用
		50	L 159	SD15922	-117,516.10	-25,645.20	-117,515.459	-0.6415	0.2312290	向市27
	南	-35	L 334		※ -117,536.8	※ -25,030.0	-117,541.287	4.4869	0.2801981	情報58
		-35	L 315 B2a	SD315002	-117,538.6	-25,190.0	-117,541.113	2.5131	0.3266599	府セ61
		-35	L 330	SD33002	-117,539.6	※ -25,290.0	-117,541.004	1.4045	0.3521271	情報58
		-35	L 139	SD207	-117,539.80	-25,365.00	-117,540.923	1.1230	0.3555132	向市27L159引用
		-35	L 159	SD15905	-117,540.90	-25,648.00	-117,540.616	-0.2845	0.3781569	向市27
		-35	L 100	SD10001	-117,542.22	-25,765.0	-117,540.488	-1.7316	0.4122392	向市11
		-35	L 259	SD21802	-117,542.0	-25,801.0	-117,540.449	-1.5507	0.4048360	向市33
二条条間	北	-400	L 331		-117,649.0	-25,305.0	-117,649.028	0.0282	0.3042702	情報58
南小路		-400	L 267	SD26713	-117,648.70	-25,373.00	-117,648.954	0.2543	0.3033355	府セ51
			12BL13tr							

		-400	L 165	SD4	-117,648.60	-25,452.00	-117,648.869	0.2685	0.3028709	京市61・NM
		-400	L 82	SD8203	-117,647.50	※ -25,741.0	-117,648.555	1.0545	0.2993360	向市10
		-400	L 248	SD8203	-117,647.7	-25,765.0	-117,648.528	0.8285	0.2997708	向市37
		-400	P 93	SD9302	※ -117,646.5	※ -26,642.0	-117,647.576	1.0756	0.2943887	向市 6
	南	-430	L 331		-117,658.3	-25,312.0	-117,657.901	-0.3994	0.3046523	情報58
		-430	L 267	SD26711	-117,657.85	-25,381.00	-117,657.826	-0.0243	0.3034314	府セ51
				12BL13tr						
		-430	L 165	SD2	-117,657.20	-25,452.00	-117,657.749	0.5485	0.3017404	京市61・NM
		-430	L 156	SD15601	-117,662.2	-25,728.0	-117,657.449	-4.7513	0.3126709	向市22
		-430	L 248	SD24857	-117,656.7	-25,765.0	-117,657.408	0.7085	0.2997868	向市37
二条大路	北	-795	L 267	SD26703	-117,766.55	-25,409.50	-117,765.835	-0.7152	0.3008107	府セ51
				11BL22tr						
		-795	L 290 1区	SD29000	-117,763.30	-25,804.60	-117,765.405	2.1055	0.2961827	向市38
		-795	L 290 5区	SD29000	-117,762.92	-25,760.92	-117,765.453	2.5330	0.2957644	向市38
	南	-945	L 172	SD17201	-117,806.34	※ -25,605.0	-117,810.022	3.6824	0.2949440	向市27
		-945	L 162	SD16206前期 杭列	-117,810.0	-25,797.0	-117,809.814	-0.1862	0.2985962	向市27
三条条間	北	-1360	L 123	SD126	-117,934.50	-25,480.00	-117,932.998	-1.5017	0.2992778	京市59・NM
北小路		-1360	L 216	SD21601	-117,934.00	-25,575.00	-117,932.895	-1.1050	0.2988342	府セ40
				10BL21-1tr						
		-1360	L 163	SD16333	-117,931.46	-26,038.80	-117,932.391	0.9311	0.2965961	向市27
		-1360	P 150	SD14001	-117,931.00	※ -26,994.0	-117,931.353	0.3533	0.2954948	向市17
		-1360	P 140	SD14001	-117,930.50	※ -26,997.0	-117,931.350	0.8501	0.2951247	府セ11
	南	-1390	L 123	SD135	-117,943.30	-25,480.00	-117,941.878	-1.4217	0.2991495	京市59・NM
		-1390	L 123	SD87	-117,943.20	-25,500.00	-117,941.857	-1.3435	0.2990619	京市59・NM
		-1390	L 163	SD16330	-117,939.40	-26,039.20	-117,941.271	1.8707	0.2959066	向市27
三条条間	北	-1795	L 151	SD15118	-118,063.0	※ -25,593.0	-118,061.636	-1.3644	0.2982702	府セ22
小路		-1795	L 151	SD15109	-118,062.8	※ -25,645.0	-118,061.579	-1.2209	0.2981273	府セ22
		-1795	L 214	SD19603E	-118,062.48	-25,734.0	-118,061.482	-0.9976	0.2978951	向市34
		-1795	L 196	SD19603E	-118,062.25	-25,764.0	-118,061.450	-0.8002	0.2977488	向市34
		-1795	L 196	SD19603W	-118,062.1	-25,794.0	-118,061.417	-0.6828	0.2976471	向市34
		-1795	L 120	SD12026東端	-118,060.85	※ -26,044.0	-118,061.146	0.2956	0.2967994	向市18
		-1795	L 120	SD12026西端	-118,060.27	※ -26,180.0	-118,060.998	0.7278	0.2963940	向市18
	南	-1830	L 151	SD15116	-118,072.3	-25,595.0	-118,071.993	-0.3066	0.2976463	府セ22
		-1830	L 214	SD19604E	-118,071.70	-25,734.0	-118,071.842	0.1424	0.2972359	向市34
		-1830	L 196	SD19604E	-118,071.5	-25,764.0	-118,071.810	0.3098	0.2971088	向市34
		-1830	L 196	SD19604W	-118,071.8	-25,794.0	-118,071.777	-0.0228	0.2972549	向市34
		-1830	L 120	SD12028東端	-118,069.80	※ -26,044.0	-118,071.506	1.7056	0.2960136	向市18
		-1830	L 120	SD12028西端	-118,069.58	※ -26,180.0	-118,071.358	1.7778	0.2958127	向市18
三条条間	北	-2235	L 104	SD30	-118,195.4	-25,195.0	-118,192.308	-3.0919	0.2989831	京市58
南小路		-2235	L 151	SD15128	-118,193.20	※ -25,655.0	-118,191.808	-1.3917	0.2977752	府セ22
		-2235	L 186	SD18604	-118,190.68	-26,264.0	-118,191.147	0.4666	0.2963516	向市37
	南	-2265	L 123		-118,205.00	-25,162.00	-118,201.224	-3.7761	0.2992773	京市59・NM
		-2265	L 104	SD29	-118,204.8	-25,188.0	-118,201.196	-3.6043	0.2991765	京市58
		-2265	L 186	SD18605	-118,199.84	-26,264.0	-118,200.027	0.1866	0.2964706	向市37
三条大路	北	-2675	L 62		-118,320.9	-24,799.1	-118,322.978	2.0783	0.2968812	情報 2
		-2675	L 242	SD24229	-118,320.95	-25,745.00	-118,321.951	1.0006	0.2965158	府セ47
		-2675	L 186	SD18610	-118,320.36	-26,273.0	-118,321.377	1.0169	0.2960807	向市37
		-2675	R 26	SD2649	-118,317.4	-27,893.6	-118,319.616	2.2162	0.2943160	府1980・情報 2
	南	-2755	L 62		-118,345.6	-24,800.2	-118,346.657	1.0571	0.2972255	情報 2
		-2755	L 241	SD24133	-118,345.70	-25,710.00	-118,345.669	-0.0314	0.2969030	府セ47
				7BL20tr						
		-2755	L 242	SD24230	-118,345.90	-25,755.00	-118,345.620	-0.2803	0.2969578	府セ47
				7BL10tr						

		-2755	L 144	SD14406	-118,345.7	※ -25,800.0	-118,345.571	-0.1292	0.2968675	向市22
		-2755	L 109	SD10913北肩	-118,344.80	-25,969.40	-118,345.387	0.5868	0.2964740	向市22
		-2755	L 186	SD18613	-118,345.32	-26,274.0	-118,345.056	-0.2642	0.2965426	向市37
		-2755	R 239	SD23904B	-118,343.0	※ -27,855.0	-118,343.338	0.3381	0.2950770	長年 S 61
		-2755	R 7	SD0738	-118,342.36	-27,893.64	-118,343.296	0.9362	0.2948295	府1979
四条条間	北	-3170	L 2	SD65	-118,469.80	-26,220.70	-118,467.954	-1.8462	0.2970072	府1975YN
北小路		-3170	R 83	SD8355	-118,466.2	-28,403.0	-118,465.583	-0.6172	0.2951236	府七 9
	南	-3200	L 305	SD30501南肩	-118,476.8	-25,930.0	-118,477.150	0.3497	0.2965089	向市38
		-3200	L 2	SD66	-118,475.9	-26,220.7	-118,476.834	0.9338	0.2961290	府1975・情報 2
		-3200	R 37	SD3703	-118,476.1	-27,493.5	-118,475.451	-0.6490	0.2957593	長市12・情報 2
		-3200	R 249	SD24901	-118,476.1	-27,512.3	-118,475.431	-0.6695	0.2957529	長市18
		-3200	R 229		-118,475.90	-27,544.60	-118,475.395	-0.5045	0.2956795	長年 S 61
		-3200	R 333	SD33301	-118,476.1	※ -27,580.0	-118,475.357	-0.7430	0.2957300	長年 H 元
		-3200	R 83	SD8365	-118,472.0	-28,414.0	-118,474.451	2.4509	0.2941656	府七 9
四条条間	北	-3610	L 92		-118,596.09	-25,026.00	-118,599.492	3.4019	0.2961498	京市57・NM
小路		-3610	L 119	SD11901	-118,594.3	-26,117.0	-118,598.307	4.0066	0.2953256	府七15
		-3610	L 2	SD52	-118,595.3	-26,220.4	-118,598.194	2.8942	0.2955715	府1975・情報 2
		-3610	L 353	SD35319	-118,595.0	※ -26,444.0	-118,597.951	2.9513	0.2954211	情報57
	南	-3645	L 92		-118,605.19	-25,026.00	-118,609.852	4.6619	0.2958026	京市57・NM
		-3645	L 9	SD03	-118,610.5	-25,137.8	-118,609.730	-0.7695	0.2972261	京市II・情報 2
		-3645	L 71	SD0254南辺	-118,608.0	-26,000.0	-118,608.794	0.7937	0.2962832	向市 8
		-3645	L 171	SD17103	-118,607.50	※ -26,090.0	-118,608.696	1.1959	0.2961192	向市27
		-3645	L 202	SD20201	-118,607.8	※ -26,125.0	-118,608.658	0.8579	0.2961911	府七34
		-3645	L 2	SD54	-118,607.7	-26,220.7	-118,608.554	0.8539	0.2961352	府1975・情報 2
		-3645	R 356	SD04	-118,602.50	※ -28,200.0	-118,606.403	3.9035	0.2941186	長年 H 2
四条条間	北	-4055	L 9	SD26	-118,727.4	-25,132.8	-118,731.096	3.6960	0.2960036	情報 2
南小路	南	-4085	L 9	SD27	-118,735.9	-25,154.8	-118,739.952	4.0521	0.2959047	情報 2
四条大路	北	-4500	L 258	SD25816	-118,861.09	※ -26,314.5	-118,861.532	0.4422	0.2961557	向市31
	南	-4580	L 273	SD27301	-118,885.26	-26,263.47	-118,885.268	0.0076	0.2962721	向市33
		-4580	L 319	SD31940北肩	-118,884.0	-26,282.0	-118,885.247	1.2475	0.2959925	向市39
五条条間	北	-4995	L 289	SD28907	-119,004.00	-26,060.0	-119,008.329	4.3287	0.2954729	向市38
北小路		-4995	L 106	SD10602	-119,005.1	※ -26,140.0	-119,008.242	3.1418	0.2956757	向市17
五条条間	北	-5435	L 216	SD216087	-119,139.5	-25,963.0	-119,138.674	-0.8258	0.2965027	府七40
小路			11BL27tr							
	南	-5470	L 216	SD216088	-119,148.8	-25,963.0	-119,149.034	0.2342	0.2963057	府七40
			11BL27tr							
		-5470	L 125	SD12516	-119,144.2	※ -26,315.0	-119,148.652	4.4518	0.2953949	長年 S 60
		-5470	L 108	SD10813	-119,147.75	-26,551.00	-119,148.395	0.6454	0.2959970	長報 2
五条条間	北	-5880	L 216	SD216063	-119,271.0	-26,002.0	-119,270.352	-0.6481	0.2964200	府七40
南小路			10BL26tr							
		-5880	L 216	SD216066	-119,271.0	-26,045.0	-119,270.305	-0.6948	0.2964121	府七40
			10BL13tr							
		-5880	L 228	SD53	-119,271.84	※ -26,552.0	-119,269.754	-2.0856	0.2964613	長年 H 元
	南	-5910	L 216	SD216064	-119,277.8	-26,005.0	-119,279.229	1.4287	0.2960654	府七40
			10BL26tr							
		-5910	L 228	SD95	-119,280.65	※ -26,552.0	-119,278.634	-2.0156	0.2964471	長年 H 元
五条大路	北	-6330	L 278	SD10	-119,403.7	-26,171.0	-119,403.368	-0.3316	0.2962822	長年 H 3
		-6330	L 235	SD50	-119,403.85	-26,220.0	-119,403.315	-0.5349	0.2962975	長年 H 元
	南	-6410	L 235	SD48	-119,428.83	-26,220.0	-119,426.995	-1.8348	0.2964966	長年 H 元
六条条間	北	-7280	L 216	SD216005	-119,684.3	-26,175.0	-119,684.564	0.2642	0.2961623	府七40
小路			7BL10tr							
		-7280	L 311	SD31104	-119,684.16	-26,309.6	-119,684.418	0.2580	0.2961230	長年 H 5
		-7280	R 96	SD9601	-119,683.32	-27,662.80	-119,682.948	-0.3723	0.2958057	長七報 1
		-7280	R 11	SD1109	-119,681.6	-27,695.3	-119,682.912	1.3124	0.2955645	長市 5・情報 2

京都府埋蔵文化財情報 第61号

	南	-7315	L 216 7BL23tr	SD216041	※ -119,692.7	※ -26,137.0	-119,694.965	2.2655	0.2958992	府七40
		-7315	L 216 7BL10tr	SD216027	-119,693.25	-26,180.0	-119,694.919	1.6688	0.2959680	府七40
		-7315	立会89083	SD01	※ -119,697.9	※ -26,253.0	-119,694.839	-3.0605	0.2965929	長年H元
		-7315	L 326	SD32601	-119,693.6	-26,311.0	-119,694.776	1.1764	0.2959964	長年H 5
六条条間	北	-7300	R 275	SD27503	※ -119,688.9	※ -27,348.0	-119,689.210	0.3098	0.2958065	長年S 62
小路+20		-7300	R 365	SD03	※ -119,688.1	※ -27,388.0	-119,689.166	1.0663	0.2956909	長年H 2
尺		-7300	R 314	SD31404	-119,688.4	※ -27,420.0	-119,689.132	0.7315	0.2957273	長年S 63
		-7300	立会92026	SD9202601	-119,690.0	-27,520.2	-119,689.023	-0.9773	0.2959315	長年H 4
六条条間	南	-7335	R 365	SD05	※ -119,697.4	※ -27,376.0	-119,699.539	2.1394	0.2955497	長年H 2
小路+20尺		-7335	R 96	SD9607	-119,698.24	-27,663.18	-119,699.227	0.9873	0.2956216	長七報1
六条条間	北	-7735	水垂D		-119,819.50	-25,638.50	-119,819.827	0.3272	0.2962953	連協95-1(京市)
南小路		-7735	水垂D		-119,819.50	-25,647.70	-119,819.817	0.3172	0.2962940	連協95-1(京市)
		-7735	水垂D		-119,819.36	-25,748.00	-119,819.708	0.3482	0.2962619	連協95-1(京市)
		-7735	L 216 7BL9tr	SD216003	-119,818.4	-26,218.0	-119,819.198	0.7976	0.2960717	府七40
		-7735	R 475	SD47507	-119,821.87	-27,665.93	-119,817.624	-4.2456	0.2963170	長市33
	南	-7765	水垂D		-119,828.90	-25,638.30	-119,828.707	-0.1926	0.2963612	連協95-1(京市)
		-7765	水垂D		-119,828.90	-25,647.70	-119,828.697	-0.2028	0.2963599	連協95-1(京市)
		-7765	水垂D		-119,828.38	-25,748.00	-119,828.588	0.2082	0.2962789	連協95-1(京市)
		-7765	L 216 7BL22tr	SD216004	※ -119,827.75	※ -26,180.0	-119,828.119	0.3689	0.2961373	府七40
		-7765	L 216 7BL9tr	SD216004	※ -119,827.6	※ -26,221.0	-119,828.074	0.4743	0.2961122	府七40
		-7765	R 475	SD47503	-119,831.32	-27,666.42	-119,826.504	-4.8161	0.2963891	長市33
六条大路	北	-8185	水垂E-1		-119,955.90	-25,647.75	-119,953.017	-2.8828	0.2966688	連協95-1(京市)
		-8185	水垂E-1		-119,956.12	-25,771.6	-119,952.883	-3.2374	0.2966793	連協95-1(京市)
		-8185	L 210	SD21033	-119,955.4	※ -25,820.0	-119,952.830	-2.5699	0.2965849	長年S 63
		-8185	L 230	SD23028	-119,954.8	※ -25,930.0	-119,952.711	-2.0895	0.2964970	長年H元
		-8185	L 297	SD29712	-119,953.4	※ -26,025.0	-119,952.607	-0.7927	0.2963133	長年H 4
		-8185	L 302	SD30202	-119,954.02	-26,172.0	-119,952.448	-1.5724	0.2963695	長年H 5
		-8185	L 269	SD20	-119,952.0	※ -26,533.0	-119,952.055	0.0554	0.2960748	長年H 3
	南	-8265	水垂E-1		-119,980.74	-25,765.00	-119,976.570	-4.1702	0.2967873	連協95-1(京市)
		-8265	L 210	SD21038	-119,979.9	※ -25,820.0	-119,976.510	-3.3899	0.2966784	長年S 63
		-8265	L 297	SD29706	-119,979.3	※ -26,025.0	-119,976.287	-3.0127	0.2965789	長年H 4
		-8265	L 302	SD30201	-119,978.64	-26,175.0	-119,976.124	-2.5156	0.2964793	長年H 5
七条条間	北	-8685	R 339	SD23	※ -120,098.2	※ -26,900.0	-120,099.657	1.4568	0.2958174	長年H元
北小路										
	南	-8715	R 339	SD10	※ -120,107.4	※ -26,900.0	-120,108.537	1.1368	0.2958547	長年H元
		-8715	R 400	SD40009	※ -120,107.5	※ -27,185.0	-120,108.227	0.7271	0.2958306	長年H 4
七条条間	北	-9135	水垂G-1		-120,232.70	-25,795.80	-120,234.057	1.3565	0.2961000	連協95-1(京市)
小路		-9135	L 200 4BL6-1tr	SD200001	-120,232.43	-26,350.0	-120,233.454	1.0244	0.2960045	府七35
		-9135	L 245	SD24502	-120,231.9	-26,634.5	-120,233.145	1.2453	0.2959127	長年H 2
	南	-9170	水垂G-1		-120,242.50	-25,795.80	-120,244.417	1.9165	0.2960385	連協95-1(京市)
			南北条坊路		造営尺(平均)	0.2959337	造営尺(標準偏差)	0.0005833		
					造営精度	1.4705				
			東西条坊路		造営尺(平均)	0.2960436	造営尺(標準偏差)	0.0014324		
					造営精度	1.8135				
			全体		造営尺(平均)	0.2959799	造営尺(標準偏差)	0.0010308		
					造営精度	1.6340				

付表2 モデルに組み込めないデータ

原点X座標		-117,528.96		計算尺	29.6cm					
Y座標		-26,840.39		仮造営角	222.687"					
条坊名	側溝	計画 尺数	調査回数	遺構名	X座標	Y座標	理論値	施工誤差	造営尺	報告
西二坊坊 間東小 路?	?	-2265	R 8	SD0803	-118,404.00	-27,520.20	-27,511.775	-8.4249	0.2997170	長市12
朱雀大路	東	85	L 147	SD14702雨落	※ -119,180.0	※ -26,801.4	-26,817.024	15.6125	0.4798092	長年S 60
東一坊大 路	東	1795	L 97	SD9706	※ -118,670.0	-26,316.80	-26,310.302	-6.4984	0.2923841	向市13
東四坊大 路?		7205	L 286 C2c	SD286311	-117,194.0	-24,721.5	-24,707.347	-14.1529	0.2940354	府セ61
一条条間 大路	北	1750	P 214	SD21401	-117,011.70	-26,291.00	-117,011.557	-0.1434	0.2952359	向セ29
二条大路	南	-945	R 386	SD38620	-117,799.7	-27,742.5	-117,807.700	8.0000	0.2854600	長年H 3
二条大路	南	-945	R 285	SD28502	-117,799.90	-27,890.00	-117,807.540	7.6398	0.2855021	府セ45
三条条間 南小路	北	-2265	L 232	SD23247	-118,208.46	※ -26,591.0	-118,199.671	-8.7887	0.3001194	向市28
四条大 路?		-4580	R 342	SD34202	-118,891.50	-27,520.0	-118,883.902	-7.5976	0.2973364	長年H元
五条条間	北?	-4995	L 289	SD28919	-118,995.00	-26,060.0	-119,008.329	13.3287	0.2936711	向市38
北小路		-4995	L 106	SD10601	-118,996.20	※ -26,140.0	-119,008.242	12.0418	0.2938939	向市17
六条条間 北小路	?	-6860	L 28	SD2852	※ -119,568.2	※ -25,680.0	-119,560.782	-7.4181	0.2974489	長市14
六条条間 南小路	北	-7735	R 344	SD34401	-119,824.6	※ -28,115.0	-119,817.137	-7.4635	0.2966068	長年H元
六条条間 南小路	南	-7765	R 344	SD34402	-119,833.75	※ -28,115.0	-119,826.017	-7.7335	0.2966393	長年H元
七条大路	北?	-10040	R 70	SD7005	-120,487.74	-28,311.119	-120,499.204	11.4638	0.2945399	長市9

付表3 標準偏差×3以上のデータ

原点X座標		-117,528.96		計算尺	29.6cm					
Y座標		-26,840.39		仮造営角	222.687"					
条坊名	側溝	計画 尺数	調査回数	遺構名	X座標	Y座標	理論値	施工誤差	造営尺	報告
東二坊坊 間小路	東	2685	L 70	SD7012	-118,425.0	-26,041.0	-26,046.597	5.5969	0.2980868	向市8
二条大路	南	-945	L 162	SD16202後期	-117,804.00	-25,797.0	-117,809.814	5.8138	0.2922470	向市27
三条条間 南小路	南	-2265	L 151	SD15144	-118,206.6	※ -25,656.0	-118,200.687	-5.9128	0.2997468	府セ22
四条条間 小路	北	-3610	L 9	SD04	-118,593.4	-25,109.8	-118,599.401	6.0009	0.2953794	京市II・情報2
四条条間 小路	南	-3645	L 353	SD35318	-118,602.8	※ -26,444.0	-118,608.311	5.5113	0.2947243	情報57
五条大路	北	-6330	R 370	SD41	-119,407.02	-27,949.8	-119,401.436	-5.5843	0.2965014	長年H 3
七条条間 北小路	南	-8715	L 53	SD5301	-120,114.9	-26,157.0	-120,109.344	-5.5560	0.2968079	長市14

※ 報告書の実測図上での読み取り値である

報告は以下の通りである

府：埋蔵文化財発掘調査概報 府セ：京都府遺跡調査概報 情報：京都府埋蔵文化財情報 向市：向日市埋蔵文化財調査報告書
 都城：向日市埋蔵文化財センター年報 長市：長岡京市文化財調査報告書 長セ報：長岡京市埋蔵文化財センター調査報告書
 長年：長岡京市埋蔵文化財センター年報 京市：京都市埋蔵文化財調査概報 連協：長岡京連絡協議会資料
 VN：連絡協議会山中章報告資料 NM：連絡協議会長宗繁一報告資料

共同研究

古代における生産と流通

— 篠窯跡群を中心として —

石井清司・水谷壽克

1. はじめに

京都府亀岡市篠町に所在する篠窯跡群は平安京から直線距離にして約10kmに位置し、東西約2.5km・南北約1.7kmの範囲にわたって須恵器・緑釉陶器・瓦を焼いた100基以上の窯跡が点在している。篠窯跡群は、昭和51年度から昭和61年度までの10ヶ年間をかけて窯跡22基・窯状遺構・作業場跡の発掘調査が京都府教育委員会・(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターによって実施され、各窯跡及び窯跡関連遺構とその出土遺物については各調査概要・報告書としてすでに刊行されている。^(注1)

これによると、篠窯は、おおよそ750年を前後する時期から1000年を前後する時期に操業された窯跡群であり、その製品の多くが平安京を経由して広範囲に分布していることが明らかとなっている。ここでは篠の製品がどのような地域に供給されているのかを検討して古代における生産と流通の関係を明らかにしていきたい。

2. 篠の製品

篠窯跡で生産された須恵器は大きくは三つの時期区分が考えられる。すなわち、第1期は丹波国分寺の造営時期から長岡京・平安京造営の時期で律令的な土器様相を呈している。この時期の製品は前半が丹波国分寺や推定丹波国府跡、観音芝廃寺など亀岡盆地周辺に供給されていたが、後半には長岡京・平安京の造営を契機として都へ供給されていく。第2期は律令的な土器様相がくずれ、須恵器の器種構成が変化していく時期で、前半には律令的な土器の形態をとどめつつ退化形態がみられ、後半には器種が淘汰されていく傾向にある。この第2期の製品も平安京へ供給されるとともに都を経由して地方へ製品が供給されていく。ただ、この時期の篠窯跡の製品は壺などのある特定のものを除いて他の窯の製品との識別が困難であり、供給先について言及するだけの資料にかける。第3期は篠窯跡独自の鉢や碗が生まれ、続いて緑釉陶器を生産しており他の地域での篠製品の供給を検討することが比較的容易である。このため、今回の共同研究ではおおよそ10世紀第1四半期から11世紀第1四半期までに篠窯跡で生産された製品について、その供給先を検討していきたい。

小期	第 1 期	第 2 期	第 3 期
その他	円面硯 風字硯		
鉢	鉢 A a 鉢 A 鉢 C	鉢 A b 鉢 B 鉢 C	
壺	壺 A a 壺 B 壺 C	壺 A b	
甕	甕		
椀	椀 A 椀 B	椀 B 椀 C 椀 D	
皿	皿蓋 皿 A 皿 B 皿 C	皿 D 皿 C	皿 E
杯	杯蓋 A 杯 B 杯 A a	杯蓋 B 杯 A b	
器種	西長尾奥 2-1 号窯 西長尾奥 1-1 号窯 石原畑 3 号窯	西長尾 1-4 号窯 芦原 1-3 号窯	小柳 1 号窯 袋谷 1 号窯 前山 1 号窯 石原畑 1-2 号窯 西前山 1 号窯
遺跡名	750年	800年	850年 900年 950年 1000年

第 1 図 器種別消長変遷図

3. 第3期の土器様相

緑釉陶器 第3期の土器群を代表するものとしては、前山2・3号窯・黒岩1号窯で生産された緑釉陶器がある。京都近郊の緑釉陶器の生産遺跡には洛北・洛西・篠がある。京都洛北は9世紀初頭には生産を開始し、妙満寺境内窯跡の硬質で須恵質のもののほかは軟質で、椀・皿では底部が平高台や蛇の目高台のものが多く、釉は全体に淡色である。洛西産の緑釉陶器は石作窯跡に代表されるように器種は椀・皿のほか唾壺・香炉・壺・鉢があり、椀・皿では陰刻花文を施すものが多い。底部は平高台・蛇の目高台のほか輪高台のものがある。一方、篠窯跡の緑釉陶器は椀・酒杯・耳杯・壺などの器種で、椀・皿等の底部は糸切りあるいはヘラ切りののち、内面を削りとりて高台を成形する削り出しの輪高台である。

篠窯跡の緑釉陶器の操業とはほぼ同時期に緑釉陶器を生産していた近江系緑釉陶器は貼り付け高台で、高台接地面内端の段差や内面見込みの外縁に沿っての沈線は篠産緑釉陶器にはない。素地も近江系緑釉陶器が軟陶のものを主体とし、ヘラミガキなどの素地調整を行なわ^(注2)ないが、篠産緑釉陶器はヘラミガキ調整を行ない硬質のものが主体である。篠産緑釉陶器では施釉のための焼成時にはそのまま重ね焼いているが、近江産緑釉陶器では釉薬による製品どうしの付着を避けるためにトチンを使用している。

防長産緑釉陶器の素地は軟質で、釉調は若草色と呼ぶにふさわしい淡緑色(長門産)や緑色から濃緑色を呈したもの(周防産)があり、貼り付け高台で施釉焼成には三ツ又トチン^(注3)を使用しており篠産緑釉陶器との識別が可能である。また愛知県の庄内川を中心に展開する東海産緑釉陶器の胎土は軟質で、素地にはヘラミガキ調整を器面に微細に施し、一次調整は直接重ね焼いているが二次調整には三ツ又トチンを使用している。高台は貼り付け高台である。

このように前山2・3号窯・黒岩1号窯での緑釉陶器の生産と併行あるいは相前後した時期に近江・防長・東海の各窯跡群で緑釉陶器を生産しているが、各地域での緑釉陶器にその特徴があるため篠産の緑釉陶器と他の地域の緑釉陶器を識別することが可能であると思われる。

須恵器 篠窯跡の第3期の遺物には緑釉陶器とともに椀B・壺A b・鉢B・C^(注4)などがある。

椀Bは粘土塊からロクロ成形により口縁部まで一気に引き上げたもので、口縁端部が尖り気味におわるもの(西長尾3号窯)から口縁端部が肥厚し丸みをもつもの(前山2・3号窯、黒岩1号窯、西長尾5・6号窯)へと変化し、時期が新しくなるにつれ器高に対して口径が小さくなる傾向がある。底部は平高台で回転糸切り痕をそのまま残すものが特徴である。壺A bは肩部の張った倒卵形あるいは偏球形の体部で、筒状にのびる頸部から口縁部は短く外反したのち直立あるいは斜め上方に短く立ち上がる端部へ続く。底部はいずれも突出ぎみの平底である。底部切り離しには回転糸切りを利用したもので糸切り痕をそのまま残す。同形態のものは大阪府陶邑窯跡でも生産されているが、伊野近富が指摘するように口縁端部の形態が篠産と陶邑産では異なる^(注5)。鉢Cは突出ぎみの平底で直線的に外上方に立ち上がる体部へ続き、体部上半で肩部を形成したのち口縁部へ続く。口縁部は短く外反したのち端部を内側に屈曲させ尖りぎみにおわる。底部は回転糸切りにより切り離したもので、糸切り痕をそのままとどめる。鉢Cは西長尾3号窯で生産されている。

鉢Cは体部下半は鉢Bと同様で、口縁端部は内・外方に肥厚して丸みをもっておわる。鉢Cは古いタイプ(前山2・3号窯)では鉢Bと同様の肩部を形成するが、新しいタイプ(黒岩1号窯、西長尾5・6号窯)では肩部を形成せず底部から口縁部へ向かって直線的に続くものになる。鉢B・鉢Cはこれまでのところ篠窯跡群のほかには生産されたという報告例を知らないため現時点では篠特有の鉢と考えている。

このように篠窯跡群出土の第3期の遺物には篠特有の製品が生産されていることが明らかになるとともに、他地域(消費地)での篠製品に注目して報告されている事例^(注6)があり、篠製品の消費地での分布状況を検討する上での資料が増加しつつある。

4. 篠産緑釉陶器・須恵器の分布状況

当センター所蔵の書籍をもとに篠産の緑釉陶器や須恵器の分布状況を調べる過程で篠産を含めた洛北・洛西・篠・近江・防長・東海産の緑釉陶器の分布状況を調べたところ第2・3図のように600遺跡以上を数える。その中から篠産と思われる製品を示したのが第4図となる。

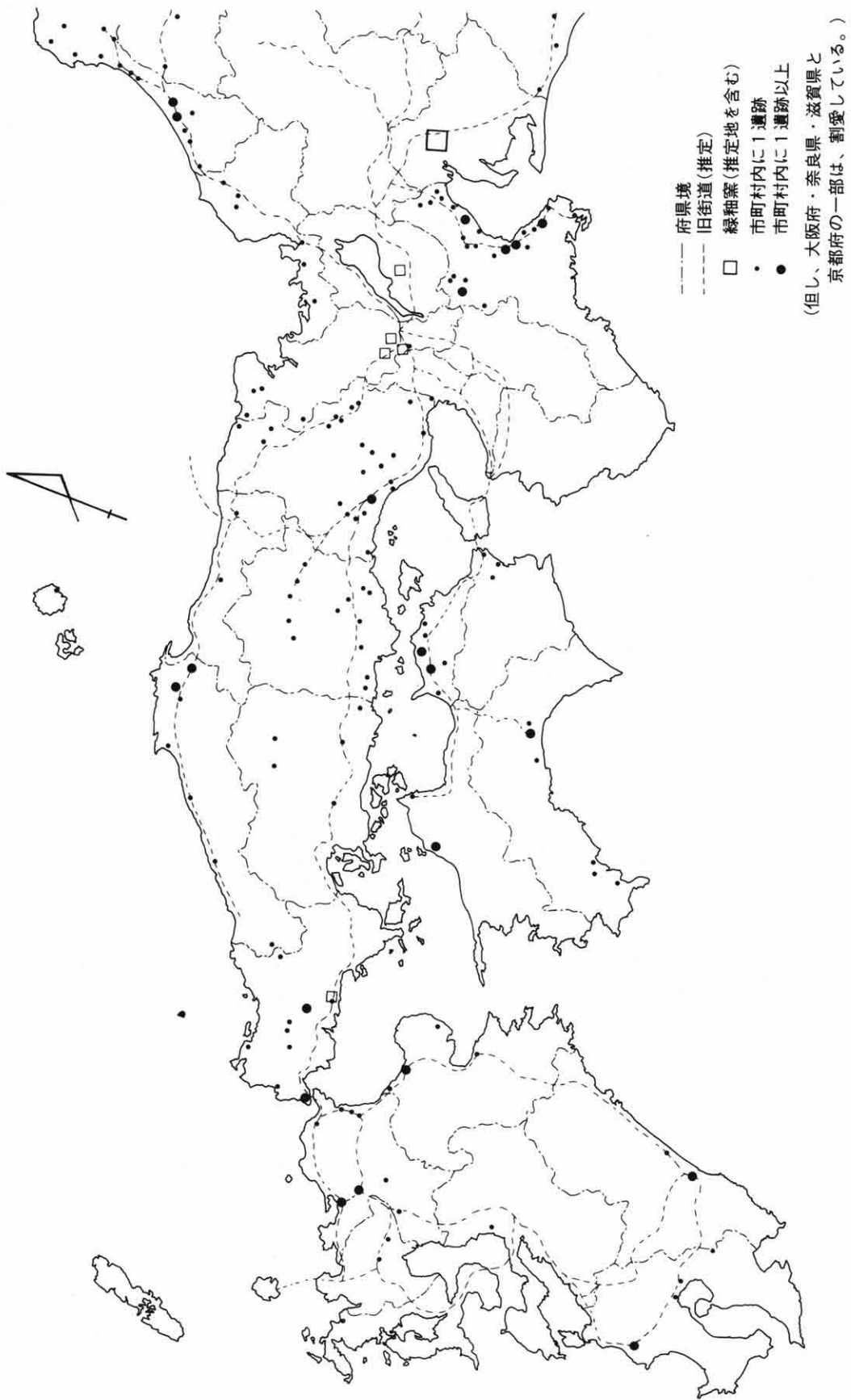
以下、各地域での緑釉陶器と篠の製品の分布状況について概観していく。

a. 九州地域

九州地域では福岡県を中心とした北部九州に緑釉陶器の分布の中心がある。これは西都である大宰府と平安京を結ぶ西海道を媒介として緑釉陶器が持ち込まれたものと思われる。また九州では筑後国府跡・豊前国府を經由して豊後国府へ向かうルート上に緑釉陶器を出土する遺跡が点在している。中・南九州では熊本県の肥前国分僧寺跡・鹿児島県の薩摩国府跡・宮崎県鬼付女西遺跡などがあるが北部九州に比べて緑釉陶器の出土遺跡が激減する。

北部九州の緑釉陶器を概観すると、緑釉陶器の分布の中心である大宰府が平安京との交流が密であったため9・10世紀には京都洛北産あるいは洛西産の緑釉陶器の出土例が多いが防長産緑釉陶器の出土が目立つ。防長産緑釉陶器の出土比率を検討された高橋照彦氏^(注7)によると「筑前北部でも東に位置する多々良込田遺跡では六割程度というかなりの量の防長産緑釉陶器が確認できるのに対して西の博多遺跡や石丸・古川遺跡ではむしろ畿内産緑釉陶器の方が防長産よりも高い比率を占め(中略)大宰府では(中略)畿内産が多数で防長産の比率の減少がみられる」。

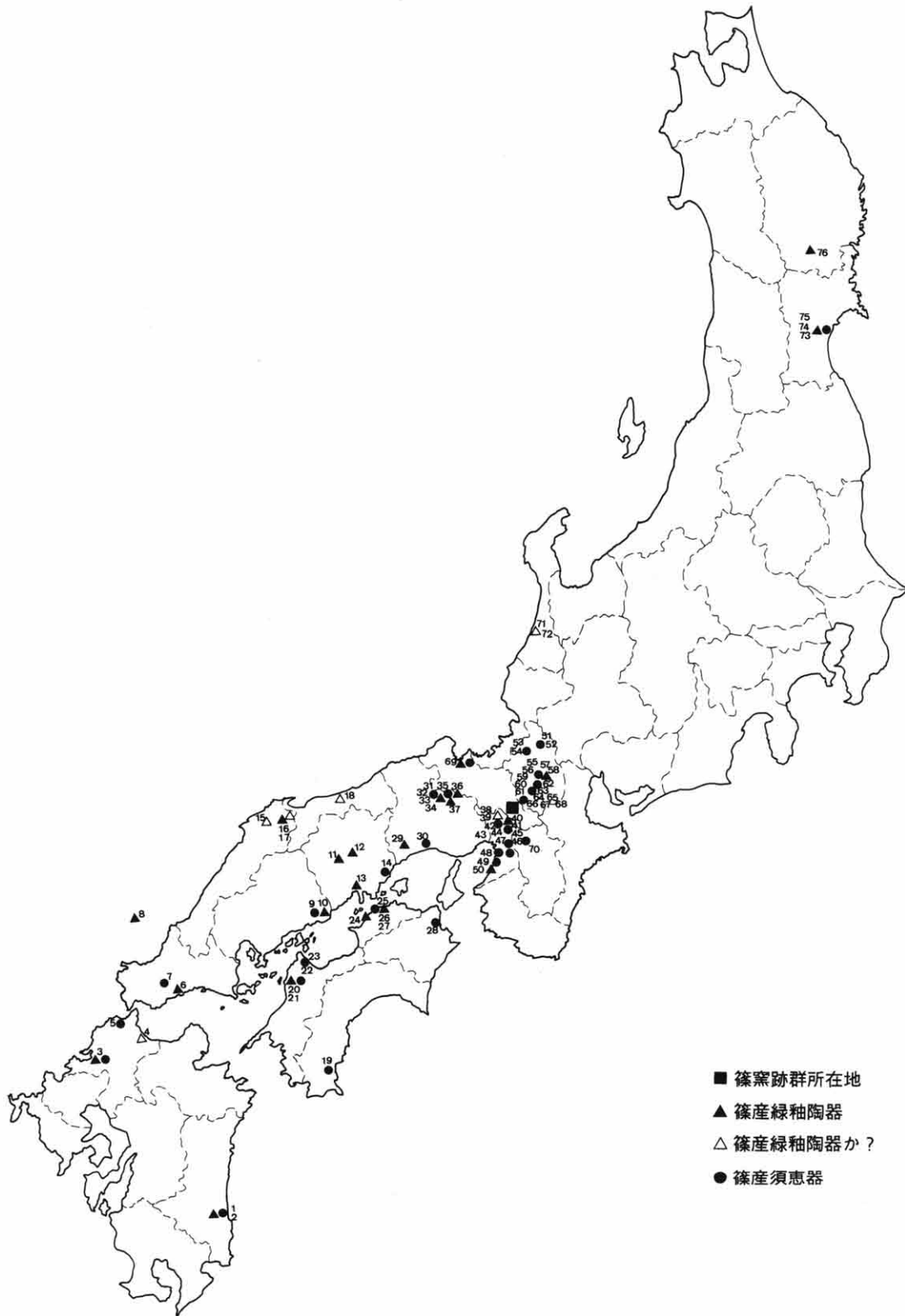
このように九州、特に北部九州においては京都産緑釉陶器と防長産緑釉陶器が主流であり、傾向として防長産緑釉陶器は長門から離れるに従ってその出土比率が減少する傾向にあることが指摘されている。このような中で篠産緑釉陶器と須恵器の出土状況をみると大宰府に至る官道と西海道の分岐点にあたる地点に位置する北九州市寺田遺跡^(注8)では前山2・3号窯の製品と思われる緑釉陶器小椀と須恵器鉢Cが出土している。大宰府では中島恒次郎氏^(注9)の論考によると10調査地点で17点の篠製品が出土している。また宮崎市平畑遺跡で前山2・3号窯の可能性のある緑釉陶器が、同県小山尻東遺跡では前山2・3号窯の製品と思われる鉢Cが出土している^(注10)がその点数は多くない。そのほか伊野近富の指摘によると筑後国府跡で篠産の須恵器が、筆者の実見観察によると豊前国府(幸木遺跡)では防長産緑釉陶器が主流であるが数点の篠産緑釉陶器を確認している。



第2図 緑釉陶器分布図(1) —西日本—



第3図 緑釉陶器分布図(2) 一東日本一



第4図 篠製品分布図

付表1 篠窯跡出土遺物地名表(1)

所在地	遺跡名	須恵器			緑釉陶器			備考	番号
		西長尾3	前山2・3	黒岩1	西長尾5・6	前山2・3	黒岩1号		
宮崎県	宮崎市		○			○			1
	宮崎市					○			2
福岡県	太宰府市	○			○	○		西都	3
	京都郡豊津町			?				肥前国府推定地	4
	久留米市	○							
	北九州市		○	○		○			5
山口県	防府市					○	○	周防国府	6
	山口市				○				7
	萩市						○	防人の墓。対外関係の戦略的拠点	8
広島県	福山市			?			○	港	9
	福山市					○		備後国府の港	10
	庄原市						?	鍛冶関連遺跡?	
岡山県	北房町					○		火葬墓・蔵骨器に使用	11
	津山市							美作国府	12
	長船町								14
	倉敷市					○			13
島根県	安来市						○		16
	安来市							平安京周辺産緑釉陶器	17
	松江市					?			15
鳥取県	倉吉市						?		18
高知県	中村市				○				19
愛媛県	松山市		○			○		洛西産9～10世紀初篠岡4号窯式	20
	松山市		○						21
	今治市	○			○				22
	今治市				○				23
香川県	丸亀市					○			24
	坂出市				○				25
	坂出市			○			○		26
	坂出市					○			27
徳島県	徳島市						灰釉(黒笹90号窯式)、洛西小塩産緑釉、篠産小型壺	28	

付表2 篠窯跡出土遺物地名表(2)

所在地	遺跡名	須恵器			緑釉陶器			備考	番号
		西長尾3	前山2・3	黒岩1	西長尾5・6	前山2・3	黒岩1号		
兵庫県	龍野市					○		布勢駅家	29
	姫路市			?					30
	柏原町						○		35
	柏原町					○			36
	青垣町			?					31
	氷上町					?			32
	氷上町					?			33
	西紀町							宮田荘	37
	春日町			○		○			34
大阪府	能勢町						?		38
	吹田市								42
	寝屋川市								43
	寝屋川市	○		○		○		地方官人(郡司)の居宅・地方官衙	44
	南河内郡				○				46
	東大阪市				○				45
	高槻市	○			○				43
	堺市				○				48
	岸和田市				○				49
	豊中市				?				47
	泉佐野市						○		50
	高槻市	?							41
豊能町				○				39	
滋賀県	野洲郡中主町	?							57
	野洲町				○			近江系緑釉陶器	58
	近江八幡市						○	東濃系灰釉陶器	55
	近江八幡市				○				56
	大津市				○				62
	大津市								63
	大津市								64
	大津市								65
	大津市								66
	大津市				○				67
	大津市								68
	守山市				○				59
	守山市								60
	守山市	?							61
	高島町								51
	高月町	?							52
マキノ町				○				53	
マキノ町								54	

付表3 篠窯跡出土遺物地名表(3)

所在地	遺跡名	須恵器				緑釉陶器		備考	番号
		西長尾3	前山2・3	黒岩1	西長尾5・6	前山2・3	黒岩1号		
石川県	松任市					?		郷保長級在地領主居宅	71
	松任市					?		近接して銅製帯金具出土	72
奈良県	天理市			○				近江産緑釉	70
宮城県	多賀城市				○		○		73
	仙台市						○		74
	多賀城市						○		75
岩手県	水沢市					○			76

b. 中国地域

山口県は緑釉陶器の出土する遺跡が多く、管見にのぼる限り27遺跡を数える。これは周防・長門の地域が「北九州・特に大宰府への供給^(注11)」を主な目的として緑釉陶器を生産した地域であるため、山口県下の消費地ではその結果として大半が防長産緑釉陶器である。一方、近畿産緑釉陶器は防長産緑釉陶器の出土比率と反比例するように山口県下では少なく、高橋照彦氏の指摘^(注12)のように広島県・岡山県など東に行くに従ってその出土例が増加する。岡山県・広島県での緑釉陶器の分布状況をみると西海道沿いと瀬戸内海沿岸部にその分布の中心があり、一部出雲・伯耆に抜ける街道沿いに点在している。山陰地域島根県下では出土例が多く14遺跡以上^(注13)を数えるが、鳥取県では緑釉陶器の出土遺跡は少ない。

山口県下では周防国府で前山2・3号窯、黒岩1号窯の製品と思われる緑釉陶器が、萩市の海上46kmにあり平安京から派遣された貴族の墓と推定されている見島ジーコンボ古墳群でも黒岩1号窯の製品と思われる緑釉陶器が出土している。また緑釉陶器ではないが西長尾5・6号窯の製品と思われる鉢Cが山口市吉田遺跡で出土している。広島県では福山市草戸千軒町遺跡・備後国府の湊と思われる福山市ザブ遺跡^(注15)で前山2・3号窯の製品が出土している。岡山県ではさらに篠産の須恵器・緑釉陶器の出土が多くなり、津山市美作国府跡・倉敷市菅生小学校裏山遺跡・北房町桃山遺跡^(注18)などがある。このうち、桃山遺跡は中国山地の中央部にあり在地産須恵器壺の蔵骨器の蓋に篠産緑釉陶器の皿2個体を使用しており、京都産(篠産)の緑釉陶器の消費地での扱われ方を考えるうえでの良好な資料となる。島根県では松江市出雲国庁跡で緑釉陶器皿が、安来市オノ神遺跡^(注20)で在地産須恵器小皿と緑釉陶器皿が、同門生黒谷Ⅱ遺跡^(注21)の木棺墓でも「10世紀中期、平安京周辺の産」緑釉陶器が副葬されている。鳥取県では倉吉市大御堂廃寺で緑釉椀が出土している。^(注22)

c. 四国地域

四国地域では瀬戸内海沿岸に緑釉陶器の分布の中心があるが高知県など太平洋側にも比較的緑釉陶器が出土している。

山元氏^(注23)によると、香川県での緑釉陶器は「京都洛北・洛西窯が圧倒的に多く、猿投産は讃岐国分寺・大浦浜遺跡・買田岡下遺跡で出土例がみられるだけで(中略)京都産が優位を占め」ている。香川県での篠産緑釉陶器や須恵器の出土遺跡には丸亀市郡家原遺跡^(注24)・坂出市下川津遺跡・同讃岐国府跡などで、愛媛県では松山市石井幼稚園遺跡^(注25)などで出土している。この香川県・愛媛県では篠産の緑釉陶器とともに篠産の須恵器鉢などの出土が目立ち、前述の遺跡のほかに愛媛県松山市古照遺跡^(注26)・今治市八町遺跡^(注27)・同中寺遺跡^(注28)などで出土している。なお、四国地域では篠産の鉢とともに平安京で特徴的な「て」の字口縁の土師器皿の出土が目立つ^(注29)。

d. 北陸地域

管見及び吉岡康暢^(注30)・出越茂和氏^(注31)の資料によると、緑釉陶器の出土遺跡は石川県37遺跡・富山県5遺跡・福井県12遺跡で石川県の出土例が特に多い。北陸、特に加賀での施釉陶器の様式パターンを前川要氏^(注32)は「9世紀代＝尾張産緑釉陶器＋灰釉陶器、9世紀末～10世紀前半＝京都系洛西産緑釉陶器＋尾張産灰釉陶器、10世紀中葉～後半＝近江系緑釉陶器＋東濃産灰釉陶器」と考えておられる。一方、高橋照彦氏^(注33)の分析によると「9世紀前半には緑釉陶器の流入はそれほど多くないが、畿内洛北産の緑釉陶器がほとんどである。9世紀後半になると東海の猿投産緑釉陶器が定量的に出土し、9世紀末にかけて増加傾向にある。しかし(中略)あくまでも畿内産が多数を占めることに変わりがない。(中略)10世紀後半になるとこれまで主体を占め続けていた畿内産が急減し、10世紀中葉から搬入されていた近江産が畿内産に代わって圧倒的多数を占める」らしい。この10世紀中葉は篠産の緑釉陶器が生産されていた時期であり、北陸地方では前川氏・高橋氏の分析のように近江産緑釉陶器が主体であり、篠産の緑釉陶器の出土する例は少なく、石川県松任市三浦遺跡^(注34)・上二口遺跡^(注35)、同金沢市千木ヤシキダ遺跡^(注35)で出土している程度である。

e. 中部・東海

東海地方は愛知県の庄内川を中心に展開する猿投古窯跡群と尾北古窯跡群や岐阜県東濃地区を中心にした一大窯業地であり、黒笹14号窯式期(9世紀中葉)に灰釉陶器の生産とともに緑釉陶器の生産を開始する^(注36)。この地域での緑釉陶器生産窯には猿投古窯跡群のなかの鳴海地区(熊ノ前第1地区A、第4地区A・B、鳴海82号窯、日進地区の岩崎24号窯)で確認しているほか、緑釉陶器を施釉する以前の素地を生産している窯として黒笹14号窯・90号窯、東海72号窯などがある。尾北古窯跡群では篠岡4号窯・5号窯・48号窯・81号窯などがある。これらの窯跡群では原則的には灰釉陶器を主体として生産しており、緑釉陶器は灰釉陶器と併焼される小規模な生産体制であったと推定されている。消費地ではこの地域が灰釉陶器の一大生産地であるために灰釉陶器の出土が多く、緑釉陶器の出土点数は少ない。特に岐阜県下ではその特徴が顕著である。長野県でも灰釉陶器の出土が多く、一般集落である竪穴住居跡からも出土するのが「当たり前」という認識らしい^(注37)。

緑釉陶器は管見にのぼるかぎり長野県では28遺跡・山梨県9遺跡・静岡県5遺跡で、長野県松本市吉田川西遺跡で代表されるように9世紀中葉(7期S B 144段階)で京都産緑釉陶器が、10世紀後半(9期S B 114段階～S B 52段階)で近江産緑釉陶器が含まれているほかは一貫して東海産緑釉陶器が使われている。^(注38)

f. 関東・東北

関東地域では9世紀段階、国府・国分寺のほか郡衙施設推定地で京都洛北・洛西産の緑釉陶器が点在しているが、10世紀段階には京都産緑釉陶器が影をひそめ猿投・尾北産の緑釉陶器が主体となる。猿投・尾北産の緑釉陶器を出土する遺跡は埼玉県・群馬県で比較的多く、竪穴住居跡内から帯金具とともに出土する例もある。ただ緑釉陶器と灰釉陶器の出土比率をみると灰釉陶器の出土比率が圧倒的に高い。^(注39) 関東地域における篠産の緑釉陶器・須恵器の出土については文献及び実見したかぎりではその出土例を知らないが、群馬県前橋市清里・長久保遺跡^(注40)では京都産の可能性が高い緑釉陶器が1号墓壇内から出土している(1号墓壇内から出土した緑釉陶器は削り出し高台で内面には重ね焼き痕を明瞭にとどめた椀・皿で、その形態の特徴から京都洛西産とおもわれる。なお長久保遺跡では、集落から東海産の緑釉陶器が出土している)。東北地方では9世紀段階では畿内産が、10世紀以降には東海産のものが主体といわれており、陸奥国府多賀城跡・鎮守府胆沢城跡・陸奥国衙^(注41)と思われる多賀城城外などで緑釉陶器がまとまって出土している。篠産緑釉陶器は実見したところによると多賀城跡・多賀城市新田遺跡・岩手県水沢市胆沢城で出土している。また篠産の須恵器鉢Cは多賀城跡で出土している。

5. 小 結

文献及び一部地域では実物の観察をもとに消費地での篠産跡群から出土した製品の分布状況を検討した。それによると現在篠産と思われる製品の消費地での出土遺跡は76遺跡を数え、実見する機会が増えればその数は増加するものと思われる。現状での分布状況を概観すると篠の製品は西日本に偏在する傾向にあり、篠産緑釉陶器は大宰府・多賀城のほか国府推定地(豊前・筑後・周防・美作・讃岐・阿波・近江)と西国の瀬戸内海沿岸沿いに点在する傾向にある。ただ篠産須恵器については今なお各地の文化財担当者で認識されていない傾向にあるため、現状での分布状況については大きく変化する可能性も考えられる。

緑釉陶器については、かつてはそれが出土する遺跡は公的施設というイメージ^(注42)であったが、前述のように緑釉陶器の出土遺跡が600例以上になると緑釉陶器の出土する遺跡についてはさらに検討する必要性が高くなった。

緑釉陶器の性格については祭祀あるいは宮中の儀式や齋会の器物として利用したほか、磁器の代用品として奢侈的高級陶器の側面も持ち合わせていたという指摘がある。^(注43) また高橋照彦氏は、「国家的儀式あるいはその他の饗宴において使用される唐風文物指向の容器として」緑釉陶器が使用された時期から9世紀中頃には日常什器の量が増え、「食膳具を基本としつつも調度品的な器種や密教関係の器種など多様な用途」へと緑釉陶器が変質する^(注44)という指摘もある。また生産体

制では「中央の主導により畿内の中央官営工房」で生産されていたものが、9世紀中頃には生産地が拡大し「生産管理が必ずしも厳格なもの」でない「新規範」が成立する^(注45)。

このように、緑釉陶器自体や消費地での扱われ方が変質するなかで、篠での緑釉陶器の生産を開始する。篠窯跡での緑釉陶器生産は、10世紀第1四半期に開窯した前山2・3号窯に始まり、黒岩1号窯、西長尾5号窯へと続き、10世紀第4四半期をもって緑釉陶器の生産を終了する。篠窯跡で緑釉陶器を生産しつづけた時期には前述のように生産地・消費地での緑釉陶器の扱われ方が9世紀段階から大きく変化し、緑釉陶器の有無をもって消費地での遺跡の性格を論述するわけにはいかない状況になりつつある。篠産の緑釉陶器の消費地での遺跡のなかには国府推定地が6ヶ所(豊前・筑後・周防・美作・讃岐・近江)ある。ただ、篠窯跡で緑釉陶器が生産された時期には国府自体が「10世紀内にだいたい中枢部は新しい遺構が作られなくなり、中枢部は10世紀頃で機能しなくなる」という指摘^(注46)や「古代末期の国府はほぼ10世紀初頭から変容の時期を経て11世紀半ばをもって終わりを遂げるのではないか」とも考えられているように国府推定地での出土をもって篠産の緑釉陶器の性格を論述することは難しい。また国府推定地出土の緑釉陶器の生産地別出土比率については厳密には把握できていないが、肥前国府推定地である福岡県京都郡豊津町幸木遺跡では距離的に近い防長産緑釉陶器が主体で、次に近江産が、そして数点の篠産緑釉陶器があり、他の国府推定地でも篠産緑釉陶器は10点にも満たないものと思われる。一方篠窯跡に近い兵庫丹波や大阪能勢では緑釉陶器の大半が近江産か篠産であり、基本的には生産地の距離に左右されてその供給地が変化するものと思われる。ただ、山口県萩市見島ジーコンボ古墳・鳥根県安来市門生黒谷Ⅱ遺跡・岡山県北房町桃山遺跡・群馬県前橋市清里・長久保遺跡では墓と思われる遺構から篠産(あるいは洛西産)の緑釉陶器が出土しており、単なる生産地の距離だけでは割り切れない遺跡もあり、墓からの出土については被葬者の出自とその経歴に左右されているものと思われる。篠産の須恵器(この場合第3期の遺物をさす)も基本的には篠産の緑釉陶器と良く似た分布状況を示すが、特に須恵器鉢では四国の瀬戸内海沿岸部でその出土量が多い。これは橋本久和氏を中心として活動している中世土器研究会のメンバーの方々に負うところが大きく、篠産の鉢をも注意しながら土器を観察していただいた結果とも考えられるが、それでもなお瀬戸内の沿岸部に多い傾向にある。これについては一大消費地である京都での食料変化に影響されて篠の特産品である鉢を陸路あるいは海路で移動したものと思われる。

6. おわりに

1976年から始まった篠窯跡群の調査は10数年をかけて発掘及び整理作業が進められ、その一部を水谷・石井が担当した。発掘及び整理作業の進行とともに篠窯で生産された製品がどの地域で出土しているのか検討したいとかねがね希望していたが、両者の怠慢により10数年を経過した。その間には同僚である伊野近富^(注48)が篠の製品の分布とその検討を行ない、また堀内明博^(注49)・中島恒次郎^(注50)・森 隆^(注51)の各氏などが篠の製品について詳述している。これらの論考に刺激を受け、もう一度初心にかえって篠の製品を探し歩こうということで共同研究テーマとして当センターに申請し

た。ただこの2年間では発掘調査の業務の合間をぬって篠の製品を見て歩くことにも限界があり、今回はその方向性を見通しをたてるために資料収集を行なった。資料収集の進行と共に製品(土器)の移動、生産地と消費地との関連、平安時代の流通機構など考え合わせねばならない事柄が数多く残されているが、今なお結論をもたないまま簡単に篠の製品の分布状況を羅列して2年間の共同研究の成果を簡単に報告した。今後さらに資料収集を行なうとともにその結果を受けて検討を加えたいと考えている。

共同研究・本文作成に協力いただいた方々(敬称略・順不同)

末永弥義(福岡県豊津町教育委員会)・原田昭一(大分県教育委員会)・上東克彦(鹿児島県加世田市教育委員会)・西岡義貴(山口県埋蔵文化財センター)・吉瀬勝康(防府市教育委員会)・青山 透(広島県埋蔵文化財センター)・福田正継・浅倉秀昭(岡山県古代吉備文化財センター)・松本岩雄(島根県古代文化センター)・森内秀造(兵庫県教育委員会)・徳原多喜雄・山田義三(兵庫県氷上郡教育委員会)・百瀬正恒(京都市埋蔵文化財研究所)・柳澤康明(宮城県多賀城跡調査研究所)・千葉孝弥(多賀城市埋蔵文化財調査センター)・伊藤博幸・池田明郎(水沢市埋蔵文化財調査センター)

(いしい・せいじ=当センター調査第2課調査第2係主任調査員)

(みづたに・としかつ=当センター調査第1課課長補佐兼企画係長)

- 注1 「昭和52年度国道9号バイパス関係遺跡発掘調査概要」(『埋蔵文化財発掘調査概報』 京都府教育委員会) 1978・「昭和54年度篠窯跡群発掘調査概要」(『埋蔵文化財発掘調査概報』 京都府教育委員会) 1980・「昭和55年度篠窯跡群発掘調査概要」(『埋蔵文化財発掘調査概報』 京都府教育委員会) 1981・「篠窯跡群Ⅰ」(『京都府遺跡調査報告書』第2冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1984・「篠窯跡群Ⅱ」(『京都府遺跡調査報告書』第11冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1989
- 注2 森 隆「近江地域出土の古代末期の土器群について」(『中近世土器の基礎研究Ⅳ』 日本中世土器研究会) 1988 p127
- 注3 高橋照彦「防長産緑釉陶器の基礎的研究」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第50集 国立歴史民俗博物館) 1993
- 注4 石井清司「篠窯跡須恵器」(『概説中世の土器・陶磁器』 中世土器研究会 1995)に準拠する。
- 注5 伊野近富「篠窯原型と陶邑窯原型の須恵器について」(『京都府埋蔵文化財情報』第37号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1990
- 注6 中島恒次郎「大宰府における搬入土器―篠窯系資料―」・森 隆「近江地域出土の古代末期の土器群について」など多数
- 注7 高橋照彦・前掲注3論文 p230-231
- 注8 佐藤浩司ほか『寺田遺跡』(『北九州市埋蔵文化財調査報告書』第70集 北九州市教育文化事業団) 1988
- 注9 中島恒次郎「大宰府における搬入土器―篠窯系資料―」(『中近世土器の基礎研究Ⅵ』 日本中世土器研究会) 1990
- 注10 高橋照彦「日向出土の畿内産土器」『中世土器研究』第75号 1994
- 注11 高橋照彦・前掲注3論文 p232
- 注12 高橋照彦・前掲注3論文
- 注13 松本岩雄氏の御教示による。

- 注14 広島県草戸千軒遺跡調査研究所編『草戸千軒町遺跡発掘調査報告—北部地域北半部の調査』 1993
- 注15 前川 要「<資料紹介>広島県ザブ遺跡出土平安時代緑釉陶器について」『中近世土器の基礎研究V』 1989
- 注16 岡田 博「美作国府遺跡の調査」(『岡山県埋蔵文化財報告』 岡山県教育委員会) 1972・「美作国府」(『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告(6)』 岡山県教育委員会) 1973
- 注17 浅倉秀昭ほか「菅生小学校裏山遺跡」(『山陽自動車道建設に伴う発掘調査5』 岡山県文化財保護協会) 1993
- 注18 田中満雄「桃山遺跡」(『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』 2 岡山県教育委員会) 1976
- 注19 町田 章『出雲国庁跡発掘調査概要』 松江市教育委員会 1971、島根県風土記の丘資料館で展示されているものを実見する。
- 注20 大庭俊次「オノ神遺跡」(『一般国道9号(安来道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』 9 島根県教育委員会) 1995
- 注21 寺尾 令「門生黒谷Ⅱ遺跡」(『島根県教育庁文化課 埋蔵文化財調査センター年報Ⅲ』 島根県教育委員会 1995
- 注22 倉吉市博物館『発掘された倉吉の歴史』 倉吉市博物館で展示されているものを実見する。
- 注23 山元素子「四国の緑釉陶器—香川県を中心に—」(『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東3、施釉陶器—』 古代の土器研究会) 1994
- 注24 片桐孝浩「第5章考察—古代から中世にかけての土器様相—」(『川津元結木遺跡』 香川県教育委員会) 1992
- 注25 栗田茂敏「石井幼稚園遺跡」(『松山市埋蔵文化財調査報告書』 45 松山市教育委員会) 1994
- 注26 栗田正芳・河野史知「古照遺跡7次調査地」(『松山市埋蔵文化財調査年報V 平成4年度』 松山市教育委員会、埋蔵文化財センター) 1993
- 注27 「八町遺跡」(『一般国道196号今治道路埋蔵文化財調査報告書』 愛媛県埋蔵文化財調査センター) 1989
- 注28 「特集 中世土器」(『埋文えひめ』 第7号 (財)愛媛県埋蔵文化財調査センター) 1987
- 注29 鋤柄俊夫「瀬戸内を中心とした終末期の須恵器—全国シンポジウムの準備会の報告—」『中世土器研究』 第58号 1990
- 注30 吉岡康暢「施釉陶器」(『東大寺領横江庄遺跡』 石川考古学研究会) 1983
- 注31 出越茂和「北陸の施釉陶器—加賀を中心に—」(『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東3、施釉陶器—』 古代の土器研究会) 1994
- 注32 前川要「<研究報告>第35回、北陸出土古代施釉陶器について」(『北陸古代土器研究』 創刊号 北陸古代土器研究会) 1991
- 注33 高橋照彦「加賀出土の施釉陶器」(『北陸古代土器研究』 創刊号 北陸古代土器研究会) 1991
- 注34 吉岡康暢・前掲注30論文
- 注35 出越茂和『金沢市千木ヤシキダ遺跡Ⅱ』 金沢市教育委員会 1991
- 注36 斉藤孝正「尾張・美濃における緑釉陶器生産」(『緑釉陶器の流れ』 三重県埋蔵文化財センター・斎宮歴史博物館) 1991
- 注37 原 朋芳「信濃の施釉陶器」(『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東3、施釉陶器—』 古代の土器研究会) 1994
- 注38 原 朋芳・前掲注37論文
- 注39 高橋照彦「東国の施釉陶器」(『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東3、施釉陶器—』 古代の土器研究会) 1994

- 注40 群馬県埋蔵文化財調査事業団『清里・長久保遺跡』 1986
- 注41 柳澤和明「東北の施釉陶器—陸奥を中心に—」(『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東3、施釉陶器—』 古代の土器研究会) 1994
- 注42 消費地における施釉陶器の出土状況から、高橋照彦氏は東国では施釉陶器中の緑釉陶器の比率で20%程度を占める国府型、5~10%程度を占める有力集落型あるいは拠点集落型、ほとんど出土しない一般あるいは小規模集落型に分類している。高橋照彦・前掲注39論文
- 注43 坂野和信「日本古代施釉陶器の再検討(Ⅰ)」(『考古学雑誌』65-2 日本考古学会) 1979
- 注44 高橋照彦「平安期緑釉陶器の生産の展開と終焉」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第60集 国立歴史民俗博物館) 1995
- 注45 高橋照彦・前掲注44論文 p 138
- 注46 阿部義平「報告3 遺跡からみた国府」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第20集 共同研究「古代の国府の研究」(続)) 1989 p 194
- 注47 佐藤宗淳「報告6 古代末期の国府」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第20集 共同研究「古代の国府の研究」(続)) 1989 p 215
- 注48 伊野近富「篠原型須恵器の分布について」(『京都府埋蔵文化財論集』第2集 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1991
- 注49 堀内明博「平安時代中・後期の畿内の土器組成(1)—滋賀県における畿内型土器の動向—」(『中近世土器の基礎研究Ⅱ』 日本中世土器研究会) 1986
- 注50 中島恒次郎・前掲注6論文
- 注51 森 隆「近江地域出土の古代末期の土器群について」(『中近世土器の基礎研究Ⅳ』 日本中世土器研究会) 1988

平成8年度発掘調査略報

1. 黒部遺跡(長芝原地区)

所在地 竹野郡弥栄町黒部
 調査期間 平成8年4月22日～5月24日
 調査面積 K地点約47m²、L地点約450m²、M地点約83m² 合計約580m²

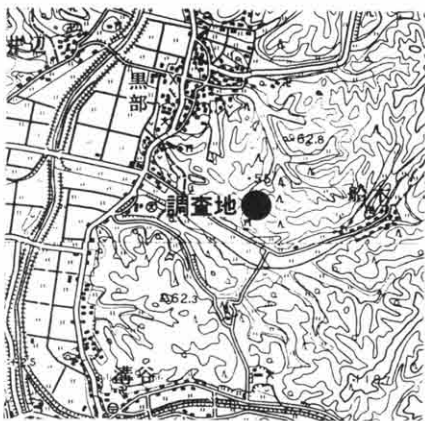
はじめに この調査は、農林水産省近畿農政局が計画・推進している「丹後国営農地開発事業」の黒部団地造成工事に伴い、同局の依頼を受けて実施した。黒部遺跡の調査は、平成5年度から継続して行い、今年度は、製鉄炉2基、炭窯1基を確認した。

調査概要 調査を実施するにあたり、まず、谷の手前から各調査区をK・L・M地点と名付けた。K地点からは製鉄炉1基(9号製鉄炉)、L地点から製鉄炉1基(10号製鉄炉)、M地点から炭窯1基(41号炭窯)をそれぞれ検出した。

9号製鉄炉 丘陵裾部の舌状に張り出した平坦地に築かれた、非常に残りの悪い箱形炉である。確認したのは、防水施設と考えられる下部構造の部分で、その規模は幅0.5m・長さ1.8m・深さ0.3mを測る。下部構造の床面から赤色の焼土を確認した。その範囲は、幅0.2m・長さ1.5mであった。製鉄炉本体は流失していたため、当初の製鉄炉の規模は不明である。製鉄炉西側に排滓坑を、東側に排滓溝を築き、鉄滓を廃棄していた。

10号製鉄炉 丘陵裾部の平坦地で検出した箱形炉で、炉の下部構造と排滓坑、製鉄炉本体の一部(炉底)を検出した。下部構造壁面は赤色に焼けており、下部構造内に敷きつめられた粉炭層上面からは、流出滓が出土した。下部構造の規模は、幅0.7m・長さ4m・深さ0.3mを測る。炉底の一部を検出したことから、炉本体の内法は推定幅0.4mであったと思われる。長さは不明である。

41号炭窯 1.3m×1m・深さ0.5mを測る方形の小型炭窯である。床面の一部と壁面上部が赤色に焼けていた。操業時期は、遺物がなく不明である。



調査地位置図(1/50,000)

まとめ 黒部遺跡では、昨年度までの調査の結果、石熊地区から製鉄炉2基、炭窯2基を、仲谷地区で製鉄炉8基、炭窯31基、住居跡5基を、金屎地区で炭窯8基をそれぞれ確認した。遺構総数は、今回の調査で製鉄炉2基、炭窯1基が新たにみつき、製鉄炉12基、炭窯42基、住居跡5基となった。昨年度までの調査で製鉄炉や炭窯などは、8世紀後半から9世紀前半に操業されたことがわかっており、今回は出土遺物が少なく操業時期は不明であるが、炉の形態などから、同じ時期と推定される。(岡崎研一)

2. 奈具岡遺跡・奈具岡北古墳群・奈具岡南古墳群

所在地 竹野郡弥栄町溝谷
 調査期間 平成8年4月12日～同年7月10日
 調査面積 約4,100m²

はじめに 今回の調査は、農林水産省近畿農政局が計画・推進している「丹後国営農地開発事業」の奈具岡団地造成工事に先立ち、同局の依頼を受けて実施した。調査地は、平成7年度に大規模な弥生時代中期の水晶工房群などが検出された奈具岡遺跡、及びその尾根上の奈具岡北古墳群、谷を挟んで南側に位置する奈具岡南古墳群の3か所である。

調査概要 奈具岡遺跡は、昨年度調査地の東南部分である。ここでは、半円形またはテラス状の建物跡を7基検出し、昨年度以来の建物跡の総数は74基に達した。

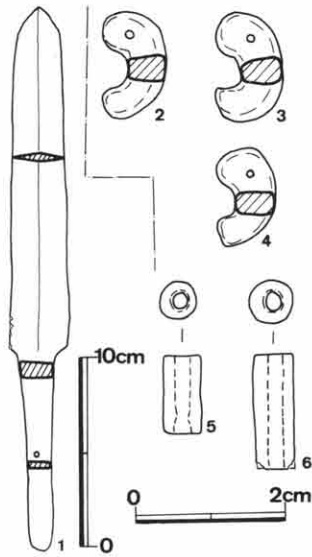
奈具岡北古墳群では、4号墳で3基の主体部を確認した。

第1・2主体部は古墳時代中期初頭のもので、第3主体部は弥生時代中期後半である。第1主体部(5.1m×2.2m・深さ0.6m)は箱形木棺、第2主体部(3.9m×1.9m・深さ0.5m)は割竹形木棺を直葬しており、いずれも東枕であった。第3主体部(2.5m×1.3m・深さ0.5m)は、箱形木棺を直葬し、東側小口には焼土坑を伴うが、大半が第2主体部によって破壊されていた。

奈具岡南14・15号墳は、尾根線上に地山を削り出して築いた古墳時代前期の方墳である。いずれも、墳丘は残っておらず、方形のテラス面で墓壇を検出した。14号墳は、6.0m×7.0mのテラス中央で3基の墓壇を検出した。いずれも木棺を使い、第1主体部(4.2m×1.2m・深さ0.6m)、第2主体部(3.4m×1.2m・深さ0.6m)は「H」型、第3主体部(2.0m×1.0m・深さ0.6m)は箱型の木棺を使用していた。出土遺物は、第3主体部から滑石製の勾玉3点(全長1.5cm・厚さ0.5cm)・碧玉製の管玉2点(全長1.5、1.0cm、直径5mm)、第2主体部からは鉄剣(全長29cm・最大幅3.5cm)が出土した。15号墳では、7.0m×8.0mのテラス上で3基の墓壇を検出した。第1主体部(5.2m×2.0m・深さ0.5m)のみが「H」型の木棺を使用し、第2主体部(1.8m×0.9m・深さ0.5m)、第3主体部(1.5m×0.8m・深さ0.3m)は棺を使用しない土壇墓であった。いずれも、墓壇内から遺物は出土しなかったが、西側斜面では布留式土器の破片が散在し



第1図 調査地位置図(1/25,000)



第2図 奈具岡南14号墳出土遺物
 剣(1/4)・玉類(×1)

ていた。また、奈具岡14号墳の東側斜面で方形(1.7m×1.8m・深さ0.4m)の炭窯跡を検出した。床面には0.5～1cmの厚さで炭が薄く堆積しており、周囲の壁は炭を焼くときの熱で赤く焼けしまっていた。炭窯内、また付近からの遺物はなく、作業時期は不明である。

まとめ 奈具岡遺跡の調査によって、奈具地区で検出された住居跡の総数は100基余りに達し、弥生時代中期では竹野川中流域の拠点的な集落の1つであったと考えられる。また、奈具岡南14・15号墳の調査では、奈具地区の古墳群としては初めて玉類の副葬が確認された。また、15号墳より下方に古墳はないことが確認され、尾根の下方側に前期の古墳が立地することがわかった。奈具地区には30基前後の古墳群の展開がみられるが、その動向を考える上で興味深い資料が得られた。

(河野一隆・橋本 稔)



奈具岡北4号墳主体部全景(東から)

3. 浦入西古墳群

所在地 舞鶴市大字千歳字花ヶ口
 調査期間 平成8年4月12日～6月11日
 調査面積 約1,440m²(試掘調査を含む)

はじめに 今回の調査は、関西電力株式会社による舞鶴火力発電所建設計画に伴い、舞鶴市教育委員会の依頼を受けて実施した。

浦入西古墳群は、若狭湾から舞鶴湾へと南下する際に、その玄関口にあたる大浦半島の西端に位置している。今回報告するD地点は、浦入湾内部を眼下に見下ろす標高約30～60mを測る丘陵上に立地する。

調査概要 調査対象地内には、直径約15mを測る4基の円墳の存在が報告されている。しかし、丘陵最上部に位置する1号墳は、明治時代の鎮守府の設置に伴って海軍の施設(弾薬庫)が建造された際に、その大半が削平されており、現在は、裾部の一端が残存するにすぎない。したがって、2・3・4号墳を中心に調査を行った。当初、各古墳に「L」字形の畦を2本ずつ設定して、墳丘を掘り下げた。しかし、いずれも主体部などの痕跡を確認することができず、最終的には地山面まで、墳丘の断ち割りを敢行した。その結果、赤褐色を呈する岩盤の地山層の上に、旧表土と考えられる暗黄褐色土の堆積がみられた。そして、その上には墳丘の核となる形で、礫を多く含む赤褐色土が盛られており、さらに、その上には赤褐色土と暗褐色土が互層に盛られている状況を明瞭に観察することができた。しかし、主体部は検出できず、遺物は1点も出土しなかった。

1～4号墳の調査終了後、その下部の丘陵先端部で重機による試掘調査を実施した。しかし、現表土から約15cmで地山である赤褐色の岩盤層へと達してしまい、遺構は何ら確認されず、遺物の出土もみられなかった。

まとめ 今回の調査結果からもD地点は古墳ではないと判断される。この古墳状隆起の存在する丘陵頂部のすぐ南側には、弾薬庫へと通じる通路が掘削されており、この墳丘はその際に排出された土を盛ったものと考えられる。

(奈良康正)



調査地位置図(1/50,000)

4. 長岡京跡右京第526次(7ANKJC-2)

所在地 長岡京市天神一丁目
 調査期間 平成8年5月23日～7月3日
 調査面積 約280m²

はじめに この調査は、都市計画道路石見下海印寺線の街路改良工事に伴い、京都府乙訓土木事務所の依頼を受けて、発掘調査を実施した。八条ヶ池東側の工事該当部分については、1992年以来、当調査研究センターが数回の調査を実施してきており(右京第411次、第440次、第474次、第498次)、今回の調査はその南端部分にあたるものである。調査対象地は、長岡京市天神一丁目に所在しており、長岡京跡の条坊復原案によると、右京六条三坊五町(旧呼称六条三坊七町)に相当し、西三坊坊間小路が西側に隣接する位置にあたる。周辺では、長岡京期の遺構・遺物が確認されているほかに、旧石器時代のナイフ形石器や縄文時代中期から晩期の土器などが出土した十三遺跡が調査地の北東に隣接している。また、それ以外に弥生時代から中世にかけての集落跡である開田城ノ内遺跡、平安時代の泉殿跡、中世の城館跡である開田城跡などが所在している。

調査概要 調査地は、西山丘陵裾部から舌状に南東に向かってのびる高位段丘層の北東側の斜面にあたり、標高は約28.0～28.5mを測る。調査は、現表土層・盛り土層・旧耕作土層を重機で除去した後、人力で掘削を行ったが、調査地全面にわたって旧宅地の浄化槽や井戸、それに伴うパイプ埋設溝などの攪乱が多くあることが確認された。一方、調査地内の南半部分は、地山面がほぼ平坦となっており、後世に削平されたと思われる。

今回の調査では、地山層を掘り込む2条の溝跡や柵列など、若干の遺構を検出したが、遺物も乏しく、いずれもその時期や性格は不明である。

まとめ 今回の調査では、段丘斜面であることを確認したのみで、顕著な遺構や遺物の検出はできなかった。しかし、前述したように、周辺には各時代に及ぶ多くの遺跡があり、それらの遺跡の調査地でも古代の人間の営みの痕跡が確認されている。今後、さらにこの地域周辺での調査と、その成果が積み重ねられていくことを期待したい。

(竹下士郎)



調査地位置図(1/25,000)

府内遺跡紹介

72. 久津川車塚古墳

古墳の概要 京都市の南郊、ベッドタウンとしての開発著しい城陽市は、奈良(大和)街道の中継地として、古来、人々の往来が絶えたことがない。その北方、宇治市との市境に近い久津川地区には、南山城を代表する久津川(平川)古墳群があり、その盟主墳が墳丘全長180mを誇る前方後円墳の久津川車塚古墳である。この古墳は、すでに江戸時代の地誌類にも記録されていて、「車塚」の由来は葬送の車を納めたところだという。地元では、「七つ塚」と呼び慣わされており、近鉄久津川駅から東方を望めば、今でも、住宅街に埋もれるように、車塚・芭蕉塚・青塚・梶塚などの古墳の森が確認できる。

この古墳の調査は古く、明治27(1894)年、京都と奈良を結ぶ鉄道(現JR奈良線)敷設工事中、石棺が露出したことが契機である。工事は直ちに中止され、7月27日、警官立ち会いの下に蓋石が開かれ、人骨をはじめ鏡・甲冑・刀剣・石製模造品などが発見された。この時点では、棺内の鏡と棺外の副葬品以外は、手を付けずに蓋石は閉じられたらしい。その後20年が過ぎ、大正4(1915)年、京都大学の梅原末治氏による再調査を経て、石棺は京都大学に寄贈された。また、大正9(1920)年には『久津川古墳研究』と題された研究報告書がまとめられ、この古墳が広く知られるところとなった。

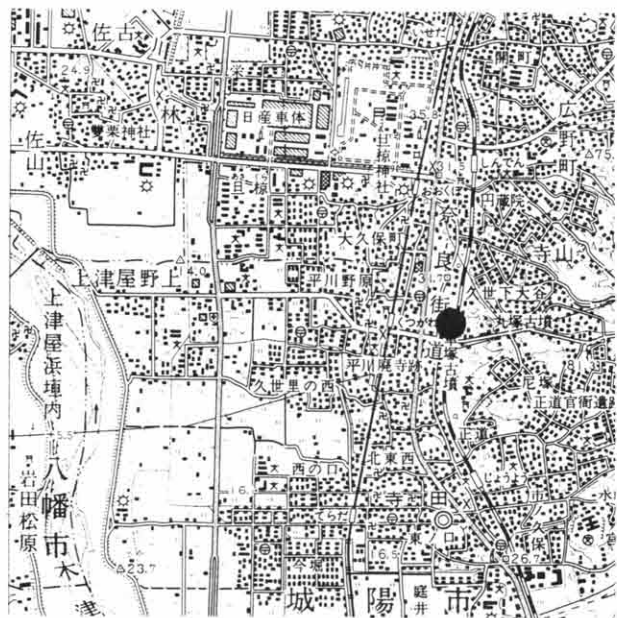
だが、発見が古く、正式の発掘調査によらなかったために、不明な点が多い。例えば、発見時と再調査時では、棺内の頭蓋骨の向きが正反対に記録されている。信頼できる事実を列挙すると次のようだ。

(1) 石棺は南北を主軸として直葬され、その両側には蓋石を架構した石室があった。

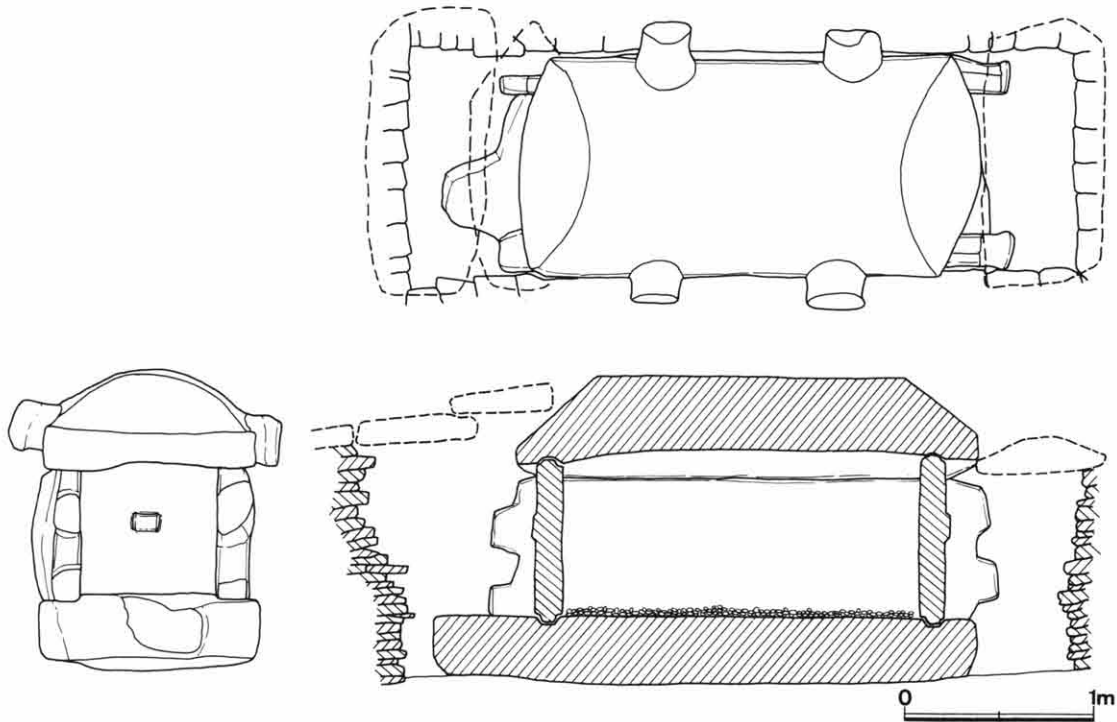
(2) 石棺内は白色の礫が敷き詰められ、赤色顔料が塗布されていた。

(3) 棺内には鏡背を上に向けて7面の鏡、側石に沿って7本の剣、及び大量の石製勾玉・白玉・模造品などが納められていた。

(4) 棺外の副室の内、北側には甲冑、南側には刀剣約50本と石製盤・石製合子が副葬されていた。



第1図 遺跡所在地(1/50,000)



第2図 久津川車塚古墳の長持型石棺とその埋納状況(1/40)
 (『久津川車塚研究』を一部改変・加筆)

なお、墳丘の調査は城陽市教育委員会によって17次の調査が実施され、外濠を含む全長272m、同幅216mを測る前方後円墳で2重の周濠、外堤を持つことがわかっている。

現在、久津川車塚古墳の遺物は散逸し、京都大学文学部博物館・京都府立山城郷土資料館・天理参考館・泉屋博古館・東京国立博物館・斯波逸郎氏(城陽市歴史民俗資料館保管)がそれぞれ所蔵している。現存する遺物は、三角縁神獣鏡2、画文帯神獣鏡2、四獣形鏡4、石製模造品(刀子・鎌)、白玉、勾玉、碧玉製勾玉、衝角付冑(堅矧細板鋌留式2・小札鋌留式2)と鋕、短甲(三角板革綴式5)及び付属具(頸甲・肩甲)、刀50本、剣10本以上、鏃17などがある。これらの遺物から、古墳の年代は430年前後と考えられる。

古墳の意義 この古墳は古くから知られていたために、多くの研究者によって言及され、その評価も多様である。中でも、石棺は長持形石棺の全形がうかがえる格好の資料である(第2図)。長持形石棺とは、中期古墳に典型的な、長側石で短側石を挟み込んだ6枚の板石から構成される一種の組合式石棺である。特に、蓋石・底石・長側石の端面には縄掛突起、短側石中央には方形の突起が付く特徴がある。この型式の石棺は、明治年間に仁徳陵前方部から出土した例をはじめ、主に巨大前方後円墳の主体部に採用されるので、「王者の棺」と俗称されている。さらに、この石棺の大部分が、兵庫県加古川市周辺で産出する竜山石(流紋岩質凝灰岩)で造られ、石材産地から少なくとも60km以上も離れた、古市・百舌鳥古墳群などに供給されている。その背景には、畿内政権による石棺工人の掌握が想定されるのである。

長持形石棺は、その祖型といえるものが大阪府松岳山古墳で登場するが、河内平野に出現した最初の巨大前方後円墳、大阪府津堂城山古墳の例で定型化をとげる。初期の長持形石棺は、扁平

な蒲鉾形の蓋と大型で狭長の棺身が特徴であり、木棺を石にうつしたようである。時代が下るにつれて、蓋石が屋根形となり、縄掛突起が省略される。久津川車塚古墳の例は、屋根形の蓋石が登場した頃の型式である。長持形石棺は、6世紀前半には家形石棺へと移行するが、6世紀中頃の前方後円墳である向日市物集女車塚古墳・鳥根県薄井原古墳の家形石棺は、長持形石棺の形態を色濃く残している。これらの古墳では、羨道前壁に竜山石による長持形石棺の部材が転用されており、この家形石棺の製作者が長持形石棺を意識したようで興味深い。

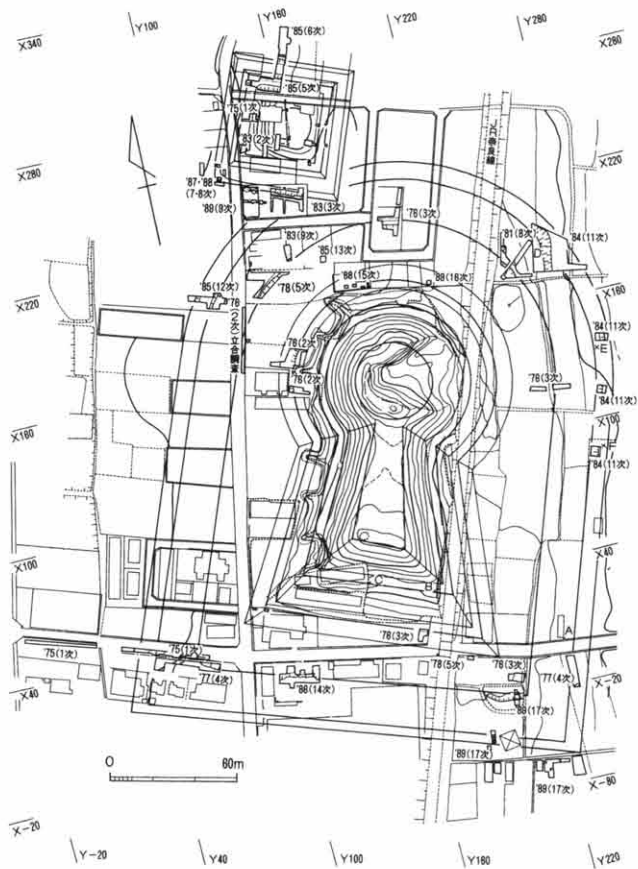
また、畿内以外にも長持形石棺は普及する。例えば、佐賀県谷口古墳、福岡県月の岡古墳、岡山県造山古墳(破片)、群馬県お富士山古墳などである。また、厳密な長持形石棺とはいえないが、丹後地域の丹後町産土山古墳、網野町離湖古墳(第2主体)などにも長持形石棺に酷似した組合式石棺がある。これらの古墳の被葬者は、谷口古墳の初期横穴式石室、月の岡古墳の金銅製帯金具・胡籬を引くまでもなく、新来の文化要素を摂取した首長である。想像をたくましくすれば、畿内政権は、それら新興の首長に威信材としての長持形石棺を認可することで、在地支配の橋頭堡としたのではなかろうか。

中期古墳でみられる長持形石棺は、地域や階層別に石槨や石棺などの多様な埋葬法を採用していた前期古墳から、棺の型式に政治的序列を表現することが一層顕在化したことを意味している。やがて、後期古墳では横穴式石室へと収斂し、埋葬法に身分を表現する風習、つまり古墳時代は終わりを告げる。これは朝鮮半島でも共通する動向である。

古墳の案内 近鉄久津川駅より東へ徒歩10分。なお、1995年に開館した城陽市歴史民俗資料館(城陽市寺田)では、この古墳の概略を知ることができる。(河野一隆)

<参考文献>

1. 梅原末治『久津川古墳研究』(復刻版) 1920
2. 小泉裕司「久津川遺跡群発掘調査概報」(『城陽市埋蔵文化財調査報告書』第20集 城陽市教育委員会) 1990
3. 和田晴吾「南山城の古墳—その概要と現状—」(『京都地域研究』4 立命館大学) 1988



第3図 久津川車塚・梶塚古墳測量図
(1/360、参考文献2より)

73. 宇治二子塚古墳

二子塚古墳は、宇治川東部古墳群にあって、宇治市五ヶ庄大林に所在する前方後円墳として古くから知られていた。場所的には、山城国宇治郡になり、水戸彰考館に所蔵された山科郷古図にも見えているという。また、平安時代末期の摂政を勤めた藤原忠実の日記の『殿暦』や、その子の右大臣藤原頼長の日記の『台記』にも見えている。

『殿暦』では、康和5(1103)年7月24日条に、忠実が南都へ向かう途中で、「二子墓程車軸打」と見えており、「二子墓」と表現されている。一方、『台記』では、頼長が南都から京都へ帰るとき、「比二子陵邊天曙」とあり、この辺りで夜が明け始めたことがわかる。ここでは、「二子陵」と書かれており、忠実の「二子墓」よりも一歩進んだ表現になっている。令制では、「陵」は、基本的に天皇の墓のことで、天平宝字4(760)年には太皇太后・皇太后にまで拡大されているが、それらの人物以外の墓には用いない用語である。むろん、平安時代末期のことでもあり、令制の用語がそのまま使われることはない。むしろ、日記という限られた中ではあるが、「陵」が使われていることは、古典に精通している頼長としては、この二子塚古墳が皇太后クラス以上の墳墓であったという意識が存在したのかもしれない。

ところで、後円部はかなり早くから破壊されており、この古墳の内部にどのような形態で被葬者が葬られていたかは詳しくはわかっていない。1923年に出版された『京都府史蹟勝地調査會報告』では、梅原末治は当時の現状を調査して報告している。その中でも、1914・1915年に後円部の土砂が採集された結果、すでに後円部が相当破壊されて主体部がどのようなものであったかわからなくなってしまったことを述べている。ただ、前方部は、後世、近衛兼経の墓が造られた関係から、1914年の土取りに際しても破壊をまぬ

がれたのである。

1923年当時の状況では、前方部の西南の二面には堀があり、周溝のあったことが確認されている。また、封土上には円筒埴輪の破片が散乱していたようで、円筒埴輪がめぐっていたことがわかる。さらに、同時に封土上には相当数の礫石もあったようで、古墳の築造時には葺石があったこともほぼ確実である。

問題の内部主体であるが、後円部が破壊されたため、1923年当時でもすでに知り得ようがなかった。しかし、後円部の切断面に見えていた



第1図 遺跡所在地(1/50,000)

大きな石の存在や付近の西方寺の住職からの聞き取り調査などから、これが天井石の一部であって、全体的には横穴式石室であったことを推定された。

当時の具体的な採集品として、円筒埴輪のほか、形象埴輪があった。ただ、後円部の破壊だけでなく、天井石の落下から見て、それ以前に盗掘を受けていたらしく、これら以外の遺物はほとんど採集できなかったようである。

その後、二子塚古墳については、あまり調査もなされずにいたが、『宇治市史』によれば、測量調査が行われている。その結果、周溝は前方後円墳の周囲をめぐっており、周溝の外には外堤が存在し、前方部が南向きで、復原全長が105mにも達することがわかった。しかも、外堤と周溝部を含めた古墳の全長は170mにも達するという巨大な古墳であることが推定されるに至った。

しかし、何と云っても、相当早い時期に盗掘を受けたり、土取りのため後円部が破壊されたため、一般的には全体の形状すらわからない状況であった。そのため、この古墳に注目されることは少なく、研究もほとんど進展しない状況であった。ところが、1985年の宅地開発に伴って、二子塚古墳の全域を含む寺界道遺跡の発掘調査が宇治市教育委員会によって実施され、これまでの推定よりももっと注目すべき事実が明らかになった。

これまで、外堤部は測量調査で確認されていたが、さらにその外側に落ち込みがあって、そこから古墳時代の埴輪や土器が出土したことから、外堤部の外にももう一つ堀のあったことがわかった。この事実は、二子塚古墳が二重の周溝を持つ前方後円墳であり、京都府内では城陽市久津川車塚古墳に次いで二例目ということになる。全国的には大阪府などに相当数の例があるが、いずれも大王クラスの前方後円墳である。そのため、この二子塚古墳も大王クラスかそれに準ずる人を被葬者にした可能性があり、にわかに注目されるようになってきた。

ただ、大王クラスの二重の周溝を持つといっても、大阪府にある古墳群のように、ある程度数が近い地域に存在するのではなく、二子塚古墳の場合は1基しかない点が異なる。その意味でも、単独で巨大な古墳が存在する場合は、注意を要するに思う。この点、最近刊行された『発掘ものがたり宇治』では、二子塚古墳出土の円筒埴輪を分析して意味付けを考えられている点は高く評価できる。

それによれば、二子塚古墳出土の円筒埴輪は、三辻利一氏の分析によって、宇治周辺で焼かれた埴輪以外に、高槻市の新池埴輪窯で焼かれたものがあることがわかっている。この新池埴輪窯で焼かれた埴輪は、同じ高槻市の今城塚古墳や、天理市の西殿塚古墳にも並べられているこ



第2図 二子塚古墳測量図
(『宇治市史』第1巻より転載)

とが指摘されている。この両古墳は、最近の研究では継体天皇とその皇后の手白香皇女の陵墓に比定されることが多い。もし、そうだとすると、新池埴輪窯で焼かれた埴輪は、継体天皇夫妻と関係の深いものということができ、同じ埴輪が供給されている二子塚古墳も継体天皇との関係を考えることになろうというのである。

面白い考え方ではあるが、二子塚古墳の場合は、新池の埴輪以外にも地元で焼かれた埴輪も混じっているのであるから、地元との関係も考える必要がある。特に、継体天皇は、『日本書紀』によれば、河内の樟葉宮で即位してから大和の磐余玉穗宮に落ちつくまでに約20年の歳月を経ており、山背国内でも筒城宮(綴喜郡内に比定)、弟国宮(乙訓郡内に比定)と移ったと伝承されている人物である。これらの宮の所在地ははっきりとはわからないが、筒城宮の方は二子塚古墳のある宇治地域とは木津川の対岸になる。そのため、継体の伝承ルートとは若干はずれる点が気になる。むろん、継体の宮居は、あくまで伝承であり、史実かどうかは別に検討する必要があるが、あるいは、継体の大和入りに協力した地元の人物か、山背を押さえた人物を被葬者と見る可能性もあろう。

いずれにせよ、今後の研究によって、二子塚古墳と継体天皇の関係や、大和との関係などが明らかになってくるであろう。

(土橋 誠)

<参考文献>

『京都府史蹟勝地調査會報告』第四冊 京都府 1923

『宇治市史』 宇治市 1973

「五ヶ庄二子塚古墳昭和63年度発掘調査概報」(『宇治市埋蔵文化財調査概報』第13集 宇治市教育委員会) 1989

「五ヶ庄二子塚古墳平成元年度発掘調査概要」(『宇治市埋蔵文化財調査概報』第15集 宇治市教育委員会) 1990

『五ヶ庄二子塚古墳発掘調査報告』(『宇治市文化財調査報告』第3冊 宇治市教育委員会) 1992

『発掘ものがたり宇治』 宇治市歴史資料館 1996

長岡京跡調査だより・58

前回の「たより」以降の長岡京連絡協議会は、平成8年5月22日、6月26日、7月24日に開催された。報告のあった京内の発掘調査は、宮内5件、右京域19件、左京域8件であった。京外の9件を併せると41件となる(調査地一覧表と位置図を参照)。この内、主要な報告について調査成果を簡単に紹介する。

調査地一覧表

(1996年7月末現在)

番号	調査次数	地区名	調査地	調査機関	調査期間
1	宮内第295次	7ANBMC-3	向日市寺戸町南垣内8-2他	(財)向日市埋文	95.3/2~5/30 96.3/4~3/19 4/10~
2	宮内第316次 (第2調査区)	7ANBKD	向日市寺戸町小佃	(財)向日市埋文	10/30~6/17
	宮内第316次 (第3調査区)	7ANBKD	向日市寺戸町小佃	(財)向日市埋文	3/4~
3	宮内第324次	7ANEIN	向日市鶏冠井町稲葉18-50	(財)向日市埋文	4/16~4/30
4	宮内第326次	7ANEYT-2	向日市鶏冠井町山畑地内・楓畑24	(財)向日市埋文	5/15~
5	宮内第327次	7ANEYT-3	向日市鶏冠井町山畑	(財)向日市埋文	7/15~7/19
6	右京第517次	7ANIAE-8	長岡京市今里赤ノ上33-1他3筆	(財)長岡京市埋文	2/13~4/12
7	右京第518次	7ANIKI-2	長岡京市今里五丁目121-1	(財)長岡京市埋文	3/4~4/23
8	右京第520次	7ANKSC-5	長岡京市天神一丁目320-12	(財)長岡京市埋文	4/10~4/22 5/29~7/5
9	右京第521次	7ANPIR-1	長岡京市奥海印寺坂ノ尻7の一部	(財)長岡京市埋文	4/12~5/1
10	右京第522次	7ANIAE-9	長岡京市今里四丁目230-1	(財)長岡京市埋文	4/17~
11	右京第523次	7ANSTE-17	大山崎町円明寺鳥居前61	大山崎町教委	4/8~5/20
12	右京第524次	7ANMSL-6	長岡京市東神足一丁目1-1の一部	(財)長岡京市埋文	4/22~6/6
13	右京第525次	7ANSTD-2	大山崎町円明寺佃10-1、11	大山崎町教委	5/1~6/6
14	右京第526次	7ANKJC-2	長岡京市天神一丁目	(財)京都府埋文	5/23~6/28
15	右京第527次	7ANISY-2	長岡京市今里二丁目115・127	(財)長岡京市埋文	5/27~6/17
16	右京第528次	7ANKSC-6	長岡京市天神一丁目313-3	(財)長岡京市埋文	6/3~7/8
17	右京第529次	7ANKTR-6	長岡京市開田二丁目125-1	(財)長岡京市埋文	6/17~
18	右京第530次	7ANQNK-4	長岡京市久貝二丁目315-1・316-4	(財)長岡京市埋文	6/20~7/31
19	右京第531次	7ANBNI-2	向日市寺戸町西垣内15-97	(財)向日市埋文	6/17~7/31
20	右京第532次	7ANMMZ-1	長岡京市神足一丁目16-10	(財)長岡京市埋文	7/1~
21	右京第533次	7ANFUT-2	向日市上植野町馬立17	(財)向日市埋文	7/2~
22	右京第534次	7ANGSN-4	長岡京市井ノ内下印田24-1	(財)長岡京市埋文	7/15~
23	右京第535次	7ANKTM-4	長岡京市天神二丁目地内	(財)長岡京市埋文	7/22~
24	右京第536次	7ANGKS-4	長岡京市井ノ内小西40	長岡京市教委	7/15~
25	左京第381次	7ANEMD-2	向日市鶏冠井町門戸2他	(財)向日市埋文	7/15~
26	左京第383次	7ANDST-3	向日市森本町下森本17-2	(財)向日市埋文	4/3~5/15
27	左京第384次 (A-5)	7ANVKN-9	京都市南区久世東土川町金井田	(財)京都府埋文	4/8~
28	左京第385次 (B-5b・B-8)	7ANVKN-10 7ANVST-6	京都市南区久世東土川町金井田、正登	(財)京都府埋文	6/3~

29	左京第386次	7ANFJK-7	向日市上植野町浄徳11-9	(財)向日市埋文	4/16~5/31
30	左京第387次	7ANEMR-3	向日市鶏冠井町南金村17・18・19-1	(財)向日市埋文	4/14~7/12
31	左京第388次	7ANDMD-3	向日市森本町前田4-3・5-3	(財)向日市埋文	6/5~7/31
32	左京第389次	7ANFIR-4 7ANFDN-3	向日市上植野町池ノ尻他	(財)京都府埋文	7/29~
33	立会第96038次	7ANFMK	向日市上植野町南開40-8	(財)向日市埋文	5/8~6/30
34	中海道遺跡第37次	3NNANK-37	向日市物集女町中条2-1	(財)向日市埋文	4/1~4/18
35	中海道遺跡第38・39・40次	3NNANK-38・39・40	向日市物集女町中条23-5・23・中条地内	(財)向日市埋文	4/2~5/31
36	中海道遺跡第41次	3NNANK-41	向日市物集女町森ノ上15-1	(財)向日市埋文	5/27~5/30
37	山城国府跡第39次	7XYS'CM-3	大山崎町大山崎茶屋前17	大山崎町教委	4/9~4/26
38	山崎津跡第11次	7YYMS'KD-4	大山崎町大山崎鏡田4-5・6	大山崎町教委	4/22~5/7
39	長野丙古墳群第1次	PH1次*: 4PHANN	向日市物集女町長野19・20	(財)向日市埋文	6/14~
40	灰方古墳群		京都市西京区大原野灰方町394-1	(財)京都市埋文	6/3~6/7
41	北ノ口遺跡第2次	*ZK2 4ZKAKC-2	向日市物集女町北ノ口55-2	(財)向日市埋文	7/16~7/31

左京第384次(27)

(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター

調査地は、左京南一条三坊十三町・同二条三坊十六町で、今回は、東三坊大路の西側に面した南一条大路(新呼称では、二条条間大路)の路面と、その南と北の町の調査が行われた。

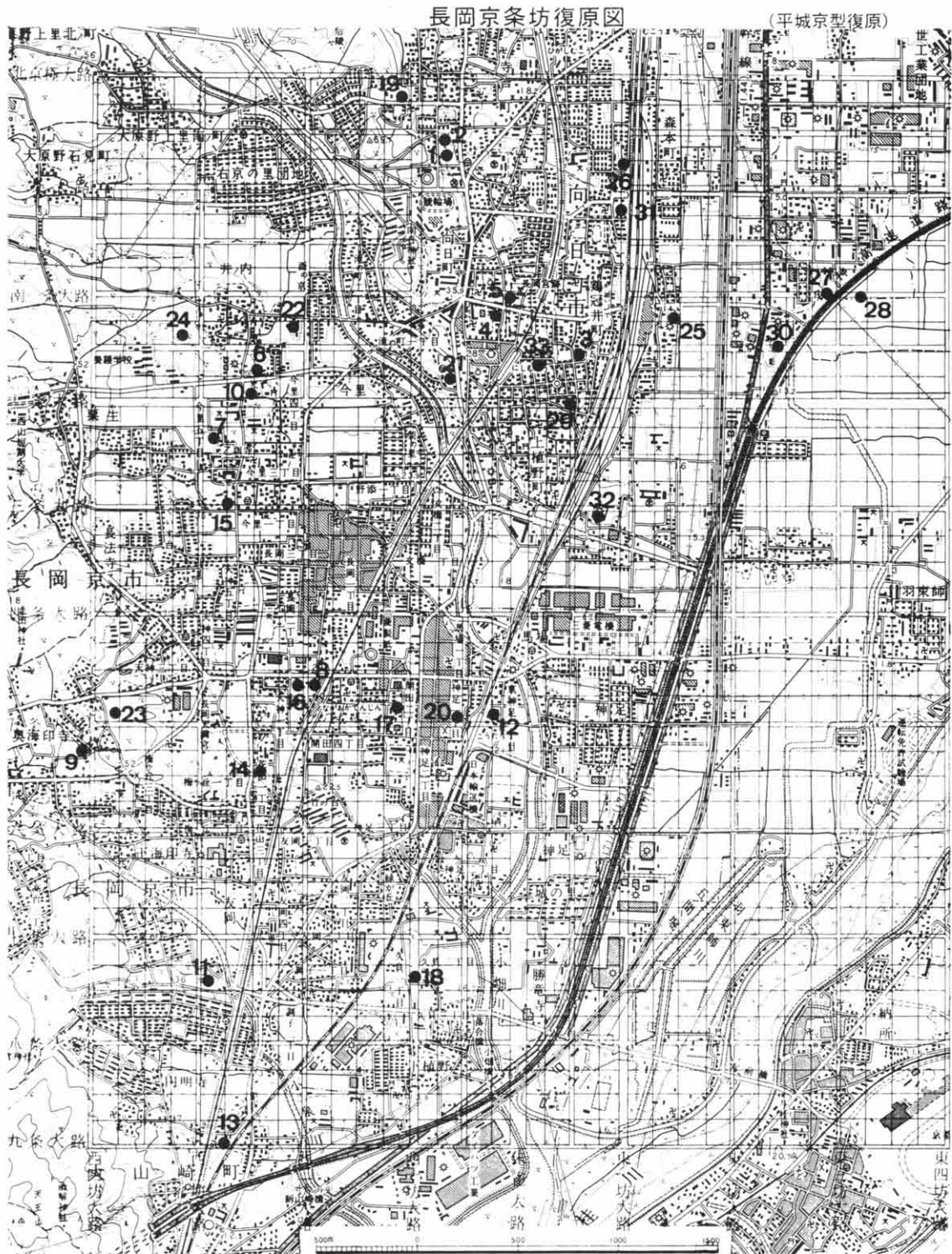
今回の調査地の全域にわたって、13~14世紀の素掘り溝が多数検出されており、掘削方向は、南北方向が多い。だが、西南隅では、東西方向のものも見つかっている。これらの溝の方向の違いは、条里型地割りの坪の違いを反映していると考えられる。

条坊関連遺構では、南一条大路の南北側溝と路面、東三坊大路西側溝と路面の一部が検出された。北側の十三町では、十三町の南辺溝と東辺溝、築地の地業、土坑、門跡と、そこから南北に通じる町内道路の側溝を検出している。特に、大路に面した門跡の検出により、次のことが考えられる。『延喜式』では、大路に門を開けるのは三位以上の貴族とされており、規定通りとすると、かなりの高官が住んでいたことになる。

また、十六町では、掘立柱建物跡、柵列、井戸などが検出された。建物跡の配置からみると、少なくとも1/2町以上の宅地割りがなされていたと考えられる。1/2町の宅地は、五位以上の貴族に班給されたとすれば、長岡京でも宮城東側の東三坊大路以西においては、高位高官が住む場所となっていたと思われる。

なお、その他の遺物の中には、完形で鍬が出土している。

(津村正樹)



▽番号は一覧表・本文()内と対応

調査地位置図

センターの動向 (96.5～7)

1. できごと
5. 1 新規採用職員辞令交付(別掲)
- 7 シミズ谷城(弥栄町)発掘調査開始
田辺城跡(田辺町)発掘調査開始
五領池東窯跡(木津町)発掘調査開始
- 8～9 全国埋蔵文化財法人連絡協議会
役員会(於：群馬県草津町)木村常務理事・事務局長、園山事務局次長、杉江主事出席
- 8 松ヶ崎遺跡(網野町)発掘調査開始
上原真人京都大学教授、奈具岡遺跡現地指導
- 15 堤圭三郎理事、内里八丁遺跡(八幡市)・田辺城跡(田辺町)現地視察
- 17 職員研修(於：当センター)講師：森下調査員「寺院・官衙遺跡について」
- 21 堤圭三郎理事、浦入遺跡(舞鶴市)現地視察
- 22 長岡京連絡協議会
- 23 黒部遺跡(弥栄町)発掘調査終了(4.22～)
長岡京跡右京第526次調査(長岡京市)発掘調査開始
- 28 全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック会議(於：大津市)木村常務理事・事務局長、園山事務局次長、安田課長補佐出席
- 28～29 堤圭三郎理事、奈具岡北古墳群・シミズ谷城跡(弥栄町)他現地視察
- 28 棕ノ木遺跡(精華町)発掘調査開始
6. 6～7 全国埋蔵文化財法人連絡協議会
総会(於：松山市)木村常務理事・事務局長、園山事務局次長、安田課長補佐出席
- 10 監事監査
天王山古墳群(久美浜町)発掘調査開始
- 12 信楽町文化財ボランティア教室(講師)土橋主任調査員「東アジアの中の日本」
- 13 全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロックOA委員会(於：京都市)土橋主任調査員出席
- 18～28 国際協力事業団(JICA)専門研修受け入れ
- 18 第47回役員会・理事会(於：ルビノ京都堀川)樋口隆康理事長、中澤圭二副理事長、木村英男常務理事、川上 貢、藤井 学、足利健亮、都出比呂志、井上満郎、藤田价浩、堤圭三郎、梅野 宏、武田 暹、中谷雅治の各理事、高橋義男監事出席
- 19 盛林寺裏山古墳(宮津市)発掘調査開始
- 20 木村常務理事・事務局長、内里八丁遺跡(八幡市)ほか現地視察
- 26 長岡京連絡協議会
- 28 上田正昭理事、篠マル山1号窯跡現地視察
職員研修：小田垣 勉京都府立八幡高等学校教頭「基本的人権と同和問題」(於：当センター)
7. 1 樋口隆康理事長、篠マル山1号窯跡現地視察
- 2 木村常務理事・事務局長、田辺城跡(田辺町)現地視察

- 盛林寺裏山古墳(宮津市)発掘調査終了(6.19～)
- 3 堤圭三郎理事、天王山古墳群現地視察
- 4 堤圭三郎理事、篠マル山1号窯跡現地視察
- 5 全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック主催者会議(於：八尾市)小山調査第1課長、水谷課長補佐出席
興戸古墳群(田辺町)発掘調査開始
- 8 井上満郎理事、堤圭三郎理事、田辺城跡現地視察
田辺城跡現地説明会
- 10 堤圭三郎理事奈具岡北古墳群(弥栄町)現地視察
奈具岡北古墳群現地説明会
- 11 加悦町木曜歴史教室(講師)伊野係長「中世の黒い茶碗と白い皿」
- 12 堤圭三郎理事、篠マル山1号窯跡現地視察
篠マル山1号窯跡現地説明会
長岡京跡右京第526次発掘調査終了(5.23～)
興戸古墳群(田辺町)発掘調査終了(7.5～)
- 13～14 京都府埋蔵文化財研究会(於：宮津市)発表者：増田主任調査員「奈具岡北1号墳の調査」
- 15 職員研修：伊野係長「概報の執筆について」(於：当センター)
- 17 奈具岡北古墳群・奈具遺跡発掘調査終了(4.11～)
- 23～24 木村常務理事・事務局長、天王山古墳群ほか現地視察
- 24 長岡京連絡協議会
- 25 井上満郎理事、長岡京跡左京第384次調査(京都市東土川町)現地視察
文化財保護関係機関四者連絡会(於：ルビノ京都堀川)
- 26 長岡京跡左京第384次調査現地説明会
長岡京跡左京第389次発掘調査開始
- 28 大宮町歴史講座(講師)増田主任調査員「丹後の製鉄遺跡について」
2. 普及啓発事業
- 6.30 第76回埋蔵文化財セミナー開催(於：綾部市中央公民館)―古墳時代北・南―河野一隆「弥栄町・奈具岡北古墳群の発掘調査について」、橋本 稔「木津町・弓田遺跡の発掘調査について」、三好博喜「綾部市・大宮3号墳の発掘調査について」
3. 人事異動
- 5.1 西林紀子主事採用
(安藤信策)

受贈図書一覧 (8. 5～7)

青森県埋蔵文化財調査センター	青森県埋蔵文化財調査報告書第157集 三内丸山(2)遺跡Ⅱ、同第171集 山元(2)遺跡発掘調査報告書、同第173集 水木館遺跡発掘調査報告書、同第177集 上蛇沢(2)遺跡発掘調査報告書、同第185集 三内丸山(2)遺跡Ⅳ、同第189集 白砂遺跡発掘調査報告書、同第190集 泉山遺跡発掘調査報告書Ⅲ(第4分冊)、同第195集 上田遺跡発掘調査報告書、同第197集 西張(3)遺跡発掘調査報告書、同第198集 上蛇沢(1)遺跡発掘調査報告書、同第199集 大平(5)遺跡・草薙(1)・湯ヶ森(2)遺跡
水沢市埋蔵文化財調査センター	水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第5集 龍ヶ馬場Ⅱ遺跡、同第6集 雷神Ⅰ遺跡、同第7集 杉の堂遺跡、胆沢城跡 平成7年度発掘調査概報、水沢市文化財報告書第30集 水沢遺跡群範囲確認調査
多賀城市埋蔵文化財調査センター	多賀城市文化財調査報告書第41集 市川橋遺跡、多賀城市埋蔵文化財調査センター年報 平成6年度
(財)山形県埋蔵文化財センター	年報 平成7年度、山形県埋蔵文化財センター調査報告書第30集 富沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書、同第31集 北目長田遺跡・櫛待遺跡第2次発掘調査報告書、同第32集 宮ノ下遺跡発掘調査報告書、同第33集 西谷地遺跡第3次発掘調査報告書、同第34集 向田遺跡発掘調査報告書、同第35集 渡戸遺跡発掘調査報告書、同第36集 落合遺跡発掘調査報告書、同第37集 上荒谷遺跡発掘調査報告書、同第38集 下柳A遺跡発掘調査報告書
(財)いわき市教育文化事業団	根岸遺跡 平成7年度範囲確認発掘調査概報、いわき市埋蔵文化財調査報告書第42冊 番匠地遺跡、同第43冊 原田窯跡・原田C遺跡
(財)茨城県教育財団	茨城県教育財団文化財調査報告第100集 梶内遺跡、同第101集 東山遺跡、同第102集 中台遺跡、同第103集 差洪遺跡、同第104集 小坂宮方遺跡、同第105集 山崎遺跡、同第106集 馬場遺跡・行人田遺跡、同第107集 甚五郎遺跡・下高井向原Ⅰ遺跡・下高井向原Ⅱ遺跡、同第108集 上入野遺跡・青木遺跡・後側遺跡・前側遺跡、同第109集 木崎城跡、同第110集 下村田遺跡、同第111集 右初貝塚東遺跡・内路地台遺跡・念代遺跡・平坪遺跡、同第112集 原遺跡・沼崎遺跡、年報15 平成7年度、研究ノート5号 平成7年度
(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査事務所	(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第12集 武田Ⅹ
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団年報14、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第183集 行力春名社遺跡、同第193集 荒砥上ノ坊遺跡Ⅰ、同第195集 東上秋間遺跡群、同第196集 南蛇井増光寺遺跡、同第197集 矢田遺跡Ⅵ、同第198集 大八木屋敷遺跡
(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	研究紀要 第12号、埼玉県埋蔵文化財調査事業団年報16、埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第163集 横田遺跡、同第164集 丸山／青梅道南／十文字原／東武蔵野／西武蔵野、同第165集 八木上／八木／八木前／上広瀬北／森坂北／森坂、同第166集 坂東山／坂東山西／後B、同第167集 山王裏遺跡、同第168集 堂山公園／久台、同第169集 菅原遺跡、同第170集 広木上宿遺跡、同第171集 栗屋／屋淵／中台、同第172集 宮ヶ谷戸／根岸／八日市／城西、同第173集 今羽丸山遺跡、同第174集 深谷城跡、同第175集 新屋敷遺跡C区、同第176集 中里前原北遺跡、同第177集 今井川越田遺跡
埼玉県立埋蔵文化財センター	埼玉県立埋蔵文化財センター 年報5
(財)東総文化財センター	(財)東総文化財センター発掘調査報告書第2集 小高遺跡、同第7集 生尾遺跡、同第8集 矢摺泥炭遺跡Ⅰ、同第9集 矢摺泥炭遺跡Ⅱ、同第11集 発掘1996 寺方遺跡
(財)君津都市文化財センター	(財)君津都市文化財センター発掘調査報告書第102集 台木A遺跡、同第108集 山ノ下製鉄遺跡、同第112集 常代遺跡群、同第117集 郡遺跡群発掘調査

	報告書
(財)千葉県文化財センター	研究連絡誌第45、46号、千葉県文化財センター調査報告第290集 真名城跡測量調査報告、同第291集 市原市西野遺跡第1次発掘調査報告書、同第292集 佐原市鶴崎貝塚発掘調査報告書、同第293集 市原市釈迦山古墳発掘調査報告書
(財)印旛郡市文化財センター	(財)印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第92集 小菅法華塚Ⅰ・Ⅱ遺跡、同第96集 曾谷窪遺跡発掘調査報告書、同第99集 吉見稲荷山遺跡、同第100集 墨木戸、同第110集 上岩橋岩崎遺跡、同第111集 八木宇廣遺跡発掘調査報告書、同第117集 神門房下遺跡、同第119集 城次郎丸遺跡、同第120集 間野台貝塚、同第123集 鐘塚No. 2 遺跡
(財)香取郡市文化財センター	(財)香取郡市文化財センター調査報告書第33集 猫作・栗山16号墳、同第34集 大六天遺跡、同第38集 月輪神社遺跡、同第39集 高岡清水遺跡、同第40集 伊地山石塔前Ⅱ遺跡、同第42集 桜田野馬土手跡
(財)東京都教育文化財団 東京都埋蔵文化財センター	東京都埋蔵文化財センター調査報告第22集 多摩ニュータウン遺跡 先行調査3、同第23集 多摩ニュータウン遺跡、同第24集 多摩ニュータウン遺跡、同第25集 多摩ニュータウン遺跡、同第26集 多摩ニュータウン遺跡、同第27集 多摩ニュータウン遺跡、同第28集 多摩ニュータウン遺跡、同第29集 府中市No. 29遺跡、尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査概要Ⅳ、汐留遺跡、尾張藩上屋敷跡遺跡Ⅰ
(財)かながわ考古学財団 山梨県埋蔵文化財センター	かながわ考古学財団調査報告 6 吉岡遺跡群Ⅰ、同 7 吉岡遺跡群、同 8 宮ヶ瀬遺跡群Ⅵ、年報 2 平成 6 年度、神奈川県立埋蔵文化財センター年報14 研究紀要12、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第84集 甲府城跡Ⅲ、同第112集 村前東A遺跡概報 3、同第113集 十五所遺跡Ⅱ
(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	新潟県埋蔵文化財調査報告書第68集 大坂上道遺跡・猿額遺跡・中棚遺跡・牧ノ沢遺跡、同第71集 吉ヶ沢遺跡A地点・上ノ平遺跡B地点・中峰遺跡、同第72集 清水上遺跡Ⅱ、同第74集 横引遺跡・籠峰遺跡・柳平遺跡、新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成 7 年度
(社)石川県埋蔵文化財保存協会 各務原市埋蔵文化財調査センター	第39回 埋蔵文化財研究集会 古代の木製食器 各務原市文化財調査報告書第15号 宮塚遺跡A地区発掘調査報告書、同第16号 鶴沼古市場遺跡A地区発掘調査報告書、同第18号 野口廃寺B地区発掘調査報告
(財)愛知県埋蔵文化財センター	年報 平成 7 年度、愛知県埋蔵文化財情報11
(財)瀬戸市埋蔵文化財センター	平成 7 年度 瀬戸市埋蔵文化財センター年報、(財)瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第 4 輯
(財)滋賀県文化財保護協会	平成 7 年度調査埋蔵文化財展 レトロ・レトロの展覧会1996
(財)大阪府文化財調査研究センター	大阪府下埋蔵文化財研究会(第34回)資料
(財)大阪市文化財協会	長原遺跡発掘調査報告Ⅵ、長原・瓜破遺跡発掘調査報告Ⅷ、四天王寺旧境内遺跡発掘調査報告Ⅰ、難波宮址の研究 第十
(財)八尾市文化財調査研究会	平成 7 年度 (財)八尾市文化財調査研究会事業報告、東郷遺跡 (財)八尾市文化財調査研究会報告48、中田遺跡 同49、木の本遺跡・久宝寺遺跡・小阪合遺跡・志紀遺跡・東弓削遺跡・美園遺跡・八尾南遺跡 同50、成法寺遺跡 同51
(財)枚方市文化財研究調査会	枚方市文化財年報16、17
(財)東大阪市文化財協会	若江遺跡第38次発掘調査報告、宮ノ下遺跡第1次発掘調査報告書、西ノ辻遺跡第9次発掘調査報告、西ノ辻遺跡第22次発掘調査報告書、西ノ辻遺跡第27次・鬼虎川遺跡第32次発掘調査報告書、東大阪下水道事業関係発掘調査概要報告 1993年度、鬼虎川遺跡第26次・西ノ辻遺跡第18～20次調査概要報告
高槻市立埋蔵文化財センター 奈良市埋蔵文化財調査センター	高槻市文化財年報 平成 6 年度、高槻市文化財調査概要 X X Ⅱ 嶋上遺跡群20
倉敷埋蔵文化財センター	奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成 7 年度、奈良市埋蔵文化財調査センター紀要 1995、平城京東市跡推定地の調査 X Ⅳ 倉敷埋蔵文化財センター年報 2、倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告第 5 集 茂

(財)東広島市教育文化振興事業団文化財センター	浦古墳群 文化財センター調査報告書第5冊 今田遺跡発掘調査報告書、同第7冊 西東子遺跡発掘調査報告書
(財)香川県埋蔵文化財調査センター	池戸郵便局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報、国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成7年度、歴史博物館建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成7年度、高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成7年度、空港跡地遺跡発掘調査概報 平成7年度、高松港頭土地区画整理事業埋蔵文化財発掘調査概報 平成7年度、県道関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成7年度、陸上競技場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報、弘田川改修に伴う埋蔵文化財発掘調査概報、財団法人 香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅳ
(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	埋蔵文化財発掘調査報告書第59集 四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書XⅠ、同第60集 若草遺跡Ⅱ、同第63集 糸大谷遺跡
小樽市教育委員会	蘭島餅屋沢2遺跡 小樽市埋蔵文化財調査報告書第12号、忍路神社遺跡 同第13号、ほっけ潤3遺跡 同第14号、文庫歌遺跡 平成7年度小樽市埋蔵文化財調査概報
平取町教育委員会	平取町文化財調査報告書Ⅲ カンカン2遺跡、同Ⅳ 旧平取小学校植物園遺跡、平取町オバウシナイ1遺跡
仙台市教育委員会	仙台市文化財調査報告書第136集 下ノ内遺跡、同第181集 北原街道B遺跡、同第185集 今泉遺跡、同第196集 南小泉遺跡、同第199集 六反田遺跡、同第210集 郡山遺跡XⅥ、同第211集 仙台平野の遺跡群XⅤ
山形県教育委員会	山形県埋蔵文化財調査報告書第194集 分布調査報告書(21)、同第195集 分布調査報告書(22)、同第196集 上谷地C遺跡発掘調査報告書、同第197集 分布調査報告書(23)
入間市教育委員会	入間市遺跡調査会埋蔵文化財調査報告第17集 水窪遺跡第2次調査、同第18集 久保遺跡第3次調査
坂戸市教育委員会	中世のさかど
木更津市教育委員会	高砂遺跡・野焼B遺跡、西ノ入3号墳・4号墳、大畑台遺跡、塚原24号墳
東京都教育庁	大里東遺跡
府中市教育委員会	府中市埋蔵文化財調査報告第17集 武蔵国府関連遺跡調査報告17
小平市教育委員会	小平市埋蔵文化財発掘調査報告書第21集 鈴木遺跡、同第22集 平成5年度市内遺跡発掘調査報告書、同第23集 鈴木遺跡緊急発掘調査報告書、同第24集 平成6年度 市内遺跡発掘調査報告書、同第25集 平成7年度 市内遺跡発掘調査報告書
海老名市教育委員会	海老名の庚申塔、海老名市埋蔵文化財年報1
佐久市教育委員会	白岩城跡(里古城)、佐久市埋蔵文化財年報4、佐久市埋蔵文化財調査報告書第42集 中条峯遺跡・寄山遺跡群、同第43集 権現平遺跡・池端遺跡調査報告書、同第44集 寺添遺跡発掘調査報告書、同第45集 市内遺跡発掘調査報告書1994、同第46集 濁り遺跡、同第47集 上芝宮遺跡Ⅴ
茅野市教育委員会	中原遺跡、珍部坂A・B遺跡、城遺跡、水尻遺跡、上ノ段遺跡、神垣外遺跡、鴨田遺跡、尖石遺跡1992、尖石遺跡1993、中ッ原遺跡、滝之脇遺跡、稗田頭A遺跡1993、夕立遺跡、中ッ原A遺跡、中ッ原B遺跡、天狗山遺跡、阿弥陀堂遺跡、干沢城下町遺跡、阿久尻遺跡、立石遺跡、稗田頭B遺跡、稗田頭C遺跡、矢倉田遺跡、中ッルネ遺跡、新井下遺跡1994、阿弥陀堂遺跡Ⅴ、勝山遺跡、与助尾根南遺跡、尖石遺跡1994、家下遺跡、新井下遺跡1995、大悦遺跡、上の平遺跡(米沢地区)、上の平遺跡(古田地区)、広井出遺跡、稗田頭A遺跡1995、菖蒲沢A遺跡、特別史跡 尖石遺跡
水見市教育委員会	水見市埋蔵文化財分布調査報告Ⅲ 水見市埋蔵文化財調査報告書第20冊
金沢市教育委員会	金沢市文化財紀要119 金沢市西念・南新保遺跡Ⅳ、同123 柚木城と三ノ坂道、同124 金沢市河原市館跡、同125 金石本町遺跡Ⅰ、同126 金石本町遺跡Ⅱ、同127 金石本町遺跡Ⅲ、同128 金沢市近岡テラダ遺跡、同129 平成7年度金

野々市町教育委員会 福井県教育庁埋蔵文化財調 査センター	沢市埋蔵文化財調査年報 高橋セボネ遺跡 北陸自動車道関係遺跡調査報告書第13集、福井県埋蔵文化財調査報告第11集 六条・和田地区遺跡群、同第21集 曾々木谷田遺跡、同第23集 鎌坂遺跡、同 第24集 光源寺遺跡、同第25集 舟場窯跡、同第26集 八田新保1号窯跡、同 第27集 南江守大槓遺跡、同第28集 尾永見遺跡・下田遺跡・縄境遺跡・犬山 遺跡、同第29集 長泉寺遺跡、同第30集 大土呂遺跡、福井県教育庁埋蔵文化 財調査センター年報9 平成5年度
武生市教育委員会	武生市埋蔵文化財調査報告18 岡本山古墳群他遺跡詳細分布調査報告書、同 19 深草廃寺
大垣市教育委員会	大垣市文化財調査報告書第27集 大垣市埋蔵文化財調査概要、同第28集 昼飯 大塚古墳範囲確認調査概要 I
垂井町教育委員会 袋井市教育委員会	美濃国府跡発掘調査報告 I 久野城 平成6・7年度発掘調査概報、袋井市考古資料集第2集 金山古墳 群・金山横穴群 I・II、高尾向山遺跡 II
浜岡町教育委員会 上野市教育委員会	浜岡町埋蔵文化財調査報告書第4集 中尾殿之谷横穴群 上野市文化財調査報告26 昭和63年度(第1次)森脇遺跡発掘調査報告、同56 西明寺遺跡発掘調査報告(6次)、同57 小芝遺跡発掘調査報告(3次)、同58 森田遺跡発掘調査報告、上野市埋蔵文化財年報2
鈴鹿市教育委員会 松阪市教育委員会 大津市教育委員会 草津市教育委員会 長浜市教育委員会 八日市市教育委員会 山東町教育委員会 信楽町教育委員会 竜王町教育委員会 大阪市教育委員会 柏原市教育委員会	伊勢国分寺・国府跡3、鈴鹿市埋蔵文化財調査年報 III 黒角遺跡・口南戸遺跡発掘調査報告書 大津の文化財、大津市埋蔵文化財調査報告書(27) 大津市遺跡分布地図 草津市文化財調査報告書27 草津川改修関連遺跡発掘調査概要報告書(X) 長浜市埋蔵文化財調査資料第13集 金剛寺遺跡調査報告書 八日市市文化財調査報告(17) 建部下野遺跡発掘調査報告書 山東町埋蔵文化財調査報告書X 大原氏館跡(第3次)・観音寺遺跡 信楽町文化財報告書第8集 紫香楽宮関連遺跡発掘調査報告 竜王町内遺跡詳細分布調査報告書 平成6年度 大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書 柏原市埋蔵文化財発掘調査概報 1995年度、高井田山古墳、平野・大県古墳 群、柏原市遺跡群発掘調査概報 1995年度、大県の鉄 発掘調査15年
高石市教育委員会 八尾市教育委員会	高石市文化財調査概要 1995-1 八尾市文化財調査報告33 八尾市内遺跡平成7年度発掘調査報告 I、同34 八 尾市内遺跡平成7年度発掘調査報告 II、同35 心合寺山古墳基礎発掘調査報 告書
大阪狭山市教育委員会	さやま誌 大阪狭山市文化財紀要第2号、大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要 報告書6
河内長野市教育委員会 藤井寺市教育委員会	河内長野市文化財調査報告第27輯 河内長野市埋蔵文化財調査報告書X II 石川流域遺跡群発掘調査報告X I 藤井寺市文化財報告第14集、倭の五王の 時代
羽曳野市教育委員会	古市遺跡群X VII 羽曳野市埋蔵文化財調査報告書33、第13回歴史資料室テ ーマ展示 高屋城とその周辺
枚方市教育委員会	枚方市文化財調査報告第30集 枚方市埋蔵文化財発掘調査概要1995、平成5 年度市民歴史講座 須恵器でみる古代の日本
熊取町教育委員会	熊取町埋蔵文化財報告第24集 東円寺跡発掘調査概要IX、同第25集 中家住宅 発掘調査概要報告書II、同第26集 熊取町遺跡群発掘調査概要報告書X
三田市教育委員会	三田文化財情報 平成7年度合冊号、三田市文化財調査報告第9集 東家地古 墳・茗荷谷古墳群第3号墳
龍野市教育委員会 加東郡教育委員会 新宮町教育委員会 八鹿町教育委員会	龍野市文化財調査報告16 新宮東山古墳群 上中・溝ノ内遺跡 新宮町文化財調査報告23 新宮町の石造遺物 中世編、まんが ⁶ 大上宇市 青谿書院ルネサンス 八鹿町ふるさとシリーズ第7集、歴史講演・八鹿を探

大和郡山市教育委員会

田原本町教育委員会

北条町教育委員会

岡山県教育委員会

岡山市教育委員会

広島県教育委員会文化課

中世遺跡調査班

東城町教育委員会

下関市教育委員会

美東町教育委員会

香川県教育委員会事務局

歴史博物館建設準備室

福岡県教育委員会

太宰府市教育委員会

粕屋町教育委員会

志免町教育委員会

北野町教育委員会

那珂川町教育委員会

唐津市教育委員会

犬飼町教育委員会

串間市教育委員会

鹿児島市教育委員会

岩手県立博物館

北上市立博物館

(社)日本金属学会附属金属

博物館

る 同第8集、八鹿町文化財調査報告書第12集 八鹿町の埋蔵文化財包蔵地
大和郡山市文化財調査概要34 額田寺関連文化財調査報告1、同35 内山瓦窯
第4次発掘調査概報、額田部の歴史と文化、第1回こおりやま歴史フォーラム
講演資料、豊臣秀長

弥生の風景 唐古・鍵遺跡の発掘調査60年

北条町埋蔵文化財報告書19 町内遺跡発掘調査報告書第5集、同20 曲遺跡発
掘調査報告書1

岡山県埋蔵文化財報告26

岡山市埋蔵文化財調査の概要 1994年度

中世城館遺跡保存整備事業発掘調査報告6 史跡吉川氏城館跡

鶴亀山古墳群、鬼橋野路古墳発掘調査報告書

下関市埋蔵文化財調査報告書56 延行条里遺跡

解説 長登銅山跡

香川県歴史博物館(仮称)新収蔵資料展

九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告38 井上薬師堂遺跡、同39 中道遺
跡・石成久保遺跡・大環端遺跡、同40 外之隈遺跡Ⅱ、同41 大谷遺跡・柿原
遺跡群Ⅵ、同42 天園遺跡・夕月遺跡・上池田遺跡、椎田道路関係埋蔵文化
財調査報告第6集 居屋敷遺跡、同第7集 徳永川ノ上遺跡、同第8集 中村
石丸遺跡、豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告第3集 池ノ口遺跡、同第
4集 金居塚遺跡、同第5集 上唐原遺跡Ⅱ、鞍手町文化財調査報告書第12集
新延貝塚、福岡県文化財調査報告書第122集 新延貝塚、同第123集 龍頭遺跡、
同第124集 久富斗代遺跡、同第125集 町口遺跡・西森田遺跡、同第126集 浦
ノ田A・B遺跡、大宰府史跡 平成7年度発掘調査概報、豊前岩戸神楽、椎
田町文化財調査報告書第6集 小原谷Ⅱ、新吉富村文化財調査報告書第9集
照日遺跡群、方城町文化財調査報告書第3集 法華屋敷遺跡・伊方小学校遺
跡、須恵町文化財調査報告書第7集 乙植木山城戸遺跡、三潞町文化財調査
報告書第3集 中原遺跡、朝倉町文化財調査報告書第5集 大庭宇土ノ上遺跡、
杷木町文化財調査報告書第2集 穂坂天神原遺跡、同第3集 二十谷遺跡第2
地点・小覚原遺跡第2地点

大宰府の文化財第30集 大宰府条坊跡Ⅷ、同第33集 太宰府・佐野地区遺跡群
Ⅵ、太宰府文化財名選 観世音寺のほとけたち、CD「大宰府」

粕屋町文化財調査報告書第10集 阿恵天神森遺跡

松ヶ上遺跡 志免町文化財調査報告書第6集

今寺遺跡 北野町文化財調査報告書第3集、赤司一區公民館遺跡 同第4集、
良積遺跡Ⅰ 同第5集

中原塔ノ元遺跡Ⅱ 那珂川町文化財調査報告書第37集、仲遺跡Ⅱ 同第38集

唐津市文化財調査報告書第65集 梨川内村前遺跡2、同第66集 雲透遺跡1、
同第67集 枝去木山中遺跡Ⅱ、同第68集 徳蔵谷遺跡3、同第69集 唐津市内
遺跡確認調査11、同第70集 唐津城跡Ⅲ、同第71集 竹木場前田遺跡2、同第
72集 唐ノ川高峰遺跡3、同第73集 菜畑内田遺跡

下津尾遺跡

串間市文化財調査報告書第14集 姥ノ上遺跡・万多城遺跡

鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書20 東迫遺跡、同21 北麓遺跡

岩手県立博物館収蔵資料目録第11集 考古Ⅲ、岩手県立博物館調査研究報告
書第11冊 縄文発信、岩手県立博物館研究報告第13号、岩手県立博物館第42
回企画展 野牛とその時代

北上川流域の自然と文化シリーズ17 和賀一族の興亡 後編

金属博物館紀要 第25号

東北歴史資料館 秋田県立博物館	東北歴史資料館 研究紀要第15巻、高森遺跡Ⅲ 秋田県立博物館 20年のあゆみ、秋田県立博物館企画展 絵図をよむ、秋田県立博物館研究報告 第21号、秋田県立博物館館報 平成7年度、秋田の先覚記念室図録、菅江真澄資料センター図録 寿行地古墳発掘調査報告書、中新台遺跡発掘調査報告書、東山団地遺跡
上高津貝塚ふるさと歴史の 広場	
玉里村立史料館 栃木県立博物館	玉里村立史料館報 第1号 栃木県立博物館研究紀要第13号、栃木県立博物館調査研究報告書 空から見た栃木の遺跡
栃木県立なす風土記の丘資 料館	栃木県立なす風土記の丘資料館年報 第3号
国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館研究報告 第65集、国立歴史民俗博物館資料調査報告書 7 農耕開始期の石器組成1・2
千葉県立中央博物館 市立市川考古博物館 (財)五島美術館 出光美術館 国立西洋美術館 大田区立郷土博物館	千葉県立中央博物館研究報告 第4巻第2号 平成6年度 市立市川考古博物館年報 第23号、下総国分寺 遠州の観た茶人、小堀遠州の茶会 出光美術館 館報第94号 上野忍ヶ岡遺跡 江戸幕府の代官、大田区立郷土博物館紀要 第6号、馬込文士村ガイドブック 改訂版
調布市郷土博物館 茅ヶ崎市文化資料館 平塚市博物館 長坂町郷土資料館 長野県立歴史館 松本市立考古博物館	ともしびと人々の暮らし 文化資料館調査研究報告4 平塚市博物館年報 第19号、平塚市博物館研究報告 自然と文化 第19号 長坂町埋蔵文化財発掘調査報告第9集 三井氏館跡(北村遺跡)概報 長野県立歴史館研究紀要第2号 松本市文化財調査報告No.122 松本城下町跡伊勢町、同No.123 松本市小原遺跡Ⅲ、同No.125 松本城下町跡伊勢町
長岡市立科学博物館 富山市考古資料館 氷見市立博物館	長岡市立科学博物館研究報告第31号 富山市考古資料館紀要 第15号 氷見市立博物館年報 第13、14号、氷見市近世史料集成第18冊 陸田家文書 その3
石川県立歴史博物館 岐阜県博物館 静岡市立登呂博物館 沼津市歴史民俗資料館 名古屋博物館	加賀藩の甲冑 岐阜県博物館報 第19号、岐阜県博物館調査研究報告 第17号 特別展 登呂の時代シリーズ 樹のある暮らし 沼津市博物館紀要20 名古屋博物館研究紀要 第19巻、名古屋博物館調査研究報告Ⅲ 明治期勤業博覧会に関する調査報告、明治期博覧会出品七宝工総覧
半田市立博物館 斎宮歴史博物館 滋賀県立安土城考古博物館 高島町歴史民俗資料館 大阪府立弥生文化博物館	半田市立博物館年報 平成7年度 企画展 斎王と平安歌人たち 春季特別展 墓と弥生時代、第11回企画展 滋賀・高島郡展 湖西の歴史と風土 高島町文化財資料集17 町内遺跡Ⅲ、同18 大溝城周辺遺跡 平成8年度春季特別展 卑弥呼の動物ランド、大阪府立弥生文化博物館資料集5 青銅と鉄
吹田市立博物館	吹田市五反鳥遺跡発掘調査報告書 自然科学編、平成7年度 埋蔵文化財緊急発掘調査概報 垂水遺跡・垂水南遺跡
茨木市立文化財資料館 八尾市立歴史民俗資料館 西宮市立郷土資料館 奈良国立博物館 橿原市千塚資料館 奈良国立文化財研究所 飛鳥資料館	平成7年度 発掘調査概報 八尾市立歴史民俗資料館報平成5・6年度、研究紀要 第7号 西宮市立郷土資料館報 平成7年度 東アジアの仏たち かしはらの歴史をさぐる 平成7年度埋蔵文化財発掘調査速報展 飛鳥資料館案内 韓国語版

広島県立歴史民俗資料館	平成8年度考古企画展 古代の炎と器
新市町立歴史民俗資料館	新市町文化財調査報告第5集 四五迫城跡、ふるさと 広島県新市町史跡案内
山口県立山口博物館	山口県立山口博物館研究報告 第22号、館報 19
下関市立考古博物館	下関市立考古博物館年報1
藤山歴史資料館	妙見山古墳群1号墳整備概報1995~1996
芦屋町歴史民俗資料館	金屋遺跡 芦屋町文化財調査報告書第7集、旧芦屋小学校跡遺跡 同第8集、芦屋釜の図録
佐賀県立九州陶磁文化館	佐賀県立九州陶磁文化館年報 平成6年度No.14
ミュージアム知覧	ミュージアム知覧紀要 第2号、お茶の王国へ、ミュージアム知覧収蔵品図版Ⅱ 民俗編、中国水墨画展 周覚鈞の世界
国立全州博物館	特別展 海と祭祀
筑波大学歴史・人類学系	歴史人類 第24号
國學院大學文学部考古学研究室	國學院大學文学部考古学実習報告第27集 物見処遺跡1995、同第28集 柳又遺跡A地点第5次発掘調査報告書、同第29集 柳又遺跡A地点第6次発掘調査報告書
國學院大學考古学資料館	國學院大學考古学資料館紀要 第12輯
白山史学会	東洋大学文学部紀要 第49集、白山史学 第32号
早稲田大学考古学会	古代 第101号
早稲田大学図書館	古代 第101号
早稲田大学文化財整理室	東伏見総合グラウンド遺跡B地区調査報告書、安部球場跡地埋蔵文化財調査報告書
東京大学大学院人文社会系研究科・文学部考古学研究室	ライトコロ右岸遺跡、東京大学文学部考古学研究室研究紀要 第14号
東海大学校地内遺跡調査団	東海大学校地内遺跡調査団報告 6
名古屋大学文学部考古学研究室	名古屋大学文学部研究論集125 史学42、考古資料ソフテックス写真集第11集
愛知大学文学部史学科	愛大史学 日本史・アジア史・地理学 第5号
滋賀県立大学人間文化学部	人間文化0号
大阪大学文学部考古学研究室	井ノ内稲荷塚古墳
島根大学埋蔵文化財調査研究センター	島根大学構内遺跡発掘調査概報Ⅱ
岡山大学文学部考古学研究室	恩原2遺跡
広島大学文学部考古学研究室	広島大学文学部 帝釈峡遺跡群発掘調査室年報Ⅸ、Ⅹ
愛媛大学考古学研究室	江口貝塚Ⅲ 愛媛大学法文学部考古学研究报告第4冊、萩ノ岡貝塚、妙見山古墳群第1号墳整備概報 1995~1996
福岡大学人文学部考古学研究室	五郎山古墳 筑紫野市文化財報告書第46集
熊本大学埋蔵文化財調査室	熊本大学埋蔵文化財調査室年報2 1995年度
大宮市遺跡調査会	大宮市遺跡調査会報告第54集 B-17号遺跡、同第55集 B-22号遺跡、同第56集 三崎台遺跡、同第57集 御蔵山中遺跡、大宮市文化財調査報告第40集 市内遺跡発掘調査報告、同第41集 市内遺跡発掘調査報告 金谷遺跡
芝山町史編さん事務局	芝山町史 通史編 上
国立国会図書館	日本全国書誌 第17号(通号2071号)
雄山閣出版(株)	考古学による日本歴史16 自然環境と文化
(株)明電舎	水晶デバイス 第18巻第1号
(株)講談社	歴史発掘⑫ 木簡は語る
(株)名著出版	歴史手帖 第24巻6~8号
至文堂	日本の美術 第358、360、361号
都立学校遺跡調査会	富士見台Ⅰ、岡本前耕地、烏山遺跡
国分寺市遺跡調査会	国分寺市文化財調査報告第39集 武蔵国分尼寺跡Ⅰ、同第42集 武蔵国分尼寺

葛飾区遺跡調査会	跡Ⅱ、恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅶ、武蔵国分寺跡発掘調査概報ⅩⅩⅠ
汐留地区遺跡調査会	葛飾区遺跡調査会調査報告第34集 本郷遺跡Ⅴ、同第36集 柴又帝釈天遺跡Ⅶ 汐留遺跡
板橋区遺跡調査会	前野田向遺跡第2地点発掘調査報告書
落川・一の宮遺跡(日野 3・2・7号線)調査会	落川・一の宮遺跡調査略報Ⅳ
吉祥寺南町1丁目遺跡調査 会	御殿山遺跡、井の頭池遺跡群C地点、吉祥寺南町1丁目遺跡G地点調査報告、 吉祥寺南町1丁目遺跡E地点
佛教考古学研究会	佛教考古学基礎資料叢刊第一輯 石田茂作先生略歴并著作目録
日本考古学協会	日本考古学 第2号、日本考古学年報47
重点「人文科学とコンピ ュータ」事務局	重点領域「人文科学とコンピュータ」1995年度研究成果報告書、シンポジ ウム「人文科学における数量的分析」、「人文科学とコンピュータ」デー タベース、重点領域「人文科学とコンピュータ」テキスト処理 研究成果報告書
玉川文化財研究所	向原土地地区画整理事業地区遺跡発掘調査報告書、女坂遺跡発掘調査報告書、 二伝寺砦遺跡発掘調査報告書、上吉沢向田遺跡発掘調査報告書
(財)栗東町文化体育振興事 業団	栗東町埋蔵文化財調査 1993・1994年度 年報Ⅱ
(財)古代学協会	古代文化 第48巻第5～7号、古代学研究所研究紀要 第5輯
羽曳野市遺跡調査会	野々上Ⅰ
NHK大阪放送局	黄金と侘び「秀吉展」
六甲山麓遺跡調査会	服部遺跡 第5次調査
奈良国立文化財研究所	飛鳥・藤原宮発掘調査概報26
シルクロード学研究センター 博物館等建設推進九州会議	シルクロード学研究センター研究紀要「宇宙考古学研究」 文明のクロスロード Museum Kyushu 通巻53号
(財)京都市埋蔵文化財研究所	平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要、研究紀要 第2号
京都市埋蔵文化財調査セン ター	京都市内遺跡試掘調査概報 平成7年度、京都市内遺跡立会調査概報 平成7 年度、京都市内遺跡発掘調査概報 平成7年度、京都市遺跡地図 台帳
(財)向日市埋蔵文化財セン ター	向日市埋蔵文化財調査報告書 第43集、平成6年度 (財)向日市埋蔵文化財セ ンター年報 都城7
(財)長岡京市埋蔵文化財セ ンター	長岡京市埋蔵文化財センター年報 平成6年度
京都府教育委員会	京都の文化財 第13集、京都府指定・登録文化財等目録、埋蔵文化財発掘調 査概報 1996
網野町教育委員会	網野町誌 下巻
大宮町教育委員会	大宮町文化財調査報告第8集 シンボガイ・奥大野遺跡発掘調査概報
宮津市教育委員会	宮津市史 史料編 第一巻
福知山市教育委員会	福知山市文化財報告書第31集 平成7年度埋蔵文化財発掘調査概報、同第32集
京北町教育委員会	上中太田遺跡発掘調査概報 京北町埋蔵文化財発掘調査報告書第6集
長岡京市教育委員会	長岡京市文化財調査報告書第34冊 井ノ内稲荷塚古墳、同第35冊 走田古墳 群・海印寺跡・長岡京跡
宇治市教育委員会	宇治市埋蔵文化財発掘調査概報第31集 若林遺跡発掘調査概報、同第34集 白 川金色院跡・平等院旧境内遺跡
城陽市教育委員会	城陽市埋蔵文化財調査報告書第30、31集
京都府立総合資料館	資料館紀要 第24号、第13回東寺百合文書展 中世京都の町
京都府立丹後郷土資料館	村境の作り物
京都市歴史資料館	京都市の文化財 第8回
京都国立博物館	平成6年度 京都国立博物館年報
綾部市資料館	第4回特別展示「石」
亀岡市文化資料館	第21回企画展『古代人の願い』、亀岡の水車
大山崎町歴史資料館	大山崎町歴史資料館 館報第2号
城陽市歴史民俗資料館	企画展「よみがえる青山古墳群」、城陽市歴史民俗資料館館報 創刊号

佛教大学総合研究所
京都橘女子大学
口丹波史談会
精華町の自然と文化を学ぶ
会

長岡京市史編さん室
加茂町史編さん室
三和町史編さん委員会
(財)泉屋博古館

麻生 優
大野左千夫
櫛 國男
谷本 進
水野正好

宮本長二郎
森川昌和
森島康雄

佛教大学総合研究所紀要 第3号、佛教大学総合研究所報 第10号
京都橘女子大学研究紀要 第22号
丹波史談 平成6・7-特
波布理曾能 第13号

長岡京市史 本文編一
加茂町史編さん室資料調査報告 資料研究第2号
三和町史 下巻(通史編)
泉屋博古館紀要 第十二巻

大寺山洞穴 第3・4次発掘調査概報
和歌山地方史研究 29・30、和歌山市立博物館 研究紀要10
多摩考古 第26号、土の巨人 [多摩歴史叢書4]
歴史と神戸 第35巻第2号
奈良大学平城京発掘調査報告書第2集 平城京左京四条三坊十一坪発掘調査
報告書

日本原始古代の住居建築
「いろ」の研究
出土銭貨 第5号

編集後記

情報61号が完成しましたのでお届けします。

本号では、深澤芳樹氏からお墓と土器についての論考が寄せられ、その前編を掲載することができました。後編は、次号に掲載の予定です。また当調査研究センターでは、毎年、共同研究事業を行っていますが、その成果の一つである篠窯跡群に関する研究も掲載いたしました。今後も、共同研究事業の成果については、掲載していく予定ですので、ご期待下さい。

(編集担当=土橋 誠)

京都府埋蔵文化財情報 第61号

平成8年9月27日

発行 (財)京都府埋蔵文化財調査研究
センター

〒617 向日市寺戸町南垣内40番の3
Phone (075)933-3877 (代)

印刷 中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入
Phone (075)441-3155 (代)



KYOTO
ARCHAEOLOGY CENTER